

# 地域連携推進機構年報

第3号

2016年3月

園田学園女子大学  
園田学園女子大学短期大学部



第二部 経験値教育学生報告「尼崎で学んで」



第三部 パネルディスカッション「エンターテイメントと怪異学—大学で考える忍者・妖怪—」  
山田雄司（三重大大学教授） 榎村寛之（齋宮歴史博物館学芸課長） 京極夏彦（小説家）  
久禮旦雄（本学非常勤講師 / 司会）



平成 27 年度地域志向教育研究報告会 第三部「大学と地域の今後」(2016 年 2 月 11 日)  
船木成記 (尼崎市顧問) 眞鍋和博 (北九州市立大学教授) 大江篤 (本学教授)



大学 COC 事業における政策提言発表会 稲村和美尼崎市長を囲んで (2016 年 3 月 8 日)



地域志向科目「大学の社会貢献」  
第1学期授業風景



地域志向科目「大学の社会貢献」  
第2学期授業風景



庄下川を用いた親水性プログラム 庄下川探偵団  
人間健康学部総合健康学科 (2015年10月30日)



猪名寺忍者学校 歴史術  
人間教育学部児童教育学科 (2015年10月24日)



ハロウィーンスイーツ教室  
短期大学部生活文化学科 (2015年10月31日)



(株)ベンカンによる Tublock モニタリング  
短期大学部幼児教育学科 (2015年11月19日)

地域連携推進機構 **地(知)の拠点**

## 学生の地域活動報告

尼崎市から依頼があり、ほっかほっか亭と本学と学生生協でコラボしました。

メインは鶏肉と野菜の黒酢あんかけで、尼崎市の6地区にちなみ、6種の食材を使用しました。

10月初旬から尼崎市内の15店舗と本学食堂開花亭で発売される予定です！



担当 沼水 舞さん  
食物栄養学科 2年

地域連携推進機構 **地(知)の拠点**

## 学生の地域活動報告

### 第2回 キッズフェスティバル

知(る)×尼(崎)＝つな(がる)  
～つな(が)～る作(戦)Part2～

10月17日に開催された第52回「けやき祭」で、つなGirl主催のキッズフェスティバルが行われました。

今回は園田学園の各学科から7つ、尼崎市内の団体に6つのブースを出展していただき、260名を超える子供たちに参加していただきました。



地域連携推進機構 **地(知)の拠点**

## 学生の地域活動報告

### 尼芋奉納祭

つなGirlは特産品「尼いも」の応援団です。子どもたちにも奉納祭を楽しんでもらえるようなブースをという依頼で『尼いもゆるキャラ選手権』を開催。30人のお子さんがキャラを作ってくれて、その場で大人も子どももひとり一票の投票を依頼。130票以上の投票をいただき、たくさんの地域の方とふれあうことができました。このほか、巫女姿で神事の司会等も行いました。



地域連携推進機構 **地(知)の拠点**

## 学生の地域活動報告

### 大近松祭

10月25日(日)、久々地域の近松記念館で開催された「大近松祭」に、本学近松人形劇部が参加し、近松作品をもとにした人形劇「天鼓」を披露しました。

近松人形劇部は昨年12月に発足、地元の近松応援団による人形劇の道具や台本をひきついで活動しています。

この日は近松門左衛門の命日にちなみ、広済寺での法要や文楽公演、下坂部小学校浄瑠璃クラブによる三番叟などが上演されました。



地域連携推進機構 **地(知)の拠点**

## 学生の地域活動報告

### 尼崎市100周年すこく「われら尼っ子 100th あまろく」

人間教育学部 児童教育学科 大江ゼミの3・4年生が尼崎市制100周年をテーマとしたすこくを作成しました。

市役所にて、12月16日記者発表をしました！新聞社の取材を受けました。



地域連携推進機構 **地(知)の拠点**

## 学生の地域活動報告

### 梅スイーツ

和歌山県田辺市から梅スイーツのレシピの開発を生活文化学科 国際食文化コースに依頼され、2月18日に試食会とレシピ贈呈式が行われました。




## 〈巻頭言〉

本学は、開学以来、建学の精神「捨我精進」に基づき、「他者と支え合う人間の育成」を目指しています。その間、30年以上の生涯学習の歴史を誇り「地域と共に歩む大学」として、地域に開かれた大学づくりを推進してきました。

そのような中、平成25年度に文部科学省の地（知）の拠点整備事業に申請し、「〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム」という事業名で文部科学省の地（知）の拠点整備事業に採択されました。

そこでこれまでのさまざまな地域連携の活動の歴史をふまえ、尼崎市や尼崎商工会議所等と連携しながら、「健康づくり」「学校教育」「生涯学習」「子ども・子育て支援」の領域で、地域と共に地域課題の解決に取り組む教育、研究活動を実施しています。さらに、課題の解決のための教育改革やその体制の構築、そして学生と地域の人々が協働して地域で学び、地域に学び、地域へ学びの還元を行う循環型の経験値教育の実質化を進めています。

その成果の一つとして、平成28年度に約380名の学生が尼崎市をフィールドにしてプロジェクトで取り組む「つながりプロジェクト」というPBL型の必修科目を開講します。

本学ではこの学びをCBL（Community Based Learning）とよび、学生が地域で学ぶことにより、学部、学科の枠を超えた学生間のつながり（Community）ができるとともに、受け入れていただいた地域の方々の中で新たなつながり（Community）も生まれ、学生を核に新たなコミュニティが形成され、地域が活性化されることをめざしています。

これらの活動により、主体的に、多面的に課題に向き合える女性を育成し、本学が地域でかけがえのない存在となり、地（知）の拠点として地域創生の一翼を担うことができると考えています。

本報告書は、平成27年度に実施しました「地（知）の拠点整備事業」の取り組みの成果をまとめたものです。ご高覧いただき、これからの本事業の趣旨並びに取り組みにさらなるご理解、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

平成28年3月

園田学園女子大学  
園田学園女子大学短期大学部  
学長 川島 明子

## 目次

巻頭言	1
目次	2
地域研究報告	3
「尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト開発と実践」	
－運動開始後3か月、運動開始後5ヵ月の効果－	4
庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための親水プログラムの構築実施	8
活動報告	13
平成27年度〈まちづくり解剖学尼崎〉	14
活動報告 No.1 タブレット端末を活用した授業における関心・意欲・態度に関する効果測定	16
活動報告 No.2 地域に向けた手洗い指導の拠点の構築	17
活動報告 No.3 地域資源を活用したまちづくりモデル構築のために基礎的研究	18
活動報告 No.4 地域と大学の連携・協同による子ども・子育て支援者の課題解決	19
活動報告 No.5 地域と取り組む防災教育	20
活動報告 No.6 健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について	21
活動報告 No.7 庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための親水プログラムの構築実施	22
活動報告 No.8 尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト開発と実践	23
活動報告 No.9 地域日本語教育への提言	24
活動報告 No.10 地域に求められる養護教諭養成の在り方	25
学生活動	27
学生地域連携推進委員会～つな Girl～活動報告	28
学生地域連携推進委員会会議事録	29
地域志向教育科目 大学の社会貢献 第1学期	34
地域志向教育科目 大学の社会貢献 第2学期	35
平成27年度 大学COC事業における政策提言発表会	36
優秀卒業論文 要旨	48
フォーラム	55
地（知）の拠点整備事業中間報告会	56
地域志向教育研究中間報告会	62
彙報	67
地域連携推進機構 平成27年度統括会議（地域連携推進機構運営委員会）記録	68
地域連携推進機構 評価委員会議事録	71
平成27年度地域連携推進機構関連事業	74
-----	
地域研究報告	
『浄光寺縁起』について	98（一）

## 地域研究報告



平成 27 年度健康ひょうご 21 県民運動推進阪神南会議総会・研修会（2015 年 7 月 9 日）  
「PAPER PLANE 運動プロジェクト」林谷啓美教授



庄下川の水質調査実験 衣笠治子准教授（2016 年 2 月 3 日）

「尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト開発と実践」  
－運動開始後3か月、運動開始後5ヵ月の効果－

研究代表：林谷啓美、藤澤政美

【はじめに】

日本における65歳以上の高齢者は3186万人(平成25年9月15日現在推計)で、総人口に占める割合は25.0%となり人口、割合共に過去最高となった<sup>1)</sup>。尼崎市は、平成27年2月現在で総人口が約44万人であり、そのうち65歳以上の高齢者27.1%、75歳以上の高齢者が12.4%を占めている<sup>2)</sup>。また、男性の一人暮らしが20%と多く、高齢者のみの世帯も多い<sup>2)</sup>ことが特徴である。この人々は、地域との関わりが希薄になりがちであり、健康の保持や生活に関するサポート等が課題である。

現在、日本の高齢者においてはサルコペニア(骨格筋減少症)<sup>3) 4) 5)</sup>が問題となっている。それにより、身体能力が低下し、歩行が困難となり日常生活の範囲が縮小される。また、転倒しやすくなり、骨折するとそれが引き金となり寝たきりになることや、認知症が悪化する可能性もあると指摘されている。できるだけ、高齢者が今の身体能力を維持することにより要介護状態にならないようにすることが重要であり、そのために、日ごろから筋力や体力の維持のための運動を積極的に取り入れる必要がある。その運動を通して人との交流が促進され、その運動を継続することができるのである。そのことにより、尼崎市に住む高齢者が住みなれた街で健康に、その人らしい生活を送ることができると思う。

サルコペニアについては、ADLやIADLなどの生活機能と関連することが報告されており、サルコペニアの予防に取り組むためには、サルコペニアを起こしやすい日常生活因子、現在、とくに世帯状況や生活習慣、心理状況、口腔食事の状況などの日常生活状況との関連について把握しておくことが必要である<sup>6)</sup>ことが明らかになっている。

今回、尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクトとして、「PAPER PLANE 運動プロジェクト」を立ち上げ、社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会、公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団、公益財団法人尼崎健康医療財団市民健開発センターハーティ21、地域活動支援センター

Reverbと連携・協働し、オリジナル音楽・運動を考案した。そして、地域でそれを実践し、その効果を検証したところ、オリジナル運動開始後3か月、運動開始後5ヵ月の結果が明らかになったため、ここに報告する。

【目的】

尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクトにおける運動開始後3か月、運動開始5ヵ月後の効果を明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

1. 研究協力者

研究協力者は、尼崎市在住で、研究協力の同意が得られた65歳以上の高齢者とする。尼崎市老人福祉センターを利用する高齢者200名とし、要介護・要支援認定を問わない。



2. 調査期間：平成 27 年 1 月～平成 27 年 9 月

3. データ収集方法

1) 運動プロジェクトの概要

(1) 運動プロジェクトについて

①平成 27 年 1 月より尼崎市老人福祉センター 3 か所 1 クラス 50 名×4 クラスにて運動プロジェクトを開始した。

②1 週間に 1 回、約 1 時間のプログラムである。

③プログラムは、オリジナル音楽に合わせた準備運動 (5 分)、リズム運動 (10 分)、筋力運動 (30 分)、整理運動 (5 分) からなる。

④そのオリジナル運動の効果について、3 ヶ月後、5 ヶ月後に測定する。

なお、使用する音楽は、すべて、オリジナルであり、すでに日本音楽著作権協会 (JASRAC) に登録している。



(2) 身体測定・体力測定の内容

①身体測定：血圧・骨密度・筋肉量・身長・体重・体脂肪率・基礎代謝量・内臓脂肪・BMI

②体力測定：握力・椅子の座り立ち時間 (椅子の座り立ちを 10 回行い、その時間を測定する) 開眼片足立ち、Timed Up & Go Test、5m 通常歩行速度、5m 最大歩行時間、上肢挙上反復運動、長座体前屈



(5) 身体測定・体力測定の所要時間：1 人あたり約 30 分程度とする。

(6) 骨密度・体重・体脂肪率・筋肉量・基礎代謝量・内臓脂肪については、タニタの体組成計を用いる。一般に広く使用されているため、測定による研究協力者への身体侵襲の可能性は極めて低い。

(7) 身体測定・体力測定担当

研究者 1～2 名、施設スタッフ 2～3 名、約 5 名の学生アルバイトを配置し、研究協力者の安全に配慮する。

2) データの分析方法

まずは、平均年齢、年齢分布を明らかにする。オリジナル運動プロジェクト開始前、運動開始 3 か月後、運動開始後 5 ヶ月でそれぞれの項目の測定値を比較し、運動の効果を見る。項目毎に効果あり、維持、効果なしの人数の割合で運動の効果を見る。

3) 倫理的配慮

研究者から研究協力者である高齢者に対して研究内容を説明し、本研究への協力意思を確認した。承諾の得られた高齢者に対して調査の詳細と目的を文章で説明し、同意を得た。説明文には、研究に使用するデータは研究以外で使用することはなく、個人が特定されることもないこと、研究協力を拒否しても、不利益をこうむることがないことを明示し、同意書にサインしてもらった。本研究の協力者の個人情報、個人が特定できないように ID 番号で管理し、第三者にはわからないように配慮する。

データの入力及び分析はインターネットに接続されていないコンピューターを用い、個人が特定されないようにコード化し統計処理を行う。測定データ、分析資料は鍵のかかる研究室に保管し、持ち出さない。また、研究以外の目的で使用しない。研究終了後は、測定データおよび分析資料は、

シュレッダーにて嚴重に破棄する。

本研究は、園田学園女子大学生命倫理審査委員会の承認を得て行った。

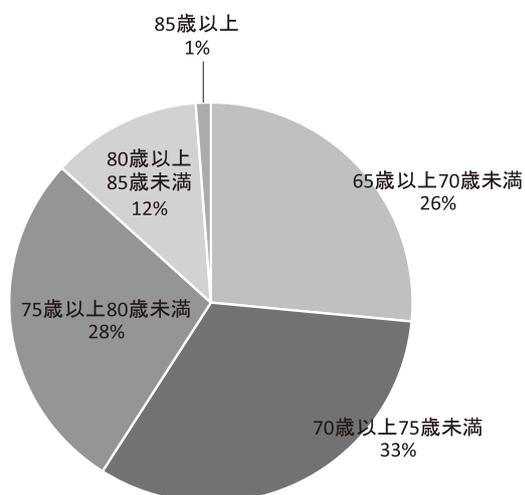


図1 研究協力者の年齢

表1 研究協力者の年齢 (名)

65歳以上70歳未満	22
70歳以上75歳未満	27
75歳以上80歳未満	23
80歳以上85歳未満	10
85歳以上	1

## 【結果】

### 1. 研究協力者の概要

研究協力者は、65歳以上の高齢者83名であった。女性82名、男性1名で平均年齢は、73.5歳(65歳～87歳)であった。研究協力者の年齢分布は表1のとおりである。

また、研究協力者の年齢割合は、図1の通りである。

### 2. オリジナル運動実施前と実施3ヶ月後実施5ヶ月後の比較

#### 1) 身体測定について

表2は、運動開始前、運動開始後3ヶ月、運動開始5ヵ月における研究協力者83名の平均値を比較したものである。骨量と基礎代謝量がやや減少しているが、それ以外の項目に関しては、運動開始後3ヶ月、運動開始5ヵ月ともに効果があった。

表3、図1は、運動実施前と運動開始5ヶ月後の変化について、効果あり・現状維持・効果なしの人の割合を示している。

体重、BMI、体脂肪率、筋肉量、基礎代謝においては、50%以上の人に運動の効果があった。骨量については、現状維持を含めると80%以上、内臓脂肪については、現状維持も含めると90%以上の人に効果があった。

#### 2) 体力測定について

表4は、運動開始前と運動開始後3ヶ月、運動

表2 運動開始前、運動開始後3ヶ月、運動開始後5ヵ月の平均値の比較

	体重(kg)	BMI(kg/m <sup>2</sup> )	体脂肪率 (%)	筋肉量 (kg)	骨量 (kg)	内臓脂肪 (kg)	基礎代謝 (kcal)
開始前	51.9	22.7	31.1	33.6	2.1	7.3	1029
開始後3ヶ月	51.7	22.5	30.0	33.9	2.0	7.1	1025
開始後5ヶ月	51.4	22.4	29	34.2	2.0	7.1	1019

表3 運動開始前と運動開始後5ヵ月の変化 (人数)

	体重	BMI	体脂肪率	筋肉量	骨量	内臓脂肪	基礎代謝
効果あり	57	54	71	57	41	34	52
現状維持	2	5	1	2	28	41	2
効果なし	24	24	11	24	14.0	8	29

表4 運動開始前、運動開始後3ヶ月後、運動開始後5ヵ月後の平均値の比較

	握力(右) (kg)	握力(左) (kg)	椅子座り立ち (秒)	開眼片足 (秒)	timed up&go (秒)	5m通常速度 (秒)	5m最大歩行 時間(秒)	ファンクシオ ナルリーチ(cm)	長座体前屈 (cm)
開始前	21.7	20.3	17.7	66.1	7	3.7	3.1	36	35.0
開始後3ヶ月	22.1	20.4	17.1	68.8	6.9	3.6	2.9	36.1	39.2
開始後5ヶ月	22.1	19.8	27.1	68.5	6.9	3.4	2.8	35.4	39.1

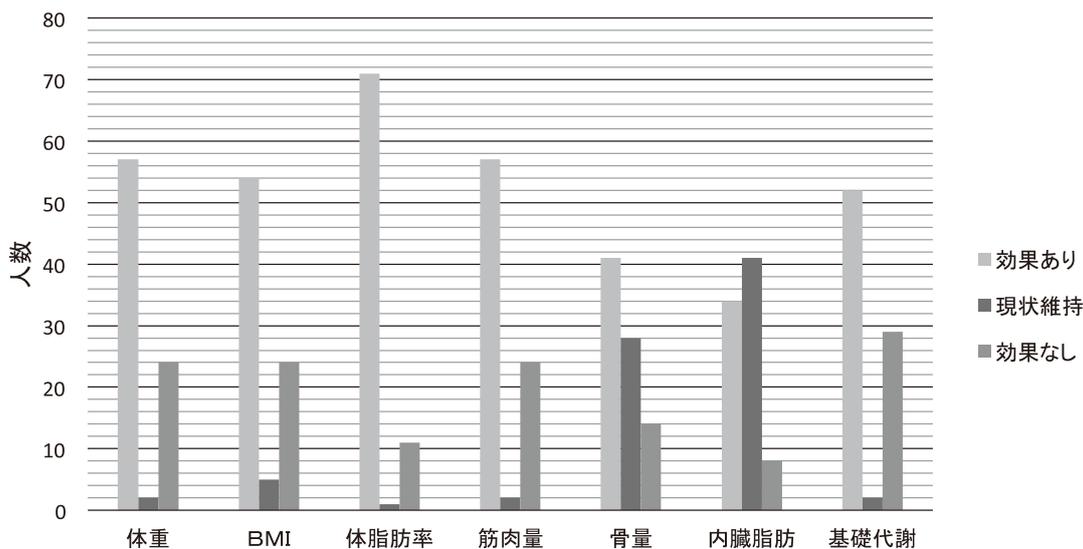


図2 運動開始前と運動開始5ヵ月の変化

開始5ヵ月における研究協力者83名の平均値を比較したものである。効果があったのは、握力(右)、開眼片足立ち、timed up & go、5m通常速度、通常最大歩行時間、長座体前屈であった。それ以外の項目についても僅差となっている。

### 【考察】

身体測定、体力測定の結果、オリジナル運動は、運動開始後3ヵ月後、5ヵ月後の経過はおおむね良好である。特に、高齢者においては、老化により筋肉量は減少するがそれを増やすことができたことは特筆すべきことである。それらの結果をふまえて今後、詳細な分析をしていき、その効果とともに運動を地域に広めていきたいと考えている。また、中長期的な効果についても確認していく必要がある。

### 【おわりに】

平成27年度は、オリジナル音楽・運動の実施とその効果を検証した。運動の効果が明らかになった。今後も関係機関と連携・協働しながらさらに普及することにより尼崎市に住む高齢者の筋力向上とコミュニティの拡大を目指す。それらが高齢者と当大学学生との交流の機会とし、街の活性化につなげたいと考えている。

本研究にご協力いただきました尼崎市民の皆様へ深く感謝いたします。

なお、本研究は、地域志向教育研究(つながりプロジェクト)の一部として研究費助成を受けて

実施している。

### 【連携研究機関】

社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会  
 公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団  
 公益財団法人尼崎健康医療財団市民健開発センターハーティ 21  
 地域活動支援センター Reverb  
 医療法人達磨会 東加古川病院 田中 諭  
 神戸大学 グライナー智恵子

### 【引用文献】

- 1) 総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi721.htm>
- 2) 兵庫県, 兵庫県高齢者保健福祉関係資料, [web.pref.hyogo.lg.jp/hw07/documents/02chiikibetu.xls](http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw07/documents/02chiikibetu.xls)
- 3) 臺 美佐子, 西澤知江他: 地域住民の女性に対する筋肉量と骨量の評価および健康行動との関連: サルコペニア予防にむけた保健指導の必要性, 金大医保つるま保健学会誌, 37 (1): 55-61, 2013.
- 4) 谷本芳美, 渡辺美鈴他: 地域高齢者におけるサルコペニアに関連する要因の検討, 日本公衆衛生雑誌, 60 (11): 683-690, 2013.
- 5) 佐藤慎, 大城昌平: サルコペニアとリハビリテーション, リハビリテーション科学ジャーナル, 8: 108-115, 2012.
- 6) 谷本芳美, 渡辺美鈴他: 地域高齢者におけるサルコペニアと生活機能との関連について, 大阪医科大学, 70 (3): 57-63, 2011.

## 庄下川の河川環境を利用した児童生徒のための親水プログラムの構築実施

研究代表：衣笠治子

教育研究分担者：近藤照敏、山本起世子

西村邦子（尼崎市立衛生研究所 所長）

松浦秀一（尼崎市経済環境局環境部環境保全課環境監視センター 所長）

### はじめに

庄下川（図1）は、本学の北西の南塚口8丁目で3水路（東富松川、富松川、西富松排水路）が合流し庄下川の始点となる。西富松排水路は、武庫川六樋からの水も含む支流である。尾浜町で、昆陽池を水源とする昆陽川と合流し、尼崎市を縦断する河川である。本学西側付近では、側道が整えられ、近隣住民がウォーキングや散策を楽しむアメニティゾーンとして整備されている。

2008年より、ゼミの活動として行ってきた、親水性の向上を目的とした庄下川アメニティプロジェクトは、総合健康学科の学生が中心となって、地域や本学学生とつながり、大学での研究成果を地域に還元すること、また地域のニーズを知り研究活動に生かすことを目的としてきた。具体的には清掃活動、庄下川の水質や生物などを紹介したプロジェクト通信の発行、地域住民や本学学生対象に、河川環境を利用した健康増進プログラムの提供などである<sup>1</sup>。1km弱のアメニティゾー

ンであるが、河川環境を健康増進活動に利用することで、緊張や抑うつが軽減されることも明らかになった<sup>ii,iii</sup>。また、2012年に幼児対象に行った庄下川散策プログラムでは、企画した学生だけでなく、ボランティアとしてプログラムに関わった学生自身も楽しんでた。そして、幼いころに川や自然で遊んだ経験のある学生は、親水意識が高いという結果を得ている<sup>iv</sup>。本学付近の庄下川アメニティゾーンは都会にあって身近な自然を楽しめる場所として利用価値が大きいと考える。

### 2. 研究の目的

2013年に実施した小学生対象の親水プログラム「庄下川たんけん」<sup>v</sup>で、小動物や植物の資料が不足していること、プログラム運営に携わる大学生リーダーの資質の向上が必要であることがわかった。そこで2014年度は生物調査を実施し、季節ごとに庄下川アメニティゾーンで観察できる植物、小動物の同定を実施した<sup>vi</sup>。2015年度は、この生物調査の資料を利用し、幼児を対象とした親水プログラムの構築実施、また同時にプログラム実施のための大学生ボランティアリーダーの養成を行うことを目的とした。また、河川の基本的な性格を知るための水質モニタリングは、尼崎市が発表している環境モニタリングデータと比較するため、水質検査の方法と項目の検討を尼崎市立衛生研究所および尼崎市経済環境局環境部環境保全課環境監視センターと協力して行うこととした。

### 3. 水質モニタリング

#### (1) 方法

庄下川アメニティゾーンでの継続的な水質調査の採水は上生嶋橋の中央からバケツで表層水をくみ上げ実施した。測定時期は4月から10月（2015年は6月～10月）まで週1回実施した。項目は気温、水温、DO、BOD、pHである。DOおよびBODは、DO計（HORIBA OM-51）を用いて測定した。pHは、pH計（HORIBA D-51）、

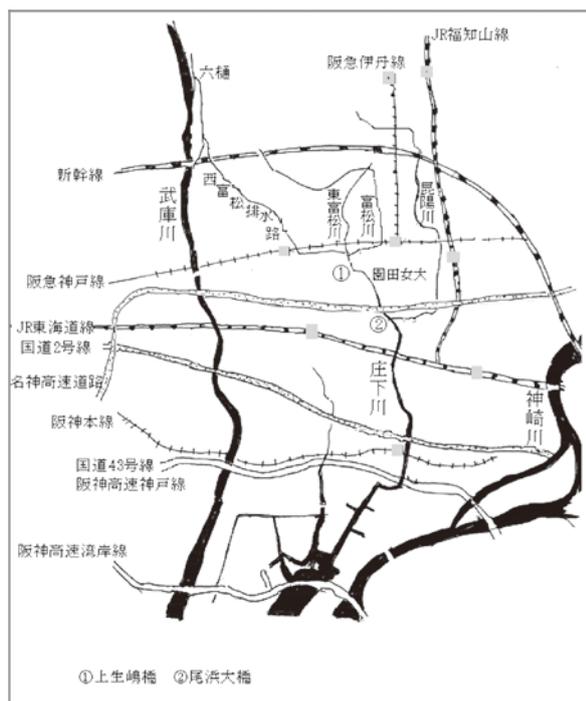


図1 庄下川流域図

CODは共立理化学研究所製、低濃度CODパックテストを用いた。透視度は透視度計（共立理化学研究所 クリンメンジャー 1300）を用いて測定した。

(2) 結果と考察 <sup>vii, viii, ix</sup>

上生嶋橋付近の4月から10月までの気温は16～36℃、水温は15～32℃、透視度は60～130cmであった。また、CODは4～13であった。水質検査項目のうち、pH（図2）、DO（図3）、BOD（図4）については、月ごとの平均値を求め、年次変化を示した。加えて、尾崎市の庄下川モニタリングデータから、尾浜大橋（2014年）<sup>x</sup>のデータを抜粋し図2～4にプロットした。庄下川の水質は、1990年ごろから改善に向かい、2014年の尾崎市の調査では、尾浜町以南の測定地点の年間

平均BOD値1.3～1.8、pH7.6～8.0、DO8.0～9.5と報告されている。

上生嶋橋での、2009年、2012年、2014年、2015年のpH値、DO値、BOD値を分散分析で比較したところ、3つの項目は、年度による統計的有意差は得られなかった。しかし、上生嶋橋より下流1kmの尾浜大橋のpHは7～8、BODは2以下となっており、上生嶋橋の測定値より低かった。DO値には大きな違いはみられない。南塚口8丁目、7丁目付近は水深が10cm程度のところもあり、流速も遅い。日光が直接差し込み、水生植物による光合成が活発となり、水中のCO<sub>2</sub>が減少することにより、pHが高くなると推察している。尾浜大橋でのpH値は7～8であることより、下流1kmの間にpHが変化することについては、さらに調査が必要である。

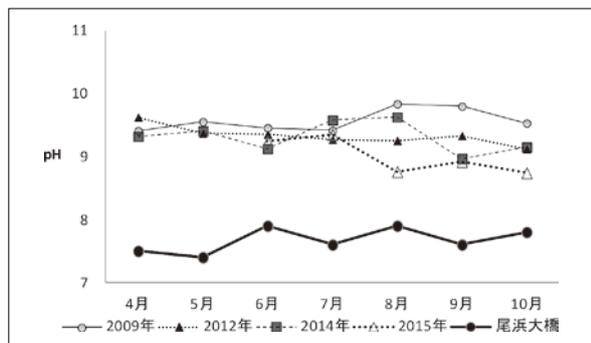


図2 庄下川上生嶋橋のpHの年次変化

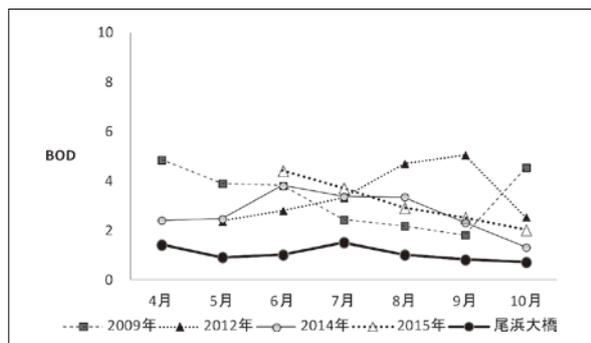


図3 庄下川上生嶋橋のDOの年次変化

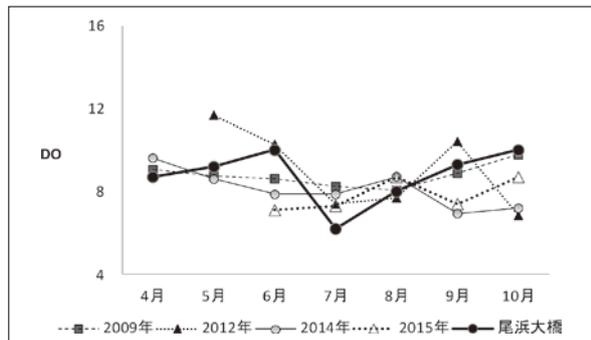


図4 庄下川上生嶋橋のBODの年次変化

#### 4. 幼児を対象とした親水プログラムの構築と実施

##### (1) 親水プログラム対象者

尾崎市内の私立幼稚園年長児 30名、尾崎市立保育所2園年長児(それぞれ23名)を対象とし、2015年10月に3回の親水プログラムを実施した。

##### (2) 準備

①秋季にみられる庄下川アメニティゾーンの植物、小動物の確認

運営に携わる学生が中心となって、2014年に作成した動植物の図鑑を資料とし、現地を確認した。遊歩道から確認できた植物は26種、昆虫6種、魚類3種、鳥類9種、爬虫類3種であった（表1）この中からジュズダマ、イヌタデ、エノコログサ、ツククサ、カモの5種類を選び幼児に見つけてもらうこととした。

②大学生ボランティアリーダーの募集と研修内容

幼稚園、保育所の担任と打ち合わせをしながら、プログラムの概要を決めた後、親水プログラムを実施するための大学生ボランティアリーダーを本学学生から募り、集まった42名の学生に対し研修を行った。研修のための資料は、先行研究<sup>4,5</sup>よりリーダーが何に困ったか、プログラム進行上の問題点などを抽出した後、対応できるような内容とした。また、秋にみられる動植物の写真と名称、植物遊びの方法なども添付した。研修は1人が90分、3回の研修を受けてもらうこととし、1回目はルートの確認、2回目はエノコログサや、ジュズダマなどを使った植物遊びや、水

表1 2015年秋季に庄下川で確認した動植物

植物		小動物	
アベリア	イモカタバミ	イボバッタ	アオサギ
アメリカセンダングサ	ジュズダマ	オンブバッタ	カルガモ
イスタデ	ススキ	ツマグロヒョウモン	カワウ
イノコヅチ	タマスダレ	モンシロチョウ	コサギ
エノコログサ	ツユクサ	シオカラトンボ	ダイサギ
オオイヌタデ	ハゼラン	シジミチョウ	スズメ
オーシャンブルー	ヒガンバナ	コイ	ハクセキレイ
オシロイバナ	ホシアサガオ	ナマズ	ハト
カゼクサ	ミゾソバ	ニシキゴイ	ヒドリガモ
カナムグラ	ミント	クサガメ	
カンサイタンポポ	ヨシ	シマヘビ	
コニシキソウ	ヨモギ	ミシシippアカミミガメ	
コヒルガオ	ランタナ		

質のことについて知る、3回目は実際にリーダー役、幼児役になってリハーサルを行う形とした。それぞれの研修後には、リーダー自身が気づいたプログラムの問題点などを話し合い、改善していった。

(3) 親水プログラムの実施

プログラムは幼児数名とボランティアリーダー数名でグループを作り、庄下川アメニティゾーンおよそ600mを、生き物を見つけながら散策する40分のもので「しょうげがわたんでいだん」と名付けた。スケジュールは図5に示した。幼児ははじめに指定しておいた、5つの生き物を探すだ

けでなく、リーダーに促されながら、ヘビの抜け殻や、増水に注意する看板、ゴミなども見つけていた。また植物遊びも楽しんでた。

(4) アンケート結果

プログラム後の大学生ボランティアリーダー対象のアンケートより、大学生自身もプログラムを楽しんだこと、リーダーシップを発揮することに自信がついた、研修内容を生かしたとの回答があった。

謝辞

このプログラムの構築と運営を中心になって行った、総合健康学科4年生大林理紗さん、松本彩花さん、ボランティアリーダーとして参加して下さったみなさん、研究を助けていただいた原田美智子さん、松井恵理さんに深謝いたします。

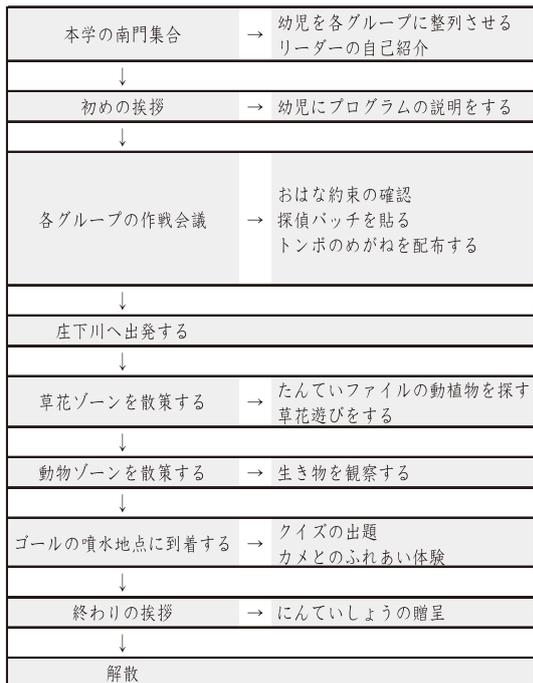


図5 親水プログラムスケジュール

i 衣笠治子「大学生による多目的な河川研究」武庫川の科学 1, (1), p8 (2013)

ii 衣笠治子、足立学、島田千春、和田結希、十代田彩「尼崎市庄下川の河川環境を利用したウォーキングプログラムの気分変化」、園田学園女子大学論文集 46 p25-32 (2012)

iii 足立学、衣笠治子、近藤照敏、島田千春、和田結希「河川環境を利用したウォーキングプログラムの考案」園田学園女子大学論文集 46 p13-23 (2012)

iv 衣笠治子、白井瑠美子、高井梓、堀江季里「河川環境を利用した幼児対象の親水プログラム」武庫川市民学会第1回研究発表会要旨集 (2012)

v 衣笠治子、原田美智子、松浦友里恵、丸山裕子「小学生を対象とした庄下川親水プログラム」武庫川市民学会第2回研究発表会要旨集 (2013)

- vi 松井恵理、衣笠治子、岩角遙、原田美智子「児童のための庄下川学習プログラムの作成」武庫川市民学会第3回研究発表会要旨集（2014）
- vii 岩角遙、衣笠治子、松井恵理、原田美智子「庄下川水質検査について（2014年度）」武庫川市民学会第3回研究発表会要旨集（2013）
- viii 衣笠治子「庄下川の水質モニタリング」平成27年武庫川市民学会第4回研究発表会要旨集（2015）
- ix 衣笠治子、岩角遙、吉田美帆、荒川美月「尼崎市庄下川の水質モニタリング」武庫川の科学 3, (2), p29-33（2015）
- x 尼崎市 HP「平成26年度における環境の現状」  
[http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/dbps\\_data/\\_material/\\_files/000/000/004/101/26genkyou270731.pdf](http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/004/101/26genkyou270731.pdf)



## 活動報告



第6回まちづくり解剖学 若者・いのち守り隊～私たちにできること～ (2016年1月7日)  
於・園田学園女子大学5号館2階チャティ



健康意識の高いまちづくりのための「食の健康協力店利用に関する調査」  
於・尼崎市立老人福祉センター

地域連携推進機構活動報告  
平成 27 年度〈まちづくり解剖学尼崎〉

平成 22 年からスタートさせた〈まちづくり解剖学—尼崎—〉を平成 25 年、学長を機構長とする「地域連携推進機構」の発足を機に学内の教職員（看護、健康、栄養、子育て、教育など）、市役所、地域の方々と一緒に改めて地域の研究会を開くこととなった。〈まちづくり解剖学尼崎〉への発展である。これによって平成 25 年からは、主催を園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部地域連携推進機構とし、共催を尼崎市、尼崎商工会議所とで運営を行っている。

主な目的としては、

- 地域社会、大学、行政それぞれが抱える課題を共有する。
  - これまでの取り組み、問題点・改善点を明確にしていくことで今後に向けての構想、行政の役割を理解、自分自身に何ができるのか考える。
  - 実施方法は、一つの地域の課題に対して異なる立場の方々からそれぞれのお話を聞くことで理解を深め、発言することで参加者みんなの意見を聴き自分の考えをまとめる。
- として、隔月に行っている。

#### 第 1 回

日時：2015 年 4 月 30 日（木）17：20～18：50

場所：園田学園女子大学 チャティ

発表者：

1. 台湾への留学 古澤真衣（人間看護学科 4 年）  
「開南大学で学んで」
2. ニュージーランドでの 3 週間（海外研修学生グループ発表）「短期海外研修に参加して」
3. フィリピンでの 1 か月 丹羽野祐菜（総合健康学科 4 年）「海外学校ボランティアを体験して」

参加者：13 名

#### 第 2 回

日時：2015 年 5 月 14 日（木）18：15～20：00

場所：園田学園女子大学 チャティ

発表者：

1. つな Girl の平成 26 年度活動報告と平成 27 年度活動予定

発表者：園田学園女子大学学生地域連携推進委員

会（つな Girl）

2. 本学での尼崎市制 100 周年事業について

「尼崎百物語」・「市制 100 周年すごろく」

発表者：人間教育学部児童教育学科

教授 大江 篤・大江ゼミ生

参加者：23 人

#### 第 3 回

日時：2015 年 7 月 23 日（木）17：15～19：00

場所：園田学園女子大学 チャティ

発表者：平成 27 年度前期「大学の社会貢献」履

修学生、授業内コンペ上位チーム

テーマ：学生によるプロジェクトプラン発表

参加者：34 人

#### 第 4 回

日時：2015 年 9 月 24 日（木）18：15～20：00

場所：園田学園女子大学 チャティ

発表者：「学ぶまち尼崎の実現」、ボランティアと

して関わった学生、講師として関わった教員、

実行委員として関わった職員

テーマ：みんなのサマーセミナー「大学として関

わった意見・提言」

参加者：15 人

#### 第 5 回

日時：2015 年 11 月 12 日（木）18：15～20：00

場所：園田学園女子大学 チャティ

発表者：大江篤教授（地域連携推進機構 副機構長）

押領司哲也氏（京都文教大学 フィールドリサーチオフィス課長）

テーマ：地域とつながる大学～大学が地域に発信

できること、地域が大学に求めること～

参加者：36 人

#### 第 6 回

日時：2016 年 1 月 7 日（木）18：15～20：00

場所：園田学園女子大学 チャティ

発表者：

人間健康学部総合健康学科 江壽和子教授

人間健康学部総合健康学科養護コース 3 年次生

・沖田彩弥佳 ・川瀬里紗 ・竹田晴賀

・中井汐里 ・野木美緒 ・森田千尋

・安川 優 ・山下あかね

テーマ：若者・いのち守り隊～私たちにできるこ

と（若者の自殺予防支援を考える）～

参加者：27人

## 第7回

日時：2016年3月11日（木）13：30～15：30

場所：園田学園女子大学 ラーニングcommons

発表者：

山口昇次氏（戸ノ内社会福祉連絡協議会）、

橋本雅生氏（東大島社会福祉連絡協議会）、

山本起世子教授（総合健康学科）

野呂千鶴子教授（人間看護学科）

テーマ：防災・減災シンポジウム「大学が地域に

発信できること、地域が大学に求めること」

参加者：19人

この一年間実施してきた結果としては、地域、一般の方々からの意見として、

地域の課題が地域で解決できないことがある。それに入って行って、本当に解決できるのか？祭りに参加するなどのボランティアの域を出ないことが多いので、今後はもっと深いところに入っていくことを望む。地域もまた入ってきてもらう準備を考えればなおよいのではないか。いかに知るかや、後輩につなげていくことの大切さ、積極的に自分達から問題を探しに出ることが大切。また、地域側にも責任があり、入ってきてよかったと思えるように企画を考え安心して学生さんたちが来てもらえるようにする。そこには、地域として育てる気持ちも必要と考えている。

という意見がある一方で、

ボランティアは、いったいどういった立場か、再度ここにきて考える必要がある。ただ単なる安価な労働力ではない。年ごとに学生個々は変わるのであるから一緒にまちづくりをするパートナーでもない。しかし、まちづくりには、若い力、考え方は欠かせない。

社会が学生を受け入れる土壌（育てようという意識）がなくてはお互いが不幸となる。学生それぞれに問題意識を持たせ高めていくことの難しさを感じつつも、“継続は力なり”として小さいながらも学生が地域を取り上げ、地域を見つめることの大切さを見守り、育てていくことの必要性を感じた。

（文責：地域連携推進機構 榎本匡晃）

## はじめに

近年、社会の情報化に伴い学校教育における教育方法も変化を求められており、将来の One to One のタブレット端末導入への足がかりとなる取組の重要性が指摘されています。そこで、本研究では初等中等教育の教科指導において ICT を導入し、その効果検証を調査の目的に設定しました。具体的には尼崎市立名和小学校、尼崎市立小田北中学校において大型モニタや実物投影機、タブレット端末を導入した授業を実践し、児童・生徒の授業への関心・意欲・態度との関係性について調査をしました。ここでは、中学校の事例を中心に効果検証の結果を報告します。

## 研究成果

授業では、1年生を対象に1グループ(4人)に1台のタブレット端末を配布し、1次関数の単元でグラフのシミュレーションや他者との教え合いを通して生徒自身が  $y=ax+b$  の  $a$  や  $b$  の意味を自ら発見できるような授業を展開しました。

生徒 162 名に授業を受ける態度や数学に関する興味関心、ICT に関する質問紙調査(全 24 問)を単元の前と後で実施し、t 検定を行いました。

その結果、授業で楽しく学習する(2)、進んで参加する(3)など授業に対する意欲を示す項目や他者と協力しながら学習する項目(11~13)、タブレット端末を活用した発表に関する項目(14)等の点数が有意に高くなっている事を確認しました(表1)。

本研究では、変数それぞれの変化は明らかになったものの、タブレット端末活用と変化の因果関係までは明らかになっていません。また、タブレット端末の具体的にどのような機能が生徒の成長に関係しているのかも、十分に明らかになっていません。今後は、上記2点について再調査をすると共に、現場の先生方と協力してタブレット端末活用の効果を異なる視点から明示していく事が課題です。

表1 中学校の質問紙調査結果(対応のある平均値の比較) \*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$ 

	学習前		学習後		t 値
	Mean	SD	Mean	SD	
(1)集中して参加する	2.45	0.86	2.91	1.00	4.73**
(2)楽しく学習する	2.11	0.93	2.84	1.05	6.30**
(3)進んで参加する	2.13	0.84	2.68	1.06	5.09**
(4)内容がよく分かった	2.11	0.88	2.74	1.03	6.34**
(5)相談し、新しい考えを見つける	1.88	0.79	2.55	1.09	6.43**
(6)考え・意見を分かり易く伝える	1.61	0.83	2.39	1.07	7.43**
(7)考えを深める	1.85	0.87	2.55	1.00	6.98**
(8)必要な情報を見つける	2.08	0.87	2.72	1.07	5.87**
(9)学習内容を深く追及したい	1.55	0.79	2.40	1.13	8.00**
(10)自分の考えをノート等を書く	1.95	0.86	2.64	1.07	6.40**
(11)人と協力して学習する	1.84	0.86	2.73	1.08	8.76**
(12)グループ学習に進んで参加する	1.80	0.84	2.70	1.09	9.24**
(13)他者と教え合う	1.96	0.84	2.63	1.14	6.38**
(14)タブレットを使って発表したい	2.09	1.09	2.35	1.20	2.35*
(15)タブレットは文字や絵を書き易い	2.45	1.08	2.69	1.14	2.22*
(16)グラフを見ると式を予測する	1.95	1.16	3.02	1.06	9.84**
(17)数式をグラフに書く	2.22	1.29	3.35	1.01	9.12**
(18)必要な情報を見つけグラフに書く	1.98	1.12	3.07	1.01	10.49**
(19)必要な情報を見つけ式に書く	2.02	1.13	3.01	1.08	9.56**

## 地域に向けた手洗い指導の拠点の構築 ～公民館を拠点とした手洗い講習会～

研究代表：山本恭子

共同研究者：木村保司、田渕正樹、熊谷桂子、茅野友宣

### 【はじめに】

インフルエンザやノロウイルス感染症は毎年流行し、人々の生活に大きな影響を与えている。これらの感染症では、ほとんどの患者が家庭で療養することから、大流行を防ぐためには地域における感染対策が必要である。そこで、本研究では公民館を拠点とした手洗い講習会を開催し、地域住民の参加状況と手洗いに対する意識を調査し、より有効な感染対策の拠点について検討した。

### 【方法】

尼崎市内の全公民館（6公民館）に感染予防のための手洗い講習会の開催を依頼した。より多くの参加を促すために、健康講座と手洗い講習会を同時に開催した。

健康講座：「緑茶の健康科学」「骨粗鬆症」「コレステロール」「痛風」「認知症」の中から各公民館で1つ選んでもらった。

手洗い講習会：インフルエンザ、ノロウイルス感染症の概要と対策について説明し、感染対策に向けての手洗いの重要性を理解した上で、蛍光ローションを使用した手洗い効果の検証実験を行い、ポスターを使用して有効な手洗い方法を説明した。

手洗いに関する意識調査：講習会終了後、アンケートにより行った。

### 【結果】

参加状況：現在までに4公民館での開催を終えた。今年度、残りの2公民館での開催を予定している。チラシによる参加を募ったところ、中央公民館10名、園田公民館20名、武庫公民館18名、大庄公民館4名、合計52名の参加であった。年齢は60才代が44.2%、70才代が38.5%と多かった。

手洗い講習会の効果：手洗い講習会前、感染症を防ぐために手洗いが重要だと思っていたか、の問いに対して思っていたが65.4%、なんとなく思っていたが28.8%であったが、講習会受講後は思うが98.1%となり。ほとんどの人が確実に認識するようになった。以前に感染予防のための手洗い方法を習ったことがない人が約8割で今回のような手洗い方法をあまり知らなかった人、知らな

かった人を合わせると約3割であった。ポスターを使用した説明はほとんどの人がよく分かったと答えた。蛍光ローションを用いた手洗いの検証実験の感想では、自分の手洗いの不十分さに気がついたという記載が73.1%にみられ、その他では視覚的に見ることができて良かった、面白かったという記載も見られた。さらに、全ての人講習会で得られた知識を誰かに伝えたいと思っており、家族以外にもボランティア関係の仲間、友人、職場などが挙げられていた。

### 【考察】

今年度、尼崎市の全ての公民館に協力していただくことができ感謝している。手洗いは日常的に習慣化している行為であるが故に、「手洗い講習会」というだけでは人が集まりにくい。そこで今回は健康講座と合わせて人を呼び込んだ。その結果講習会前はそれほど関心を持っていなくても、講習会を受けることで手洗いの重要性を認識することができ、手洗い技術も伝えることができた。このことから、地域ぐるみの感染対策をめざすためには、いかにして人を呼び込むかが鍵となると考える。骨密度測定を実施すると、多数の参加が見込まれることが分かっているので、今後、骨密度測定と同時に開催することも検討したい。また、我々が目的としていることは参加者に、感染予防のための手洗いを広めてもらうことであるが、ほとんどの人が誰かに伝えたいと思っていることから、ポスターを持ち帰って配ってもらうことも有効ではないかと考える。



## 地域資源を活用したまちづくりモデル構築のために基礎的研究 —歴史文化遺産としての民俗文化財の発掘—

研究代表：大江篤

共同研究者：岩崎日出男、久禮旦雄、久留島元、岡本真生、今井秀和

### 研究目的

尼崎市のシティプロモーション指針に、尼崎市は「①実態と違うイメージを持たれている。②まちの魅力が十分に伝わっていない。③地域の個性(エリアごとの特徴)が魅力に結びついていない。④子育てファミリー世帯の転出超過の原因と考えられる治安や教育の問題」の4つの課題があげられている。

この課題を解決し、魅力あるまちづくりを推進していくために、地域の資源としての歴史文化遺産を発掘し、地域住民の手で活用できるように基礎的なデータを収集するとともに、まち歩きやボランティアの人材育成等の企画を行うことを目的とする。

### 研究計画

3年目となる平成27年度は、これまでの研究成果をふまえた伝説、伝承のデータベースをもとに、書籍刊行を準備した。書籍は『尼崎百物語』と題し、平成28年の尼崎市制100周年にあわせ3月に刊行予定。また、北九州市立大学による地域連携事業の視察、兵庫県豊岡市における地域力向上プログラムを実施した。

### 研究成果

①大江篤編著『尼崎百物語』(神戸新聞総合出版センター)刊行。

伝説データベースをもとに、尼崎の6地区にまたがる100話を選定。尼崎市立地域研究史料館と連携し、神戸新聞総合出版センターから刊行を予定して、製作中である。本書は尼崎にまつわる伝説、伝承を紹介するとともに、研究成果をふまえたブックガイド、伝承地をめぐるまちあるきマップとしての性格を備える。それにより読者に地域の魅力を伝え、能動的な学びを喚起するよう企画した。また100話の紹介とは別に尼崎の地域伝承の性格を明らかにするため、「土地の記憶を伝承すること」「水神信仰と住吉大社」「近世・近代の「怪談」文化」「各地の残念さん信仰」をテーマとした論考を収めている。

大江篤は、福崎町文化財フォーラム「福崎町の民俗文化財 - 未来につなぐ地域の歴史文化遺産 -」

において、講演及び保存会の取り組みにコメントを行った。

久留島元は、2015年刊行の『皿屋敷 幽霊お菊と皿と井戸』(白澤社)の共著者として、「尼崎の皿屋敷」について執筆した。また2015年11月8日に京都女子大学で行われた説話・伝承学会秋季大会において、研究発表を行った。



皿屋敷書影

岡本真生は、2016年1月21日に京都民俗学会談話会において、研究発表を行った。

また、大江篤、久禮旦雄、久留島元、岡本真生は、2015年8月に開催された「みんなのサマーセミナー」に講師として参加した。

②北九州市立大学地域創生学群及び北九州まなびとESDステーションの視察、見学。児童教育学科大江ゼミの学生と北九州市立大学生による研究発表と意見交換を実施した。また学生による着地型ツーリズムに参加した。

③兵庫県豊岡市日高町での取り組みは、地域資源の調査と「災害の記憶を次世代に伝える」をテーマにシンポジウムを2016年2月28日開催。

④東日本大震災の復興支援プロジェクトである「ふるさと怪談トークイベント」を2016年2月27日開催。東京から東雅夫氏(文芸評論家)、今井秀和氏(蓮花寺佛教研究所研究員、共同研究者)を招き、尼崎にまつわる地域伝承研究の成果のほか、実話怪談の実演、災害伝承にまつわるフォーラムを開催。



北九大との交流会

地域と大学の連携・協同による子ども・子育て支援者の課題解決  
— 尼崎市における子ども・子育て支援の実態を踏まえて —

研究代表：影浦紀子

共同研究者：新井香奈子、金岡緑、東晴美、藤澤政美、江崎和子、原田旬哉、東本幸代、黒岩志紀

今年度は、まず、研究会において、これまでのイベントや実践から明らかになったさまざまなニーズを整理し、研究の柱を二つに絞った。一つは、園田地区子育て支援ひろば「ママカフェ」における母親理解と子育て支援の実態と課題について研究である。もう一つは、父親の子育てにおける役割と支援に関する研究である。

子育て支援ひろば「ママカフェ」は、園田支所で毎月、開催されている。オープンから2年目に入り、今年度から毎回のママカフェに地域の資源を活用したイベントが行われている。具体的には、カフェが開かれている13:00～16:00中の14:30から30分程度、絵本の読み聞かせやお手玉、防災、人形劇などの実演、講演されている。内容の充実と同時に利用者も少しずつ増加している。また、「ママカフェ」の成果と課題を検討するために、支援者、ボランティア参加学生を対象にインタビュー調査を行った。利用している母親に対しては、「ママカフェ座談会」を開き、「ママカフェ」や子育てについての声を聴きとった。インタビューも座談会も聴きとったデータは、KJ法を用いた質的分析を行っている。

実践的には、地域で子育て支援や子育てで役立つ教材の作成、また教材の活用について実演、講義を行った。具体的には、尼崎市中央公民館における家庭・地域教育推進事業のファミリーサポーター育成講座では、支援者に対する教材の作成と実演を行った。また、尼崎市社会福祉協議会主催のおやこ育ち講座では、お母さんが子どもに贈るクリスマスプレゼントとして教材作成を行った。また園田地区のウェルカムパーティー事業「そのっ子フェスティバル」では、学生たちによる人形劇が行われた。

年度末には、立花地区の子育てサークル交流会を中心とした親子対象の「子育てフェスティバル」を開催予定である。これは、親子と学生とが触れ合いながら、母親は、子育てに役立つ情報、知識、技術を身につけ、学生は子どもや保護者への対応を体験的に学ぶことを目的としている。

今後の課題として、今年度の二つ目の柱、父親

への支援が進んでいない状況である。研究会では、父親の子育て参加は進んでいるが、特に子どもが乳幼児期の場合、子育てにおいて中心的な役割を果たすことは難しいという状況もある。今後、もっと子育てを乳幼児期に限らず長いスパンで考えて、母親や支援者の支援プログラム開発や実践をさらに深化させつつ、父親への子育てにおける役割や支援の在り方についても検討を進めていきたい。



そのっ子フェスティバル：  
手遊び「あんたがたどこさ」

**「ママカフェ座談会」**

ママカフェの  
おお知らせ

「ママカフェ」も2年目に入し、多くのママさんや子どもたちに利用していただいています。「ママカフェ」をもっともっと多くの皆さんに、楽しく利用していただくために、ママさんに自由にお話しいただく「ママカフェ座談会」を開催しました。

**\*実施日** 9月30日(水)「ママカフェ」定例日  
14時30分頃から、30分くらい

**\*参加者** 参加は自由です。「ママカフェ」に来られたママさんで、ちょっとお話ししてみようかとご質問から、お席に入らせて下さい。子どもさんと一緒に結構です。お席に入られなくてもいいのも「ママカフェ」はやっていきますので、来て下さいね。☺

**\*実施場所** 園田支所 3階ホール

(いつもの「ママカフェ」はあります。「座談会」は別じつろいで行います。)

**\*内容** 「ママカフェ」や子育てのこと自由にお話しください。

**\*主催** 園田学園女子大学地域連携推進機構

「子育て支援研究チーム」代表：影浦紀子

**\*共催** 園田地域振興センター

**\*その他** はじめに座談会の主旨について、簡単に説明させていただきます。

お問い合わせ(お電話どうぞ)  
園田学園女子大学 ママカフェ担当 江崎和子  
電話：06-6429-9295(直通)  
E-mail: k14021@nionoda-u.ac.jp

ママカフェ座談会のチラシ



「ママカフェ」における人形劇

## 地域と取り組む防災教育

研究代表：野呂千鶴子

共同研究員：大江篤、山本起世子、宮田さおり、中世古恵美、吉田由記子

## 【はじめに】

尼崎市では南海トラフ大地震への懸念は大きく、備えとして個人、地域の防災力を強化することは必須である。矢守ら(2007)は、防災力を高めるには「人間力」「生活力」「市民力」の養成が必要と述べており、大学の防災教育はこれらの力を高めることを目的とし、学生を含めた地域の防災力を高めていく必要がある。

## 【目的】

地域における防災活動の実際と課題および本学学生の防災意識の実態を把握し、地域と大学が連携した防災活動の試みを通じて、地域防災力を高めていくことを目的とする。さらに大学と地域が連携し地域防災力を高めるための教育プログラム・体制づくりを行う。

## 【平成 27 年度活動】

## 1 本学教職員防災意識調査

## 1) 方法

- ①対象：本学学生、教職員
- ②方法：Web 調査（質問紙法）
- ③調査期間：2015.32～4.2
- ④倫理的配慮：倫理的配慮を行い、目的外使用しないことを文書及び口頭で説明した。調査回答することで、同意とした。

## 2) 結果

- ①本学の避難訓練に参加した者は、9割以上がはじめに取組み、約75%が訓練内容に満足していた。
- ②今後自分が自然災害に遭遇すると思っている者は、約97%であり、自然災害の種類は、地震・台風・集中豪雨の順に多かった。
- ③防災行動を起こすために必要な情報は、「避難所・避難経路」「防災グッズ」が多く7割以上を占め、次いで「想定される被害の程度」が約6割であった。

## 2 自治会長の防災への思いと後継者問題

## 1) 方法

- ①協力者：社協から推薦を受けた A 地区自治会長 2 人
- ②方法：フォーカスグループインタビュー
- ③調査期間：2015.9
- ④倫理的配慮：インタビューの目的・内容、倫理的配慮について文書及び口頭で説明し、同意書に取り交わした。

## 2) 結果

防災活動や地区活動を熱心に取り組む協力者である自治会長は、過去に阪神・淡路大震災において被災しており、また人為的災害現場で救助活動に従事した経験を持つ者もあった。その経験が、現在の防災活動や地域活動に取り組む動機となり、継続要因ともなっていた。

## 3 考察

上記の活動より、避難訓練を定期的に行なうこと

は、被災経験がないか記憶に乏しい本学学生にとって、災害を意識し、その時にどのように動くべきか、またそのために何を準備すべきか想起するきっかけになっていたと考える。

自治会長の語りからは、過去の被災体験が現在熱心に防災及び地域活動を行なっていることに大きく影響していることが考えられた。このことから、後継者を育成するためにも、具体的に防災の必要性が意識できる教育プログラムを提案していくことが必要であると言える。

## 1) 教育プログラム提案に向けた事例

## ①園田東地区避難訓練

- ・時期：2015.11.15
- ・学生ボランティア 2 人、教員 2 人
- ・内容：避難行動中の車いす介助、炊き出し補助、後片付け
- ・評価：学生は、この活動をきっかけに福祉施設のボランティア活動に参加するようになった。

## ②災害看護論におけるプログラムの試行

- ・人間看護学科 4 年生に対して、「クロスロード」の実施、避難所設営計画と実践、避難所ボランティア演習等を実施した。
- ・評価：クロスロードは、具体的に事象をイメージしながらグループワークできるため、教育効果は期待できる。また、避難所設営においても、各グループの発表を聞きながら、着眼点を整理することができていた。

## ③外国人への対応

- ・海外生活経験者である看護職者より、医療・住環境等日常生活情報に加え、災害時対応についての「情報提供」の必要性が提案された。
- ・情報を周知するためには、交流の機会の活用が効果的であり、学生ボランティアへの期待が大きいと言える。

## ④まちづくり解剖学において防災を考えるシンポジウムを実施する予定(2016.3)である。

- ・「人間力」「生活力」「市民力」が必要とされる防災活動において、地域防災のリーダーである自治会長、社会福祉協議会、学生の立場から、現状と課題を報告してもらう。
- ・参加者とともに現状を共有し、地域の役割、大学の役割を整理し、地域と大学が取り組む防災活動のあり方を提言する。

## 文献

矢守克也、諏訪清二、船木伸江：夢みる防災教育、3-24、晃洋書房、2007



健康意識の高い町・尼崎の土台づくりと食育の定着について  
 - 尼崎市内の食の健康協力店に対する働きかけ -

研究代表：餅美知子

共同研究員：松葉真、竹本尚未、中谷梢、宮本恵里、山本美菜

はじめに

我々は、1年目に市内の「食の健康協力店」(120店舗)の現状調査を行い、2年目に利用者である市民10～80代(1,255名)の認知及び利用調査を行った。今年度は実践に向け調査を実施し、店舗に対して具体的な食サポートが出来るためのものとした。

【調査概要】

調査期間は平成27年11月～平成28年1月。調査対象は3年前に「食の健康協力店」に実態調査に協力していただいた88店舗に対し、取り組みの精度を高めるための要望アンケートを送付した。

【調査結果】

1. アンケートの回収率は、19.3% (17名)。地区別回収率は、武庫35.3%、中央29.4%、立花17.6%、園田11.8%、小田5.9%。
2. 事業形態別回収率は、和食店29.4%、洋食店23.5%、中華店・イタリアン店共17.6%、居酒屋・チェーン店共に11.8%であった。
3. 食物栄養学科に対する要望は、第1希望：料理の栄養価計算23.5%、第2希望：健康リーフレット作成が17.6%、第3希望：メニュー及び健康ポスター作成17.6% (図1)
4. 取り組める項目と事業形態の要望は「料理の栄養価計算」は和食店・チェーン店・居酒屋・洋食店、「健康リーフレット作成」は居酒屋・和食店、「メニュー作成」はチェーン店・居酒屋、「健康ポスター作成」はイタリアンであった。
6. メニュー作成要望は、第1希望：野菜たっぷり料理献立、第2希望：エネルギー制限献立、第3希望：ごはん中心献立 (図2)
7. 事業形態別、メニュー作成の要望は、洋食店・居酒屋：野菜たっぷり料理献立、チェーン店・居酒屋・中華店が減塩料理献立、洋食店がエネルギー制限献立、和食店がごはん中心献立 (図2)
8. 「食の健康協力店」としてオーダー時に提供量変更可能な店舗(複数回答)は76.5% (13

店)。オーダー時に料理の味の改変可能な店舗は52.9% (9店)であった。

【まとめ】

今回、食物栄養学科の教員と学生が現在対応出来るスキルを用いて、尼崎市内の「食の健康協力店」に対し、要望のあった献立の栄養価計算やポスター・リーフレットの作成、健康メニュー(減塩食・低エネルギー食や野菜たっぷり食・大豆・大豆製品食)の提供が出来る体制作りの構築を考えたい。

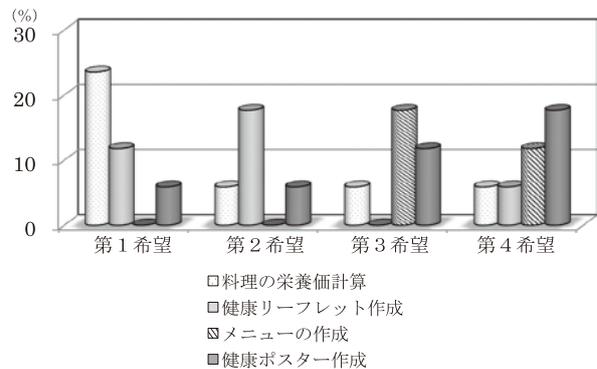


図1. 食物栄養学科に対して取り組める項目の要望をランク

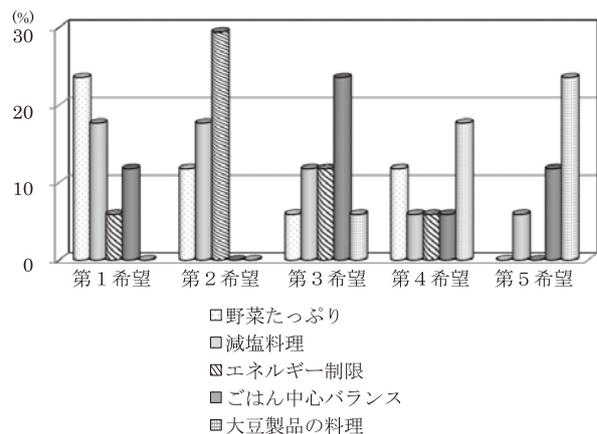


図2. メニュー作成の具体的な要望をランク付け

### 1. 本年度の目的

本年度は、昨年度まとめた生物調査の資料を利用し、幼児を対象とした親水プログラムの構築実施、また同時にプログラム実施のための大学生ボランティアリーダーの養成を行うことを目的とした。また、我々がやっている大学近辺の庄下川の水質検査と、尼崎市が発表している環境モニタリングデータと比較するため、水質検査の方法と項目の検討を尼崎市立衛生研究所および環境監視センターと協力して行うこととした。

### 2. 水質検査

昨年までと同様に、大学近辺の上生嶋橋で実施した。調査は27年6月から10月の期間、週1回実施した。定点測定の結果、DOの平均は4.33 mg/L、pHの平均は9.00、BODの平均は1.95 mg/L、CODの平均は9、透視度の平均は113cmであった。浮遊物質量は、2.4 mg/L、であった。pH以外は、いずれも尼崎市によるモニタリングデータと大きな差異はなかった。

### 3. 幼児を対象とした親水プログラムの構築と実施

プログラムは、大学生ボランティアリーダーと幼児5～8名でグループを構成し、大学近辺の庄下川側道沿い約600mを、ジュズダマ、エノコログサ、ツユクサ、イヌタデ、カモを見つけていく約40分のもので、「しょうげがわたんていだん」と名付けた。幼児には探偵団のしるしとして、



トンボの形をした「とんぼのめがね」を配布し、植物や小動物を見つけたら、シールをはっていった。実施日、参加者は、2015年10月21日、尼崎市内私立A幼稚園（年長組幼児30



名、大学生ボランティアリーダー11名)、10月26日、尼崎市立B保育所(年長組幼児23名、大学生ボランティアリーダー17名)、10月30日、尼崎市立C保育所(年長組幼児23名、大学生ボランティアリーダー21名)で、計3回実施した。

### 4. 親水プログラムを運営するための大学生ボランティアリーダーの養成

2011年、2013年に幼児、小学生対象の親水プログラムを実施した結果、運営に関わるボランティアリーダーの資質を向上させることが、よりよいプログラムを実施するためには必要であるとの課題が残っていた。そこで、過去のプログラム実施報告よりボランティアリーダーに必要な研修内容を抽出し、リーダー研修をプログラム化した。幼児親水プログラム実施の1ヶ月前に、学内で興味をもってくれた学生を募集し、3回の研修を行った。リーダー研修用の資料には、プログラムスケジュール、実施時期にみられる庄下川の小動物と植物の名前、植物遊び、幼児への声掛けの内容などを記載し、実際にプログラム地点を歩きながら、学んでもらった。それぞれの研修後には、参加者で話し合いの機会をもち、研修資料の変更を行いながら、プログラム化できるようにした。

### 5. その他の活動

8月に、尼崎市立衛生研究所が理科研究の手ほどきを行うイベント、宿題研究所に学生がボランティアとして参加した。また庄下川のいきものについて、尼崎市民対象のミニ講義を行った。11月には、大学近辺の庄下川の散策マップ、よく見られる植物と小動物、名月姫の物語のリーフレットを作成し、尼崎市民に配布した。11月末に、第6回阪神つながり交流祭で、学生が、口頭およびポスター発表を行った。



**はじめに**

本研究の目的は、尼崎市における高齢者のためのオリジナル音楽・運動（PAPER PLANE 運動プロジェクト）を考案し、それを普及することにより尼崎市に住む高齢者の筋力向上とコミュニティの拡大を目指すことにある。それらが高齢者と当大学学生との交流の機会とし、街の活性化につながる。今年度の計画と実践は以下の通りである。

**1. 平成 27 年度の研究計画**

1) 社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会（以下「社会福祉協議会」と称す）と連携し、音楽（作成：地域活動支援センター Reverb 石川洋一郎）に合わせた運動（監修：藤澤政美教授）を老人福祉センターで実施する。

運動は、リズム運動（制作：地域の高齢者・社会福祉協議会）、準備運動、筋力運動、リズム運動、整理運動（制作：公益財団法人尼崎市スポーツ振興事業団（以下「スポーツ振興事業団」と称す）、公益財団法人尼崎健康医療財団市民健康開発センターハーティ 21（以下「ハーティ 21」と称す））で構成されている。

2) 運動開始前、1 か月後、3 か月後、5 か月後に身体・体力測定を実施する。

3) 平成 27 年度の学園祭、尼崎市地区まつり等にて音楽・運動を披露する。

**2. 平成 27 年度の進捗状況**

1) 研究者間（本学教員、社会福祉協議会、スポーツ振興事業団、ハーティ 21）で打ち合わせを 1 回 / 1 か月行った。

2) 運動は、老人福祉センター 3 か所（4 教室）で 1 回 / 1 週間、5 か月実施した。

3) 運動の普及について

社会福祉協議会の協力により、平成 27 年度健康ひょうご 21 県民運動推進阪神南会議総会・研修会にて、本学学生とともに運動を紹介し、好評を得た。

平成 27 年度の本大学学園祭（平成 27 年 10 月 17 日）にて音楽・運動を披露した。社会福祉協議会の協力により、大庄まつり（平成 27 年 9 月 7 日）、園田カーニバル（平成 27 年 9 月 20 日）、

たちばな祭り（平成 27 年 9 月 22 日）、小田まつり（平成 27 年 11 月 15 日）、尼崎市スポーツフェスティバル（平成 27 年 10 月 12 日）に参加した。当日は、日頃運動に参加している高齢者 45 名、本大学看護学科 3 年生 6 名、4 年生 17 名、卒業生 10 名、バンド Reverb3 名、研究者、社会福祉協議会、スポーツ振興事業団による披露となった。高齢者の運動成果発表の場となり、今後も交流しながら運動を継続することになった。運動普及 T シャツは、本学看護学科の 4 年生がデザインし、作成した。

4) 運動の効果測定について

尼崎市立老人福祉センター 3 か所（4 教室）にて、尼崎市在住の 65 歳以上の高齢者 200 名を募り、平成 27 年 1 月より開始した。測定は、運動開始前、運動開始後 1 ヶ月・3 ヶ月・5 ヶ月後に本学看護学科、総合健康学科の学生、老人福祉センタースタッフとともに身体・体力測定を実施した。運動開始前と運動開始後 3 ヶ月における研究協力者 102 人の平均値を比較したところ、体重、BMI、体脂肪率、筋肉量、基礎代謝において 50% 以上の方々に運動の効果があつた。骨量は現状維持を含め 80% 以上、内臓脂肪は、現状維持も含め 90% 以上の方に効果があつた。体力測定では握力（右）、開眼片足立ち、長座体前屈で効果があつた。

5) 新規の運動

平成 27 年 9 月より尼崎市老人福祉センター、平成 27 年 12 月より猪名寺自治会・園田地区の有志にてオリジナル運動を開始した。

**おわりに**

平成 27 年度は、オリジナル音楽・運動の実施とその効果を検証した。運動の効果が明らかになり、自治会等で新たに運動を開始した。今後も関係機関と協働・連携しながらさらに普及・啓発していく。



## 地域日本語教育への提言 —ボランティア育成の実践と課題—

研究代表：吉永尚

共同研究者：磯田宏子、実藤基子、村端慶治、荘司育子、三枝令子

### [研究の背景]

昨今、国内の日本語学習者は増加傾向にあり、地域日本語教育のニーズが高まってきている。地域の施設・団体で学んでいる学習者は国籍やレベルが多様なため小規模単位による学習が望ましく、日本語ボランティアの養成は急務となっている。尼崎市でも技能研修生を中心に主にベトナム人やネパール人の居住者が増えてきており、国際交流協会や公民館日本語教室には待機者も出て効率的なボランティア育成が急がれている。

本学総合生涯学習センター公開講座「日本語を学ぼう、教えよう」は日本語ボランティアの養成を視野に入れ2008年から開設されており、修了者は現在280名を超えており尼崎市国際交流協会を始め近隣の公民館日本語学級でボランティア講師や学級代表として活躍する人も出始めている。また、グローバル人材の育成や生涯学習の必要性が叫ばれる中、地域の国際交流活動や生涯学習の学びの場に学生が参加することも必要になっている。

### [研究の目的]

尼崎市の日本語教育のニーズを調査し公表する。方法は日本語教室で講師や学習者にアンケートを実施し、教育上の問題点を精査する。調査資料の分析結果は貴重なデータであるので関連機関に周知し、ニーズを公開講座内容にフィードバックすることで、より効率的なボランティア養成を目指す。

尼崎市の日本語クラスの国際交流活動や本学公開講座に学生が参加し経験値を高める。交換留学生やESS部員、国際交流研究会の学生を中心に

地域の日本語クラスを見学・参加し、活動体験を総括する。

### [平成26・27年度活動報告]

①6か所の日本語教室のボランティアの先生方と学習者を対象としてアンケートやインタビューによるニーズ調査を行った。

②調査結果を講師側と学習者側でまとめた。

〈講師の日本語教育に関する問題点〉

- ・非漢字圏出身者に対する漢字教育が難しい。
- ・アジアの特定の地域では、声調言語であるため、音声指導が難しい。

〈学習者の日本語学習に関する問題点〉

- ・送り仮名や漢字の音読み、訓読みが難しい。
- ・擬態語を中心に感情感覚表現が多く難解。

③調査結果を図表にまとめ協力機関に配布。また、ニーズ内容を講座内容にフィードバックし、教材にも修正を加えた。

④市国際交流協会、武庫日本語学級に学生が参加し地域の外国人および公開講座修了者のボランティア講師と交流した。

### [研究の成果・今後の課題]

ニーズ分析によって問題点を明らかにすることができた。ニーズを講座に還元することにより、今後も地域日本語教育の充実に貢献できると考える。より多くの学生に日本語学級の授業や行事に参加してもらい、人的交流をさらに広げていく必要がある。

### 参考文献

川端一博(2013)「国内の日本語教育の現状」『日本語学』vol.32-3、明治書院



## 地域に求められる養護教諭養成の在り方 ～保健室ボランティア「保健室園女（援助）隊」の活動を通して～

研究代表：江壽和子

共同研究者：藤澤政美、近藤照敏、林淑美、磯田宏子、角田智恵美

### 1. はじめに

園田学園女子大学人間健康学部総合健康学科では、平成14年度から養護教諭の養成を開始し、平成20年度からは2コース制（養護・健康スポーツ）となり、経験値教育に根ざした豊かな人間性と実践力のある養護教諭の養成を行なっている。具体的な取り組みの1つに「保健室ボランティア」の推奨がある。毎年、何人かの学生は、「神戸市スクールボランティア」など学校や学級に入り込むボランティアを行なっている。しかし、本研究で着目しているのは、養護教諭の指導の下で行なう「保健室ボランティア」である。総合健康学科が目指している、豊かな人間性と実践力のある養護教諭の養成にとって、「保健室ボランティア」は有効な教育方法になるのではないかと考えた。

さらに、本研究を地域貢献の視点から見ていく。尼崎市総合計画（2013-2022）では、取り組みの方向性として、20の施策が提示され、その中に「【学校教育】教育の充実で子どもの生きる力をはぐくむまち」「【地域保健】いきいきと健康に安心して暮らせるまち」が示されている。これらを受け、心身共に健やかな子どもの育成、生涯を通じて、健全な健康観の醸成を図ることは、尼崎市に於いても重要な課題である。「保健室ボランティア」を通して、学生が尼崎市等の学校に出向き、地域の子どもや保護者と望ましい関係を培うことで、尼崎市の【学校教育】【地域保健】の課題解決に貢献していきたい。そして、研究結果を「つながりプロジェクト」科目の教育実践に発展させていきたい。

### 2. 研究目的

- (1) 一部の学生が行なった「保健室ボランティア」の活動を通して、どのような力量を身につけたのか、その成果と課題を明らかにする。そして、「地域に求められる養護教諭」養成の在り方を検討する。
- (2) 「つながりプロジェクト」科目の教育実践へつなげる。

### 3. 研究方法

インタビュー調査を行い、KJ法で構造化した。

#### 【学生の目線から】

- ①対象：養護教諭志望の学生3名（グループインタビュー）
- ②期日：平成27年7月31日（金）10：50～11：30
- ③調査内容  
ア. 保健室ボランティアを実践するまで  
\* 保健室ボランティアをしようと思った動機・理由  
\* 保健室ボランティアの日程・内容を決めた理由  
イ. 保健室ボランティアを実践しながら  
\* 学校にとって役にたったこと  
\* 養護教諭、教職員、子どもたちへの貢献度

\* 小学校への貢献度

\* 自分が学んだこと

- ・大学の学びとの関連性・自分で感じる、身についた力量・保健室経営・子ども理解・養護教諭観

ウ. 保健室ボランティアを終えて

\* 最も印象に残ったこと \* 保健室ボランティアの成果と課題（限界）

#### 【養護教諭の目線から】

①対象：養護コースに在籍する学生の保健室ボランティアを受け入れたことのある養護教諭6名（小学校3校・高等学校1校）とした。

②期日：平成27年8月

③調査内容

ア. 保健室ボランティアを受け入れる（依頼）するまで

イ. 保健室ボランティアを依頼しようと思った動機・理由

ウ. 保健室ボランティアを受け入れながら

\* 養護教諭、教職員、子どもたちへの貢献度

\* 小学校への貢献度

\* 養護教諭を目指す学生への影響として考えたこと

- ・養護教諭の職務や力量の観点から・保健室経営の観点から・子ども理解の観点から・養護教諭観の観点から

エ. 保健室ボランティアを終えて

\* 保健室ボランティアを受け入れたことの成果と課題（限界）

\* 望ましい保健室ボランティアの在り方

オ. 地域に求められる養護教諭とは

カ. これからの養護教諭に求められる力量

キ. 養護教諭養成に期待すること

### 4. 研究結果（省略—2/11 報告予定）

### 5. 「つながりプロジェクト」科目への発展（案）

【テーマ】学校保健と地域とのつながり

【学習内容】

- (1) 地域で創る子どもたちの健康
- (2) 学校保健と組織活動
- (3) 学校保健と地域連携
- (4) 学校保健委員会・地域学校保健委員会の現状
- (5) 地域における学校保健の役割や課題

【フィールド】 尼崎市内教育機関等（調整中）

本研究における「地域」とは：  
養護教諭として勤務した場合の、主に小学校校区・中学校校区を指すが、広く、幼稚園や高等学校の園児・生徒の通学する地域も含む。  
「保健室ボランティア」とは：  
各学校・園において、養護教諭の指導の下に、健康診断・健康相談・救急処置・保健指導の一部を行うボランティアである。



## 学生活動



尼崎青年会議所主催「イザ！カエルキャラバン」(2015年5月23日)  
学生地域連携推進委員会による「つなラジ」 於・尼崎市潮江緑遊公園



あまがさき環境オープンカレッジ エコあまフェスタ (2015年6月6日)  
学生ボランティアたち 於・塚口さんさんタウン2階

学生地域連携推進委員会、通称つな Girlは、発足より2年目になり、新しいメンバーにも恵まれ、2015年度も活動をしてまいりました。メンバー構成は、総合健康学科、食物栄養学科、児童教育学科、人間看護学科に所属する10人。うち、1年次生の5名が今年はとてもしっかり頑張ってくれました。

つな Girlの2015年度の目標は「目指せ！つながり100」。昨年度つながった団体の数がおおよそ50だったことから、今年は倍にできるくらい、たくさんの人たちと関わりを増やそうと励みました。昨年度から関わりの深い地域の方々や、「いもづるBoys」というつな Girlを応援して下さっている人たちに支えられて、楽しく活動させていただいております。

様々な活動をさせていただいているつな Girlですが、今年一番成果を感じたのは、何と云っても10月17日（土）に開催した第2回「キッズ・フェスティバル」です。昨年度から主催者となり、今年で2回目となるイベントでしたが、自分たちの持っているつながりや今まで参加してきた多くのイベントでの経験を活かすことに成功し、集客数は昨年度の2倍に！子どもたちに楽しんでもらうことはもちろん、今年は学内の学生や地域の方々同士との交流も大きな目標の一つでした。当日参加してくれた学生ボランティアからも、地域の方々との交流が良い刺激になったという声がありました。大変なことも多々ありましたが、このイベントを乗り越えたことで得られるものもまた、たくさんありました。

昨年度も参加した尼崎ソーシャルビジネスプランコンペでは、「つな Girl」という存在ができることに焦点を当て、地域の課題解決の鍵を尼崎市の方々と一緒に考えてみる機会をいただきました。プラン作りの際、私たちに期待されていることや、できることをしっかりと考え直すという時間を持たせていただき、メインで動いてくれた1年次生の中で「つな Girlとは何か」という土台を共有することができました。昨年度に引き続き、とても貴重な経験をさせていただきました。

設立から2年。昨年の経験を活かすことに挑戦

し、以前の自分たちとの違いを実感しました。そして、新入生も含め、初めの頃とは、比べ物にならないほどの成長を感じています。自分の意見を相手に伝えることの大切さや、初対面の人との関わり方、文書の書き方、プレゼンテーションのコツなど、得られたものはとてもたくさんあります。とくに、つな Girlとして活動していると、自分の「できないこと」を認識することがよくあります。それを補い合いながら、活動をしていく中で、自分に「できること」も見つかります。補い合える仲間の大切さに気づきます。この経験こそ、今しかできない、つな Girlにいたから実感できたことだと思います。今後も、尼崎市での経験があったから今の自分があるのだと、将来思えるような活動をしていきたいと思っています。また、園田学園女子大学・短期大学の学生にも、地域とつながることの楽しさを知り、地域の中で成長する機会を与えられるように、ボランティアやイベント情報の呼びかけにも力を入れていきたいと考えております。

（文責：人間教育学部児童教育学科2年 金森雪乃）

## 学生地域連携推進委員会会議事録

### 第1回 定例会議

日時：2015（平成27）年4月1日（水）9：00～17：00

場所：5号館5階エレベーター前 出席者：計7名

- 1) 今後のつな Girl の方向性について
- 2) つなパラの反省
- 3) キッズフェスティバルの企画
- 4) カエルキャラバンの内容

### 第2回 定例会議

日時：2015（平成27）年4月9日（木）12：10～13：00

場所：地域連携推進機構 TA 室 出席者：計7名

- 1) 対外会議（3種）の日程調整
- 2) 「カタリバ」参加について
- 3) 新規委員の勧誘について

### 第3回 定例会議

日時：2015（平成27）年4月16日（木）12：10～13：00

場所：地域連携推進機構 TA 室 出席者：計7名

- 1) キッズフェスティバルについて
- 2) あまらぶ打ち合わせ（4月15日（水））について
- 3) カエルキャラバンについて
- 4) ビリーさんからのボランティア募集依頼について
- 5) つながるパラダイス反省ペーパー配布

### 臨時会議

日時：2015（平成27）年4月20日（月）18：00～20：30

場所：チャティー 出席者：計5名（市役所等外部者含む）

- 1) つな Girl の方向性について
- 2) 年間を通しての目標について
- 3) 具体的な活動内容について

### 第4回 定例会議

日時：2015（平成27）年4月23日（木）12：10

～13：00

場所：地域連携推進機構 TA 室 出席者：計6名

- 1) カエルキャラバンについて
- 2) キッズフェスティバルについて
- 3) 渉外事項報告

### 第5回 定例会議

日時：2015（平成27）年4月29日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) 新委員の紹介
- 2) つな girl の方向性
- 3) 年間目標について

### 第6回 定例会議

日時：2015（平成27）年5月7日（木）12：10～13：00

場所：地域連携推進機構 TA 室 出席者：計6名

- 1) 前回会議の報告
- 2) 年間目標の確定
- 3) 周知事項4点

### 第7回 定例会議

日時：2015（平成27）年5月13日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) キッズフェスティバルについて
- 2) カエルキャラバンについて
- 3) まちづくり解剖学について

### 第8回 定例会議

日時：2015（平成27）年5月20日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) 厄いも植え付けボランティアの募集について
- 2) キッズフェスティバルの運営について
- 3) カエルキャラバンについて
- 4) 引っ越しについて

### 第9回 定例会議

日時：2015（平成27）年5月27日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) 学生総会（5月28日開催）について

- 2) キッズフェスティバルの運営について
- 3) 報告 (カエルキャラバン・引っ越し)

第10回 定例会議

日時：2015（平成27）年6月3日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) キッズフェスティバルの運営について
- 2) 報告・反省（学生会総会、ひょうご女性みらい会議）
- 3) その他

第11回 定例会議

日時：2015（平成27）年6月10日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) 新委員の紹介
- 2) キッズフェスティバル進捗状況報告
- 3) 今学期中の決定事項について
- 4) 今後の予定について

第12回 定例会議

日時：2015（平成27）年6月17日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) キッズフェスティバルの運営について
- 2) あまらぶの校正について
- 3) 大学同窓会総会・懇親会について
- 4) その他（夏休み中の予定調整等）

第13回 定例会議

日時：2015（平成27）年6月25日（木）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) 今学期中の予定調整
- 2) あまがさき歴史音楽祭について
- 3) 取材日程について
- 4) 報告（まちの相談室、カエルキャラバン）
- 5) サマーセミナー聴講ボランティア募集について

第14回 定例会議

日時：2015（平成27）年7月1日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計9名

- 1) キッズフェスティバルの運営について

- 2) 夏期休業中の活動日程及び活動内容について
- 3) 大学同窓会について
- 4) 学生会会議について
- 5) 新委員勧誘について
- 6) 報告（まちの相談室）

第15回 定例会議

日時：2015（平成27）年7月8日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7人

- 1) 学生会費用の請求手順について
- 2) 報告書の提出について
- 3) キッズフェスティバルの運営について
- 4) 渉外事項（1点）
- 5) 今後の予定について

第16回 定例会議

日時：2015（平成27）年8月3日（月）9：30～12：00

場所：まちの相談室 出席者：計9名

- 1) キッズフェスティバルの運営について
- 2) 報告（まちの相談室）
- 3) 今後の会議及び活動の日程について
- 4) 伝達事項（ボランティア募集）

第17回 定例会議

日時：2015（平成27）年8月25日（火）10：00～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) キッズフェスティバルの運営・準備について
- 2) 今後の活動テーマについて

第18回 定例会議

日時：2015（平成27）年8月27日（水）10：00～11：00

場所：まちの相談室 出席者：計6名

- 1) 大学COC中間報告会打ち合わせ
- 2) 小田地区会議「NPO市場」について
- 3) 青少年キャンプの参加への依頼

第19回 定例会議

日時：2015（平成27）年9月30日（水）12：15～13：00

場所：まちの相談室前 出席者：計8名

- 1) キッズフェスティバルの運営について
- 2) 外部行事（2点）について

- 3) 渉外事項
- 4) 報告（まちの相談室）

#### 第20回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月5日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計6名

- 1) 大庄地べたフェスについて
- 2) 尼いも奉納祭について
- 3) 産業技術短期大学大学祭の参加者について
- 4) キッズフェスティバルについて

#### 第21回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月7日（水）12：00～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計10名

- 1) 尼いも奉納祭について
- 2) キッズフェスティバルの準備

#### 第22回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月13日（火）17：50～20：30

場所：まちの相談室 出席者：記録なし

- 1) キッズフェスティバルの準備

#### 第23回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月19日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計9名

- 1) キッズフェスティバルについて
  - a) 参加人数の把握と評価
  - b) 経費について
- 2) 尼いも奉納祭について
  - a) 企画に関する確認
  - b) 物品の準備及び確認
  - c) 企画の詳細について

#### 第24回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月21日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計10名

- 1) 新入委員について
- 2) キッズフェスティバルの事後処理について
- 3) つながり交流祭について
- 4) 尼いも奉納祭について
- 5) まちづくり解剖学について

#### 第25回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月26日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計9名

- 1) これまでの活動の振り返り
- 2) キッズフェスティバルの反省及び事後処理報告
- 3) 尼いも奉納祭の反省
- 4) つながり交流祭について
- 5) 報告（まちの相談室）

#### 第26回 定例会議

日時：2015（平成27）年10月28日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) 外部との連絡のあり方について
- 2) キッズフェスティバルの反省
- 3) 活動の計画書及び報告書の作成、経費等の請求について
- 4) 今後のまちの相談室の予定

#### 第27回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月2日（月）12：10～12：55

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) つながり交流祭 出演に関する回答書について
- 2) キッズフェスティバルの事後処理（報告書、必要経費処理等）
- 3) 各活動の計画書、報告書、学生会交通費請求書について
- 4) 報告（まちの相談室）

#### 第28回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月4日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計6名

- 1) キッズフェスティバルの会計について
- 2) 尼いも奉納祭の報告書について
- 3) つながり交流祭の資料作成について
- 4) 今後の予定について

#### 第29回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月9日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) つながり交流祭発表の流れ及び資料作成について
- 2) 尼いも奉納祭、森のピクニック、ヤギと一緒に秋を探そう、各事業の書類について
- 3) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペについて
- 4) 報告 (JC キャンプ打ち合わせ、まちの相談室)

#### 第30回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月11日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計8名

- 1) JC キャンプの準備について
- 2) 尼崎ソーシャルビジネスコンペのエントリーシート作成について
- 3) つながり交流祭の資料作成について
- 4) まちづくり解剖学への参加について

#### 第31回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月16日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) まちづくり解剖学の報告
- 2) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペのエントリーシート作成について
- 3) つながり交流祭の発表資料の作成
- 4) まちの相談室の報告と今後の対応について

#### 第32回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月18日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計6名

- 1) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペのエントリーシートの完成について
- 2) つながり交流祭の発表資料の推敲について
- 3) JC キャンプの報告書について

#### 第33回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月23日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペのエントリーシート提出と今後について
- 2) つながり交流祭での発表について
- 3) JC キャンプの事後処理
- 4) 諸連絡

#### 第34回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月25日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7名

- 1) 各活動の計画書・報告書・会計について
- 2) つながるパラダイスの企画書について
- 3) つながり交流祭の当日の動き等について
- 4) その他

#### 第35回 定例会議

日時：2015（平成27）年11月30日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計5名

- 1) 各活動の書類提出及び会計について
- 2) キッズフェスティバルの経費について
- 3) つながるパラダイスの計画について
- 4) その他

#### 第36回 定例会議

日時：2015（平成27）年12月2日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計6名

- 1) 尼崎ソーシャルビジネスコンペ一次審査通過にかかる今後の動きについて
- 2) つながるパラダイスの企画書作成について
- 3) 各種書類提出について
- 4) その他

#### 第37回 定例会議

日時：2015（平成27）年12月7日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計6名

- 1) 尼崎ソーシャルビジネスコンペに関する今後の予定
- 2) つながるパラダイスの企画書の検討について
- 3) 報告（キャンプ、尼いも奉納祭、つながり交流祭等）
- 4) その他

#### 第38回 定例会議

日時：2015（平成27）年12月9日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計7人

- 1) つながるパラダイスの企画について
- 2) 庶務連絡
- 3) その他

第 39 回 定例会議

日時：2015（平成 27）年 12 月 18 日（金）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計 6 人

- 1) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペについて
- 2) あまらぶワークショップについて
- 3) 諸連絡

～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計 8 人

- 1) 尼コンペについて
- 2) 諸連絡

第 40 回 定例会議

日時：2016（平成 28）年 1 月 4 日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計 6 人

- 1) あまらぶワークショップでのアンケートについて
- 2) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペについて
- 3) 諸連絡

第 41 回 定例会議

日時：2016（平成 28）年 1 月 6 日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計 8 人

- 1) 尼崎ソーシャルビジネスプランコンペについて
- 2) これからの活動について
- 3) 諸連絡

第 42 回 定例会議

日時：2016（平成 28）年 1 月 13 日（水）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計 7 人

- 1) つな Girl の工場見学会について
- 2) 尼コンペについて
- 3) 諸連絡

第 43 回 定例会議

日時：2016（平成 28）年 1 月 18 日（月）12：10～13：00

場所：まちの相談室 出席者：計 8 人

- 1) あまらぶワークショップのアンケートについて
- 2) 諸連絡

第 44 回 定例会議

日時：2016（平成 28）年 1 月 20 日（水）12：10

本科目の特徴は、まず大学・短期大学部に在籍するすべての学生が受講可能となっている点です。ついで、本科目は本学と尼崎市と連携している点も特徴的です。実際に、尼崎市が直面している課題に対応している尼崎市職員の方を迎え、直接講義を受けます。さらに、より広く地域の課題を捉えるために、フィールドワーク（学外講義）も併せて実施しています。2015年1学期は、歴史が多層的に組み込まれた阪急塚口駅周辺を歩くことで、現在の諸問題が地域で複雑に絡み合っていることを再確認しました。

講義と自らの実見を踏まえ、諸課題とその解決策についてグループワークを行います。グループワークではそれぞれ付箋に小さなアイデアを記し、それを大きな紙面に貼り付けます。ひとしきり意見が出揃ったところで、話し合いながら、意見をグルーピングしていきます。

当初は、施設の違いや良い・悪いといった価値判断によるグルーピングが多々みられますが、グループワークの回数を重ねることで、グルーピングの基準も社会や家庭問題などに集約されるとともに、多様な価値観や異なった専門知識を学生同士が互いに引き出せるようになります。実際に受講した学生からは、「色々な意見が出て楽しかった」、また「普段、他学部の人たちと話し合う機会がないので、とても新鮮で楽しかった」といった声をよく耳にします。

最終的には、地域の方々の前で、個々の知見を巧みに織り交ぜた成果を発表します。2015年1学期の最終発表は、「まちづくり解剖学」の一環として実施したため、市職員の方々をはじめ、学内の先生方や地域の方々に発表を聞いていただき、審査員になっていただきました。

それぞれ短期間でまとめ上げた成果であるため、審査員から事実関係の把握不足に関して手厳しい意見もありましたが、総じて、学生の「視点がユニーク」、「すばらしい発想」といった高評価をいただきました。コンペの投票結果、施設利用と学力問題改善を掛けあわせた「さんさんタウン活性化大作戦」を提唱したチームが得票1位となり、尼崎市長賞をいただきました。

地域にある問題とは何かを追求するというのは

発見があり、また日本全体での問題につながる部分への気づきもあった。

これは、本科目を受講した一学生の声です。本科目スタイルは試行段階ですが、専門知識を教示するだけでは十分に養えないであろう、個人の＜考える力＞をも今後十分に引き出すことができるであろうと考えます。

（文責：地域連携推進機構 TA 岡本真生）

2学期の大学の社会貢献では、尼崎市および尼崎商工会議所との連携の下、地域社会が直面する課題とその解決策について考える授業を実施しました。本講義では、尼崎に所在する15の企業を訪問見学して企業と地域社会の置かれている状況を知り、大学内の講義で得た知識とフィールドで得たものを活用して学生の立場で課題解決の方策を考えることを目標としました。具体的には以下の2つを学生の到達目標として掲げました。

- ① 訪問した企業のPRチラシを作成する。
- ② 講義内容と企業取材を踏まえて、自分たちが住みたい街作りを提案する。

この目標に従って、授業は以下のように進行了りました。第1回授業から第5回授業は、講義形式で本学の建学の理念、教育目標にはじまり尼崎市の現状と課題について学びました。特に、第2回と第5回には尼崎市役所、尼崎商工会議所の職員の方にお話していただくことで、地域社会のおかれた現状と課題について理解を深めることが出来ました。

続いて第6回から第9回では企業訪問の準備と企業訪問を行いました。第6回、第7回でグループワークを中心に、訪問先企業の情報や質問事項の整理などの企業訪問の準備を行いました。企業ホームページなどを活用した事前調査や質問する内容のブラッシュアップをグループワーク形式で行いました。

これらの準備を踏まえて、第8回、第9回で企業訪問を行いました。企業訪問では、企業の取材をするだけでなく、学生たち自身が考えた「私たちの住みたい街」というテーマで企業の方とディスカッションを行いました。学生たちにとっては、尼崎で働く方々の想いや考えを生で聞くことが出来、大変得がたい経験になったようです。

企業での取材を踏まえて第10回から第12回でPRチラシ作成を行いました。特に、第11回では企業の方を交えてワークショップを行い、意見交換やPRチラシ作成のためのディスカッションを行いました。このワークショップを踏まえて、学生はグループごとにPRチラシを作成し、学生

の相互投票で優秀チラシを決定しました。

第13回から第15回では、企業への取材、PRチラシ作成と自分たちの住みたい街作りの提案をまとめたプレゼンテーションの準備と発表を行いました。経験がほとんどないにも関わらず、各グループで工夫した発表を行っていました。第15回に行われたプレゼンテーション発表では、企業の方をはじめ尼崎市役所職員、尼崎商工会議所職員の方に審査員になっていただき、最優秀グループを決定しました。

授業の中では、「社長さんからのお話をきくのはとても重みを感じた。」「自分がこれからどう地域と関わっていったらいいか考えるきっかけになった。」などの本講義を通して地域の方の想いを受け止め、地域との関わり的重要性を実感できたとする学生コメントが寄せられています。また、本講義を通して人との関わりの中で考え、それを人に伝えていくことの重要さと困難を実感できた学生も多くいました。

最後に、本講義では以下の企業に取材などご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

音羽電機工業株式会社、株式会社日興商会、株式会社特発三協製作所、株式会社ニシイチドラッグ、日興油脂株式会社、都ホテルニューアルカイク（株式会社近鉄・都ホテルズ）、株式会社フジ・データ・システム、高岡食品工業株式会社、株式会社ヤマシタワークス、西部造園土木株式会社、株式会社みつば電気、株式会社越山酒販、株式会社エーデルワイス、株式会社モンマルシェ、株式会社吉川組

（文責：地域連携推進機構 TA 柏原康人）

平成 28 年 3 月 8 日(火)、尼崎市立教育センター四階視聴覚室において、「大学 COC 事業における政策提言発表会」が行われた。

尼崎市内では、園田学園女子大学、兵庫県立大学の 2 大学が、文部科学省の実施する「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を実施している。当日は尼崎市内をフィールドに活動する 2 大学の学生たちが、尼崎市の課題解決に向けて調査・研究・立案した政策プランの発表をおこなった。

本学からは、「大学の社会貢献」「社会人基礎力」の受講生や、児童教育学科大江ゼミにおける取り組みについて発表が行われた。学生発表の概要は以下の通りである。

#### 発表①「さんさんタウン活性化大作戦」

「大学の社会貢献」の授業で、尼崎の現状を学び、授業内での塚口周辺のフィールドワークで今の塚口さんさんタウンの現状を知りました。その学びを通して私たちがテーマに取り上げたのは「学校教育」と「塚口さんさんタウンの活性化」です。塚口さんさんタウンの活性化にもなり、様々な層の人たちが一緒に集い、児童、生徒の成績 up にもなる場を地域や学生、先生が一体となって作っていきます。そして、それを塚口さんさんタウンで実現する企画を提案します。

#### 発表②「企業と学生がつながる尼崎産業の魅力発信 ～人との繋がり私たちの未来～」

エーデルワイスさんに企業訪問させていただいて、商品の素晴らしさはもちろん、地域とのつながりの大切さやお客様に対する強い思いなどを教えていただきました。それをふまえて、取材の際に私たちがどのように考えたか、PR チラシにはどのような思いを込めたかをお話しさせていただきたいと思います。また、私たちの考えた「住みたい街」「活気ある街」とエーデルワイスさんの活動の共通点、企業側のおもてなし精神がどう人と繋がりをつくるのかを企画し提案します。

#### 発表③「地域で交通事故を 0 にしよう」

「社会人基礎力演習」の授業で、尼崎市立富松

幼稚園へ観察実習に行き幼稚園の周りをフィールドワークし、園児の交通の面での危険な箇所などの現状を知りました。その学びを通して私たちは「地域」と「交通安全」をテーマに幼稚園の子ども達が安全に遊んだり登園できる環境を、子ども達、地域、教師、学生、ボランティアで協力して一緒になり作って行きます。そして、それを富松幼稚園で実施する企画を提案します。

#### 発表④「これからもずっと佐璞が丘の緑とともに生きていくために」

佐璞丘公園は、白鳳時代の伽藍が発掘された猪名寺廃寺を中心に広がる歴史ある場所です。この公園は昭和 30 年に森をありのままの姿で残すため、風致公園として都市計画決定がなされました。しかしこの佐璞丘の森は現在も公園になりきれていません。そんな公園に対して地域の人々が興味を持ち、後世もこの森を守ることができるように私たち大学生ができることを考え、猪名寺自治会の協力のもと「忍者学校」を行いました。この行事の有効性とこれからのまちづくりについて提言します。

# これからもずっと 佐璞丘の緑と生きるために

園田学園女子大学  
人間教育学部児童教育学科  
大江ゼミ

浦島亜衣・大西夏未・奥村明日香・佐藤美来・佐藤優・高柳奈央子・  
田澤麗奈・唐敏暎・兵頭奈々・松原礼奈・米山綾音

## 猪名寺と佐璞丘②

### 榎本さんの話

榎本利明さん（元尼崎市職員）  
に12/2にお話しをお聞きしました。



## 猪名寺の歴史について

- \* 尼崎市の北東部、猪名川の支流・藻川の西岸にある
- \* 猪名寺周辺の猪名川流域  
→ 猪名野または稲野
- \* 猪名部 → 木工技術者
- \* 伊賀の木工の活躍が有名  
→ 技術者の居住地



## 榎本さんが佐璞丘を守った

\* 発掘調査があり、一部が児童公園となった。

↓

森を守りたい

↓ そんな時に

明石市の開発業者が用地買収を行う。

交互買収+借地に！

現在 ⇒ 面積の1/3買収が終了  
(H14～買収は進んでない)  
1/3で18億使っている

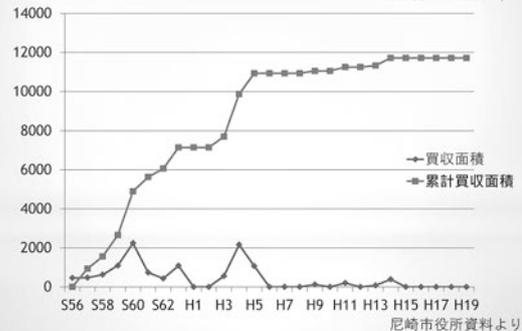
## 佐璞丘の由来について

- \* 今、猪名寺1丁目 ⇔ 昔「佐璞丘」
- \* 「佐璞」→ 唐の官制で左大臣「左僕射」
- \* 孝徳期創建説が江戸時代に流布 → 左大臣阿倍内麻呂に由来「佐璞丘」
- \* 創建時期は7世紀後半



## 佐璞丘の用地取得経過

都市計画決定面積：3.4ha  
供用済み面積：1,381㎡



## 猪名寺と佐璞丘③

### 猪名寺自治会編 内田さんの話



## 第二段階の活動（5年前～）

地域の誇りと愛着の醸成  
から

万葉の里・猪名寺へ  
（万葉の里として猪名寺を活性化）

### 1. 組織

\*猪名寺自治会、万葉の森・佐璞丘再生プロジェクト各地域団体、企業、学校、行政など、約20団体が協働で取り組んでいる。

\*拠点は猪名寺廃寺跡、佐璞丘公園など

### 3. 成果

☆ 地域住民の中に地域の歴史遺産、自然への愛着と誇りがでてきた。  
「何もない猪名寺」、「尼崎の僻地」から  
→ 歴史と自然のあるすばらしい地域となった。

☆ 地域住民が歴史・自然関係の活動、行事に多数参加するようになり地域のコミュニティーが活性化してきた。

### 2. 活動

\*テーマは歴史遺産の保存と活用

\*歴史遺産の活用に力を入れた「歴史を活かしたまちづくり」

第一段階の活動（10年前から～）

歴史遺産を掘り起こし、誇りと愛着を醸成  
（住民意識、何もない地域、尼崎の僻地）

☆ 地元地縁団体と新住民の溝が埋まり、相互の信頼が生まれ、連携・協同の活動として発展している。

万葉の森・佐璞丘再生事業、石見神楽祭は全地域団体の協同の取り組みとして発展。

☆ 地元企業との協力・連携の関係が深まっている。

☆ 地域以外の人々が、多く猪名寺に来るようになった。猪名寺のよさを発信できるようになった。

#### 4. 課題

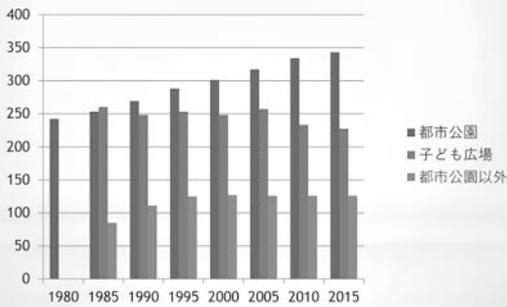
1. 治安 → 法園寺、猪名野神社元宮、佐璞丘
2. 万葉の里としての活性化
  - \* 万葉の里・猪名野歴史館
  - \* 万葉の花壇、万葉の笠原
  - \* 万葉の食文化
3. 後継者の育成
  - \* 地域団体のリーダー、歴史ガイドなど養成

### 忍者学校入学式 5月30日 ～変身術～



忍者に変身

### 尼崎市の公園のあゆみ



### 7月11日 ～自然術～

自然術 しぎょうの きろく

名前

年齢

性別

住所

電話番号

メールアドレス

参加費

申し込み



暗号を送れ

葉っぱに字が書けるなんてびっくり～



### 猪名寺忍者学校1年間の活動記録



**忍者募集中!**  
猪名寺

忍者学校に入学して忍者になろう!!

5月30日 (土) 9:30~12:00 忍者学校入学式  
 万葉の里・猪名野歴史館  
 万葉の里・猪名野歴史館  
 7月11日 (土) 10:30~12:00 自然術体験  
 10月24日 (土) 10:00~12:00 歴史術体験  
 11月14日 (土) 10:00~12:00 学校説明、卒業証書授与式

園部北小学校の小学校1年生～4年生  
 (園部北小学校の児童が対象です)  
 応募者多数の場合は抽選をします

全4回参加してください  
 参加費 (税込) 5,000円

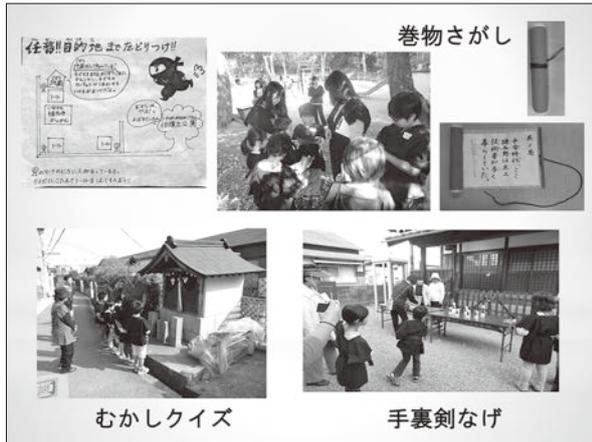
申し込み 4月22日(日) 園部北小学校児童課  
 〒951-8502 園部北小学校児童課

### 10月24日 ～歴史術～

9:00受付開始  
 9:15朝礼 (佐璞丘公園)  
 校長先生のお話/今日の説明

組	歴史術スケジュール表			
	9:30~10:30		10:30~11:30	
い	「クイズにんにん」 佐璞丘公園	「巻物探し」 佐璞丘公園	「むかしクイズ」 道	「しゅりけん入れ」 猪名寺会館
ろ	「巻物探し」 佐璞丘公園	「クイズにんにん」 佐璞丘公園	「しゅりけん入れ」 猪名寺会館	「むかしクイズ」 道
は	「むかしクイズ」 道	「しゅりけん入れ」 猪名寺会館	「クイズにんにん」 佐璞丘公園	「巻物探し」 佐璞丘公園
に	「しゅりけん入れ」 猪名寺会館	「むかしクイズ」 道	「巻物探し」 佐璞丘公園	「クイズにんにん」 佐璞丘公園

11:40 おわりの会  
今日のふりかえり



### 猪名寺忍者学校アンケート（1～4年生）

①よかったこと、たのしかったこと  
 みんなで巻物さがしができてよかった。昔の遊びも学んで勉強と修行で、よい思い出になった。

②こんな風にしたら、もっと良かったなあと思うこと  
 もっときびしく試練を出したほうがよかった。  
 回数や人数をふやしたほうが楽しくなる。

③保護者の方から  
 普段、体験することができない事ばかりだったので見ていて、楽しかった。  
 上の学年の子が、下の学年の子を自然にお世話していたので、縦割りの班はすごく良かったと思う。

## 取り組んだ結果

# キッズフェスティバル

## 猪名寺忍者学校

### アンケート

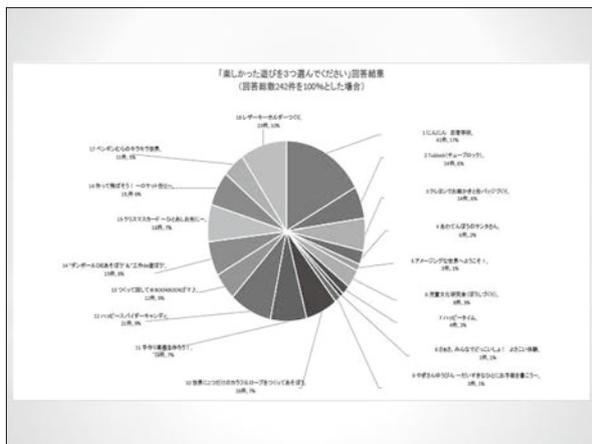
## 忍者学校をしてみても...

・普段できないこと（木登りや綱渡り）をして、自然の中で遊ぶことの楽しさを感じることができた。

・子ども間で互いに **思いやる気持ち** が育った。

↓

子どもの遊びの充実



## 提言

・内田さん達が守ってきた佐璞丘を次は私達や今の子どもたちが受け継ぎ守っていききたい。

・そのために忍者学校のように、もっと子どもたちや佐璞丘の周りに住んでいる方々が佐璞丘にかかわり、佐璞丘の良さに気付いていけるようにする。

地域志向教育科目

# 大学の社会貢献

## さんさんタウン



大学COC事業における政策提言発表会

2016.03.08  
於、尼崎市立教育総合センター

### さんさんタウン活性化 大作戦

園田学園女子大学 『大学の社会貢献』

食物栄養学科	木下 麻実
生活文化学科	徳井 歩実
人間看護学科	草井 千夏
総合健康学科	本持 あすか
	渡辺 はるか

地(知)の拠点

## さんさんタウンにおける 問題点

- 照明が暗い
- 空き店舗が多い



## 園田学園女子大学とは……



## さんさんタウンにおける 問題点

- 案内板が  
わかりにくい
- 活気がない  
● 若いお客さんが  
少ない



## こども教育における 問題点

- ニュースを読まない
- 社会に興味がない
- 朝食を食べない



文部科学省「子どもの徳育に関する懇談会」より

家で勉強していて、わからなかったらどうするか。

【%】

	小3		小4		小5		中2		中3		
	H19	H20									
ほうっておく	1.2	1.8	2.0	2.2	2.5	2.6	2.8	8.6	8.7	6.5	7.7

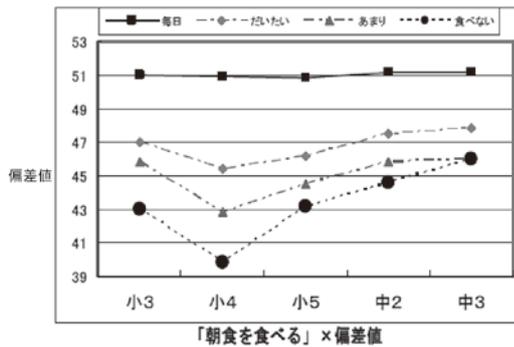
平成20年度学力・生活実態調査報告- 尼崎市

人数に置き換えると...

	H18	H19	H20
小3		47人	69人
小4		78人	87人
小5	99人	98人	108人
中2		264人	277人
中3	201人	236人	237人



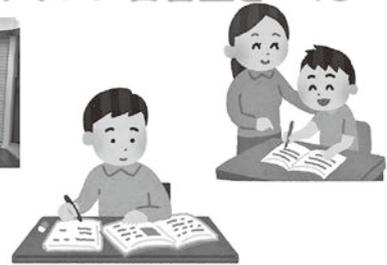
「ほうっておく」が  
増加している



平成20年度学力・生活実態調査報告- 尼崎市

## 改善策

### 1. さんさんタウンに自習室をつくる



## こども教育における 問題点

- ニュースを読まない
- 社会に興味がない
- 朝食を食べない
- 本を読まない
- 早寝早起きできない
- 家庭学習時間が少ない



→改善のために... 放課後学習が行われている

文部科学省「子どもの徳育に関する懇談会」より

### 2. 長期休暇中の開店後1時間以内は 特典がある(店の商品が割引になる)



### 3. 今、流行のお店を作る (例:スターバックス・マクドナルド)



### 大学の社会貢献での授業内容

- ・大学の役割や立地する尼崎市の歴史・文化、また直面している課題について
- ・尼崎市内の企業を訪問、市の現状を学ぶ
- ・フィールドワークで私達が考えた住みやすい街と訪問して感じたこと考えたことをプレゼンテーションを作成し、発表



ご清聴ありがとうございました



### 授業を通して得たもの

- ・実際に関わりが無かった人と、授業を通して多くの情報を交わし繋がりを得ることができた
- ・学外での社会人と意見交換をすることで、これから社会に出ていく身として多くの知識を得ることができた



尼崎市立教育総合センター 2016. 3.

大学COC事業における政策提言発表会  
企業と学生がつながる尼崎産業の魅力発信

## 人との繋がりが — 私達の未来 —

- ・ 訪問先企業名 (株)エーデルワイス
- ・ 園田学園女子大学 総合健康学科 児童教育学科
  - ・ 大学の社会貢献
  - 井上実佐子 東華康 天本結友
  - 井田千晴 今井美夢 小林佑実子 山階貴子

### PRチラシについて

- ・企業がアピールしたいものをメインに  
写真を使い、実際にどういったところなのか分かりやすくした
- ・少し読むだけで企業のことが分かるように  
完結に書きながらも、企業についてわかるようインターネットやパンフレット等で調べ、3つのトピックに分けた

## 取材準備で工夫したこと

- ・取材準備をするときに工夫したこと
- ・企業の魅力を引き出せるような質問を全員で考えた
- ・取材準備をするときに気をつけたこと
- ・できるだけ質問の内容をかぶらずに、いろいろ聞けるようにした

## 企業PRチラシのコンセプト、うり

- ・チラシを作った時のコンセプト
- ・皆さんにも知って欲しいものを三つピックアップし、より分かりやすくする為にそれに応じた写真を載せた
- ・チラシのアピールポイント
- ・チラシに載っている写真
- ・言葉では伝えきれない魅力のある写真を載せた
- ・
- ・

## 実際に行った作業

- ・最初に住みたい街について話し合いをした
- ・私達が知りたい企業側のこと(細かく)を実際に企業の方に来ていただいた際に、尋ねた
- ・それを元に、PRやプレゼンテーションを行った

## ブランド

- ・ヴィタメール
- ・アンテノール
- ・ル・ヴィアン



\*すべて20年以上のブランド

## 取材中に工夫したこと

- ・取材中に工夫したこと  
一人一人がきちんとメモをとるようにしていた
- ・取材中のことで印象に残っていること  
企業の方が質問に対して詳しく説明して下さった

## 商品の魅力

- ・ヴィタメール(チョコレート)  
選びぬかれた最高の素材で  
仕上げた美味しさ
- ・アンテワーズ  
軽やかな生地とクリームが溶  
け合う  
まるでケーキのような口どけと  
味わい

ヴィタメール



アンテワーズ



## 技術者の活躍



商品を作るために日々試行錯誤している

エーデルワイスのスタッフは全員が  
「好き」という気持ちを持って働いている

## PRチラシ作成と「住みたい街」との 関わり

・イベントや工場見学を行う  
地域への活動をすることで「活気のある  
街」への第一歩になると考えた

・人に愛される物を  
たくさんの人から愛される商品がある街  
が  
「住みたい街」に関係してくると考えた

## 地域貢献

- ・ミュージアム(工場見学)
- ・イベント(ケーキづくり、お菓子イベント) など...



## まとめ

- ・街のことを知ることで、私達が何をしていくべき  
なのか知ることができた
- ・企業のお客様に対する思いは私達が考えてい  
た以上のものだった
- ・上の2つから、より良い街にする為に
- ・人と繋がっていける人が増えることが大切だと分  
かった

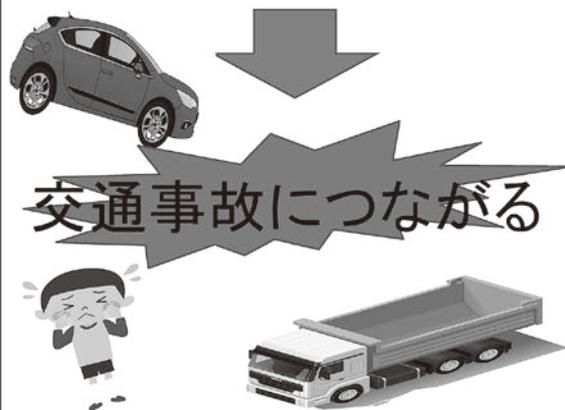
## (株)エーデルワイスの歴史

- ・1966年に創業。
- ・アンテノールを始め、  
たくさんのブランドを設立。
- ・コンテストにも参加(世界の洋菓子コンクール、  
全国菓子技術コンテストなど)
- ・創業時は数人→今では2100名もの従業員



## 地域で交通事故を0にしよう

園田学園女子大学  
人間教育学部 児童教育学科  
社会人基礎力演習  
西條・阪上・西浦・陽川・前田



どうしたら事故を未然に防げる？

- ①門から飛び出さない！
- ②歩道にある白い線の内側を1列になって歩く！
- ③おかあさんと手をつないで歩こう！



園周辺の危険なところ

- ①幼稚園の門から、  
車道までの距離が近い
- ②歩道が狭い
- ③歩いている人が少ない



～富松交通安全フェスティバル～

日時 \* GW中の1日  
(準備期間はGW前の1週間)  
場所 \* 富松幼稚園の園庭  
対象者 \* 年中・年少の園児



## 準備

①大学生のボランティアと、交通安全について絵本で勉強する(ようかいこうつうあんぜん)

・交通についてのビデオをみたりと模擬授業を行い交通について学ぶ。

②みんなで交通安全フェスティバルの案内をかいたチラシを作り、地域の老人ホームに配りに行き、地域の掲示板等に貼る。



## 〇×クイズ

事前に作っておいた〇×クイズを  
年中・年少の園児・地域の方に出題



正解した人には、模擬店で使えるコインをプレゼント！！



## 内容

- ・体験コーナー
- ・〇×クイズ
- ・模擬店



## 模擬店

\* 保護者の方や富松幼稚園の先生、大学生ボランティアで出店。

内容は、ポップコーンや焼きそば、フランクフルト等調理が簡単でたくさん安く作れるもの。



## 体験コーナー

園庭に用意した車にのり、死角を探す。  
運転手さんがいつも見ている景色を見る。



どれだけ下が見えにくいのか、いつもと違う立場に立つことで、発見がある。

\* 光る蛍光ベルトをつけた人に立ってもらい、何もつけていない人との違いを見る

## まとめ

- ・園、保護者だけでなく地域全体で子供の安全を守っていきたいという思いからこの企画につながりました。
- ・問題解決について学ぶことで、普段何気なく過ごしている町に目を向けることができました。
- ・大学生である私たちからも今回のように、発信できることがあるとわかり、これからの活動、生活につなげていけるものになりました。

## いきいき 100 歳体操から考える住民の介護予防 参画に向けた看護職者の役割

212440515 寺本知子

### 【はじめに】

平成 27 年度において日本の高齢化率は 25.1% と超高齢社会であり（内閣府 2014）、団塊の世代高齢者の増加が国の財政を圧迫する中で、介護予防によりいかに健康寿命を延ばし団塊の世代高齢者にかかる医療費や福祉サービス費用を抑えるかが課題となっている。そこで、団塊の世代を含め、より多くの高齢者が介護予防活動に参加・継続できれば、地域全体の介護力の底上げにつながると考える。本研究では、高齢者が主体的に介護予防に取り組み、健康になっていく過程を分析し、高齢者が介護予防活動に参加・継続するためには何が必要か、どのような支援が求められるのか、それに対して看護職者の果たす役割について追究する。

### 【研究方法】

Y 地区にて実施されるいきいき 100 歳体操に参加している高齢者及びいきいき 100 歳体操の運営に携わる看護職者・福祉職者を対象として、アンケートとインタビューの 2 通りから情報収集を行った。これらの結果をプリシード・プロシードモデルに基づいて分析した。倫理的配慮は文書と口頭で説明し同意を得た。

### 【結果・考察】

アンケート対象者は Z 団地集会場における 60 歳代から 90 歳代にかけての男女 10 名（男性 2 名、女性 8 名）と Y 地区内他集会場における 70 歳代から 80 歳代の女性 7 名であった。インタビュー対象者は Z 団地外からの参加者である A 氏（90 歳代、女性）、Z 団地自治会長かついきいき 100 歳体操の主な企画運営者の一人である B 氏（70 歳代、男性）、同じく主な企画運営者の一人であり、福祉職者の C 氏、いきいき 100 歳体操を総括している X 市介護予防担当の保健師である D 氏の 4 名であった。

調査対象である Z 団地の概要は以下の通りで

ある。2 年前まで Z 団地における自治会は崩壊しており、地域交流はおろか Z 団地内での住民同士の付き合いは希薄であった。現自治会長 B 氏と C 氏の尽力により自治会が再生され、Z 団地内集会場を団地内の住民のみならず、地域の住民が自由に集える場へと改築・開放した。集会場ではいきいき 100 歳体操を始め、カラオケや園芸など様々な行事を行い、住民間・地域での自由な人との交流が芽生えつつあった。現自治会長 B 氏の気さくな人柄の影響もあり、今まで他者と交流を持たなかった住民が困ったときに集会場まで足を運ぶようになった例もあった。

アンケートとインタビューの調査結果の分析から、Z 団地集会場でのいきいき 100 歳体操実施の大きな特徴としては①自由な人の出入りを歓迎していること②強力なリーダーの存在、の 2 点が挙げられる。いきいき 100 歳体操を始め、カラオケや園芸など様々な行事を行うことで住民間・地域での自由な人との交流が芽生えつつあり、高齢者の身体・精神・社会的な健康の維持・増進や、閉じこもり予防への効果が期待される。Z 団地内に留まらず、地域にまで活動の広がりをみせる過程はまさにコミュニティエンパワメントの実践例と言える。このような Z 団地におけるコミュニティエンパワメントの過程で、D 氏（X 市介護予防担当の保健師）が果たしている役割を以下にまとめる。

#### ①活動を促進する条件の設定

住民が無理なく集まって、自分たちが選んだ身近な場所で出来るよう住民リーダーの活動を支援することで、住民の主体性を引き出し、活動の促進を図っている。

#### ②住民の気づきを促す支援

いきいき 100 歳体操実施前の説明会において市の高齢者の実態（高齢者の増加に伴う要介護認定率の上昇、介護保険額の上昇による財政圧迫など）を説明することで、介護予防の必要性を住民が自分たちの問題として意識化できるようにしている。

#### ③専門的な助言や情報提供を行い、困ったときに相談できる存在

D 氏は住民が自分たちのできることをやってくることこそがいきいき 100 歳体操事業の根幹であると考え、D 氏の役割を困ったときの相談役に留めている。それにより、住民と対等な立場で一緒に考える姿勢を取ることで、住民の自己決定を促

している。

#### ④活動の意味づけ、評価への支援

Y地区で実施されているいきいき100歳体操に関して、D氏は体力測定による数値だけでなく、身体的変化、精神的変化、生活の変化を見るためのアンケートを実施している。

今後、グループが発展するにつれ、保健師に求められる役割は変化すると思われる。リーダーの疲労、後継者不足といった、運営継続の危機に直面するグループも出てくることが予想される。そのような中で、保健師は一貫して住民に寄り添い、一緒に解決策を模索する姿勢をとり続けることが何よりも重要であると思われる。外部から見守り、いざという時に相談できる存在があると認識できることが、住民の自立を助け、危機を乗り越える力につながると考える。

#### 【まとめ】

いきいき100歳体操を始めZ団地集会所で行われる活動が強化因子によってZ団地内に留まらず、地域にまで活動の広がりを見せ、継続されていく過程をプリシード・プロシードモデルにより分析した。その中で活動が開始され軌道に乗るまでの支援を看護職者であるD氏が担っている。即ち、地区診断を下にY地区住民が主体的に取り組むことが出来る「活動条件の設定」や介護予防の必要性を自分たちの問題として「気づく」ための支援に保健師が関わっている。また、外部から活動の客観的な「評価」をすることで、住民が自分たちの活動の効果を実感する手がかりとなり、参加継続への支援となる。さらに、保健師は「専門的な助言や情報提供を行い、困ったときに相談できる存在」として機能している。Z団地における活動の強化因子であるリーダーをサポートすることが、活動を安定させるために重要な支援と言える。これらの支援は住民が自ら動き、健康を獲得する力、自分たちで健康になるための活動を切り開く力、つまり自助力を引き出す上で重要である。

#### 【引用・参考文献】

・内閣府（2014）．平成26年版高齢社会白書．2015年5月15日閲覧  
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/gaiyou/pdf/1s1s.pdf>

## 河川環境を利用した親水性プログラム ～運営に関わるリーダーの養成～

212410079 大林理紗

過去に本ゼミで実施してきた親水性プログラムは、ゼミの学生を中心とした学生ボランティアリーダーが運営してきた。しかし、リーダーの資質が多様で、プログラム実施の際、さまざまな問題があった。そこで、本年度は、5歳児の親水性プログラム「しょうげがわたんていだん」を尼崎市内の1幼稚園、2保育所、合計3つの園で実施するため、学生ボランティアリーダー養成をプログラム化することを目的とした。

プログラム実施に際し、リーダーに必要な資質を先行研究から抽出し、研修資料を作成した。学生ボランティアリーダーの募集は、学内で行った。参加の意志を確認できた学生42名に対し、研修を3回設定した。研修の目的は、第1回目：川辺がどのような雰囲気であるのを感じながら河川を歩く、第2回目：庄下川に生息する小動物や植物について知る、第3回目：プログラムに向けて総復習するとした。研修の都度、学生ボランティアリーダーと改善点・反省点を意見交換し、リーダーのアイデアをプログラムに反映させるようにした。プログラム実施後には全6項目、全39問でアンケート調査を行った。アンケートの集計はMicrosoft Excel 2010を用い集計し、クロス集計、相関はSPSSver.20を用い分析した。結果は5%以下で有意とした。

プログラム後のアンケート結果より、98%のリーダーがプログラムを楽しめたと回答した。一方で、59%のリーダーがプログラム当日リーダーを遂行することに不安も感じていた。プログラム中大変だったことは、子どもを連れて歩くことの58%が最も高かった。しかし、今までのプログラムで、ご褒美シールを貼ることや動植物などを幼児に見つけさせることの負担と感じる度合いは減少したことより、研修の効果があったと思われる。さらに実施園別では、リーダー数が少なかった実施園ほどリーダーの負担が大きかったことも分かった。また、リーダーシップを発揮するタイプでなかった50%のリーダーの内、48%のリー

ダーが自信がついたとアンケートに回答していたことから、本プログラムを通し、大学生ボランティアリーダーにとって得られた効果があったことが言える。プログラム中に、「カモの足は何色やろ？」などとリーダーが動植物についての問いかけを積極的に行い、研修内容を生かし行動していた。幼児に自然を感じてもらおうプログラムであったが、リーダーとして参加することで、大学生自身も自然を楽しんでいたことが分かった。

この研究の一部は、8月30日の、地（知）の拠点整備事業中間報告会、11月28日第6回阪神つながり交流祭で口頭およびポスター発表した。

## 河川環境を利用した幼児対象の親水性 プログラム～プログラムの構築と実施～

212410334 松本彩花

本学付近を流れる庄下川は、都市河川でありながら多くの生き物が観察できる。我々のゼミでは、2010年より庄下川の河川環境を利用したプログラムを構築実施してきた。今回の研究では、尼崎市内の幼児を対象に「しょうげがわたんていだん」を実施した。近隣の子どもたちが、河川環境を利用して身近な自然を知り、楽しみながら、環境保全について意識を高められるようなプログラムの構築実施を目的とした。

プログラムの準備として、はじめに庄下川に生息する生き物の調査、秋季では小動物21種、植物26種を確認した。この動植物の中から、幼児が自分の目で確認できるカモ、草花遊びができるジュズダマ、イヌタデ、エノコログサとツユクサの5種類を選んだ。幼児5～6名、2～4名の学生リーダーで1グループを構成し、グループでこれらの動植物をみつけ、ご褒美シールを集めていく形式の30分の内容とした。学生リーダーには、3回の研修を行い、庄下川へ行き動植物の名称、草花遊びなどを習得してもらった。

コースは、大学南門、噴水上広場集合、説明後出発、上生嶋橋の階段から遊歩道を歩き、生き物の探索を始めた。東川端橋を経て、噴水上広場に戻り外来種のカメを観察できるようにカメの触れ合い体験を行った。当日の媒体として、幼児にはご褒美シールの台紙としてトンボの形にかたどった「トンボのめがね」、活動グループ名を表した「たんていバッチ」を配布し、プログラム終了時に発見した動植物の写真を載せた、しょうげがわたんていの「にんていしょう」を配布した。学生リーダーは、当日探す動植物などの写真を載せた「たんていファイル」、プログラム中の幼児の発言などを収集するために、ICレコーダーを携帯した。プログラム終了後には学生リーダーにアンケートを実施し、プログラムの課題、幼児の様子など全6項目39問の質問に回答を依頼した。

2015年10月21日10時40分～12時、私立A幼稚園（幼児30名、リーダー11名）、26日10時15分～11時25分、尼崎市立B保育所（幼児23名、リーダー17名）、30日10時15分～11時25分、尼崎市立C保育所（幼児23名、リーダー21名）に行った。

幼児は動植物をみつけるだけでなく、草花遊びに強い興味を示した。「イヌタデがムニユムニユする」と表現していた。そして、リーダーと嬉しそうに話す姿も確認された。動植物の発見・大学生との会話・スキンシップが幼児の高揚感に影響しているのではないかと推察できる。また、幼稚園・保育所の先生の話からプログラム後に庄下川へ行った際、植物の名前を記憶しており、自然への意識が高まっていることが確認できた。

この研究は、2015年11月28日第6回阪神つながり交流祭で口頭発表した。

## 子どもを介した地域のネットワーク ～尼崎市立小学校区の事例を中心として～

212710304 梶 采那

### I. 目的

今の教育では地域と学校が一体となって子どもを育てていく傾向にあるが、昨年のゼミ活動を通し、子供たちはあまり地域を知らないのではないかと感じる事が多くあった。

このような背景から、尼崎市では、子どもを介した地域のネットワークがどれほど地域の大人と子どもをつなぐことができているのか、また、地域活性化に結びついているのかを検討することを目的とした。

### II. 方法

アンケート調査

平成 27 年 9 月下旬から 12 月下旬にかけて、尼崎市立上坂部小学校（阪急沿線）、尼崎市立浜田小学校（JR 沿線）、尼崎市立杭瀬小学校（阪神沿線）の 3 校の 5・6 年生およびその保護者にアンケートを実施した。

児童へのアンケート調査の全設問数は 14 問で①地域の大人との関わりの頻度②地域の行事への参加頻度③地域の大人との挨拶の頻度④地域とのつながりへの意識⑤子ども会参加の有無⑥地域に住んでいる年数⑦回答者自身についてである。保護者へのアンケート調査の全設問数は 13 問で、①地域の子どもの関わりの頻度②地域の行事への参加頻度③地域の子どもの挨拶の頻度④子どもが地域に関わることで起こる地域活性化の有無⑤子どもが大人になっても地域に住み続けてほしいかの有無⑥回答者自身についてである。

### III. 結果

尼崎市立上坂部小学校では、保護者と児童の回答が大きく異なる結果となっていた。そのため、この校区ではしっかりとしたネットワークが形成されていないのではないかと考えられる。

尼崎市立浜田小学校の地域では、あいさつを交わす頻度や行事に参加する頻度が高く、地域の大人と子どもは関わりが多いことがわかった。さら

に、子どもたちが地域と関わることによって様々な年代の交流が図れるため地域が活性化すると考えている人が多い傾向にあることがわかった。

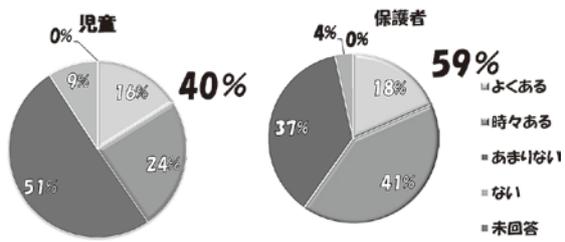
尼崎市立杭瀬小学校では、保護者も児童も回答結果の割合がほぼ同じであったため、きちんとつながりが持てていることがわかった。さらに、子どもたちが地域に関わることによって地域活性化につながると感じている保護者が多いことがわかった。

### IV. 考察

子どもたちが地域に関わることによって、大人も子どもも互いに関わっていると感じ、結果地域活性化の一步につながる事がわかった。また地域の大人と子どもをつなぐ一步として、挨拶は非常に大切であることもわかった。よって、地域活性化のためにまずは挨拶を盛んな地域にすることが必要である。そのためにはやはり、お祭りなどのような行事が盛んである必要性があると感じた。行事が盛んであれば、顔見知りも増え、あいさつの頻度も向上すると考える。また、転勤等に入れ替わりの激しい地域でも、誰もが参加できるような地域での行事を定着していく必要があるのではないだろうか。

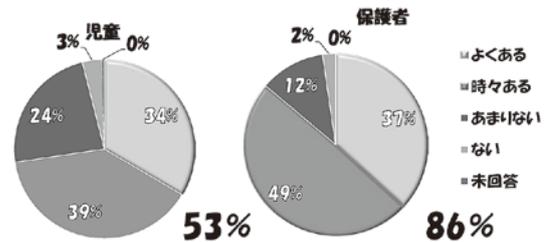
尼崎市立上坂部小学校 (阪急沿線)

地域の大人(子ども)と関わることがありますか



10%以上結果が異なっている

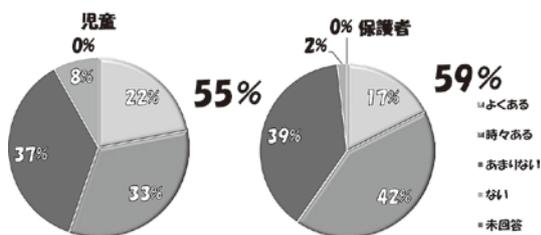
地域の大人(子ども)とあいさつをすることがありますか



30%以上結果が異なる

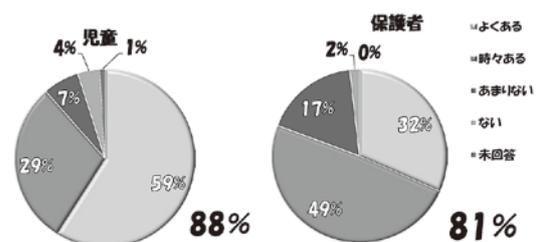
尼崎市立浜田小学校 (JR沿線)

地域の大人(子ども)と関わることがありますか



ほとんど数値に開きがない

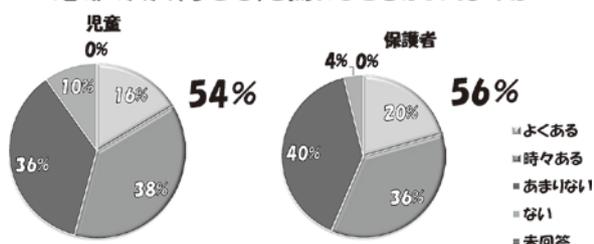
地域の大人(子ども)とあいさつをすることがありますか



ほとんど数値に開きがない

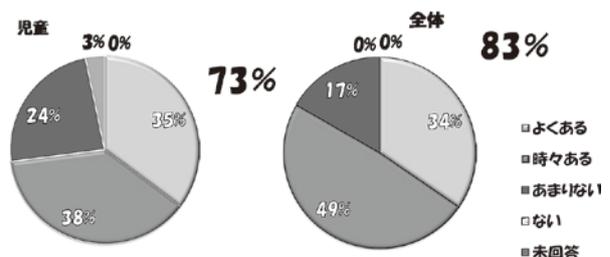
尼崎市立杭瀬小学校 (阪神沿線)

地域の大人(子ども)と関わることがありますか



ほとんど数値に開きがない

地域の大人(子ども)とあいさつをすることがありますか



少し開きがある



## フォーラム



「地（知）の拠点整備事業」中間報告会「地域創生と経験値教育」（2015年8月30日）  
第一部 基調報告 大江篤教授 於・園田学園女子大学 321 教室



地域志向教育研究報告会、情報交換会の様子（2016年2月11日）  
於・園田学園女子大学 3号館

平成 27 年 8 月 30 日（日）、本学地域連携推進機構による「地（知）の拠点整備」事業の中間報告会として、「地域創生と経験値教育」の題のもと開催され、市民をはじめ、のべ 134 名もの参加者を得た。

川島明子学長（地域連携推進機構機構長）のご挨拶のあと、公務のためご出席がかなわなかった尼崎市長、尼崎商工会議所会頭からのメッセージが、司会学生による代読紹介のかたちで行われた。

第一部は、大江篤教授（副機構長）による基調報告と、地域志向教育研究 10 プロジェクトのポスターセッションが行われた。基調報告「地域創生と経験値教育」では、これまでの経過と成果について報告された。

ポスターセッションでは各研究代表者がプロジェクトの成果を報告し、参加者連携先の方や当日訪れた参加者からの質問に答えた。活発に意見交換がなされ、視点の違う意見から新たな方向性を見出す場面もあった。

第二部では、経験値教育学生報告として、「尼崎で学んで」と題し、都市型ツーリズムに参加した 3 つのゼミの学生報告があった。人間健康学部総合健康学科衣笠ゼミの大林理紗・栗林菜央からは庄下川の河川環境を利用した親水プログラムについて報告した。人間教育学部児童教育学科大江ゼミの兵頭奈々・米山緋音・松原礼奈は猪名寺左璞丘公園で実践した忍者学校の活動について、人間看護学科地域看護学ゼミの長野優美香・中島彩・河合沙織は武庫地区における公衆衛生看護学実習での成果について報告した。それに続くトークセッションでは、地域連携推進機構 TA の久留島元、岡本真生が司会を担当し、学生たちが学習の成果について話し合った。そのなかで、地域に出ることで座学の学習との違いや、これまで知らなかった地域の魅力を発見したことなどが話題にあがった。地域で異なる世代との交流などの体験を通じて得られる発見がそれぞれにあったという。

（文責：地域連携推進機構 TA、東アジア怪異学会会員久留島元）

第三部では「エンターテインメントと怪異学—大学で考える忍者・妖怪」と題して、三重大学教授の山田雄司氏による基調報告、および小説家の京極夏彦氏、斎宮歴史博物館学芸普及課長の榎村寛之氏によるコメントをふまえたパネルディスカッションが行われた。

山田氏の報告「忍者研究の意義」は、三重大学の研究プロジェクト 伊賀連携フィールドとして開始された忍者研究の概要について、まず基本においたのは伊賀流忍者博物館の所蔵する非公開の忍術書の調査・分析であり、その研究成果をもとに各地での講座・国際シンポジウムなどを行っていること、現在の研究は人文学部としては、歴史学者の山田氏が「実像としての忍者（忍び）」、近世文学の吉丸雄哉氏が「虚像としての忍者」を対象として研究を行い、更に他学部（医学部・教育学部）との共同研究も行っていることを述べた。

続いて、現在の忍者人気について、①忍者の実像が明確ではなく、時代・地域ごとに様々な忍者像が再生産されていること、②忍ぶ・耐える・我慢するという日本の伝統的価値観が忍者に反映されていること、③闇の世界への憧れ、見えない存在が世界を動かしているという考え方、④超人的な肉体への憧れなどがその背景にあることを指摘した。

最後に、具体的に歴史上の忍者（忍び）がいかなる存在であったかについて、「忍術」は本来、中世寺院でつくられた呪術（密教）的内容も含む兵法書に由来するもので、実像としての忍者（忍び）は、忍術書では身体能力よりインテリジェンスや記憶力、コミュニケーション能力、冷静などが重視されていたのが、江戸時代には現実の忍者の仕事が警備員的な存在となる中で、その能力を面白く伝えるために芸能・絵画などで、新しい忍者像（黒装束で覆面、超人的な能力を持つ）がつけられ、更に大正時代になると「立川文庫」や映画などで摩訶不思議な存在としての忍者イメージが拡大する一方、科学的な忍術の研究がはじまっていくとした。最後に、「総合的学問としての「忍者・忍術学」というテーマのもとで、現代社会における忍者研究の意義について述べ、地

域との連携、地元の人々が生きがいを見出すことへの助力などができればよいと考えているとして講演を締めくくった。

(山田氏による基調報告の資料は後掲する。)

続いてコメントとして、まず榎村寛之氏は、忍者ヒーローとしての「児雷也」を素材として、忍者イメージの形成過程を論じた。氏は児雷也が行うような印を結んで変化をするというあり方は本来忍者ではなく、妖術使い・幻術使いのすることであり、江戸時代、少なくとも18世紀には天竺徳兵衛や七草四郎(天草四郎)・森宗意軒に代表されるようなキリシタン・バテレンの妖術によるものとされていたのが、19世紀になると現実の欧米諸国の接近や蘭学者の活動により、キリシタン・バテレンのイメージは弱まり、単なる怪しげな術を使う存在として児雷也や『八犬伝』の犬山道節が登場し、明治以降、そのような怪しげな術と忍術のイメージが結び付けられたのではないかと結論づけた。

続いて京極夏彦氏のコメントは、昭和40年代につくられた概念である「妖怪」が過去に遡って存在したと誤解され、「平安時代の妖怪」などという言葉が横行している現状への憂慮を述べ、「忍者」についても同様の問題があると指摘した。氏は忍者について、妖術使い・幻術使いや修験、盗賊まがいの素破・乱破、そして本当の忍びなどの要素が習合し、更に立川文庫では「忍術使い」「忍術名人」であったが、昭和30年代に白土三平・横山光輝の漫画で「忍者」という言葉が用いられるようになったと論じ、これらの歴史的過程に存在したもののすべてを「忍者」とすることに危惧を覚えるとした。更に「忍法」についても、おそらく山田風太郎の小説を嚆矢として形成されたもので、忍術がテクニクであるのに対し、忍法はより上位の概念と思われるが、今後検討の必要があるとした。

パネルディスカッションでは、実像としての忍びと、近世近代の忍者イメージとの違いが論じられ、姿を消す・変化するのは必ずしも忍者に限らなかった状況から、昭和中期に「忍者」概念の形成と同時期に「妖怪」「怪獣」概念も成立したことが指摘された。更に日本における「変身」の広がりや根底に印を結んで変化する忍者のイメージがあり、その点でヒーローが「変装」し、忍術が武術の一つとして理解されている海外とは理解の違いがあることなどが指摘された。最後にいかに

過去の遺産を活用して新しい忍者イメージをつくるかということについて、京極氏は歴史的事実に忠実な「忍び」像を描いた小説は、今後の展開の可能性があるのではないかと述べ、大学での研究成果が地域も含めた社会に発信され、その中でまた新しい文化が作られていく可能性が示されて議論は締めくくられた。

(文責：園田学園女子大学非常勤講師、東アジア恠異学会会員 久禮旦雄)

エンターテインメントと怪異学  
—大学で考える忍者・妖怪—

## 忍者研究の意義

三重大学人文学部  
山田雄司



## 出版物

- 山田雄司監修・伊賀忍者研究会編  
『忍者の教科書』(笠間書院、2014年)  
『忍者の教科書2』(笠間書院、2015年)
- Supervisor: 山田雄司 Translation supervisor: 小田敦子  
“The Ninja Book” OFFICE FUKUNAGA Inc., 2014
- 吉丸雄哉・山田雄司・尾西康充編  
『忍者文芸研究読本』(笠間書院、2014年)
- 山田雄司“The Spirit of Ninja: A Study of the Global Ninja Craze” Kosaiji Books, 2014

三重大学

福学連携事業「忍者」を活かした観光・まちづくり  
伊賀地域の観光振興と国際交流の促進  
三重大学学術連携フェスティバルの発展

本島主任: 三重大学人文学部 上野倫士(講師) 伊賀市

目次

福学連携での伊賀地域の活性化・発信ネットワーク展開  
○伊賀地域の観光振興と国際交流の促進  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の観光・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり

事業内容

三重大学伊賀市、各自治体職員、地域企業職員の連携

国際シンポジウム  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の観光・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり

国際交流事業  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の観光・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり

観光・まちづくり  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の観光・文化・産業を軸としたまちづくり  
○伊賀の歴史・文化・産業を軸としたまちづくり

## 講演等

- 「修験道からみる忍者」(伊賀甲賀忍者シンポジウム、2014年2月2日)
- 「忍者の用いた道具」(コラボ産官学三重支部第11回懇話会・セミナー、北伊勢上野信用金庫、2014年3月24日)
- 「伊賀忍者の歴史に学ぶ—現代における忍術学の意義とは?—」(第11回三重大学先端研究シンポジウム、大阪大学中之島センター、2014年6月3日)
- 「忍者研究の最前線—伝承される忍者—」(岡三証券機関投資家セミナー、2014年7月9日)
- 「忍者の世界」(津西一日総合大学、2014年9月26日)
- 「忍者から見た日本文化」(福島大学学園祭、2014年11月2日)
- 「忍者の世界」(愛知県立丹羽高校、2014年11月6日)
- 「ここまでわかった! 忍者・忍術ってホント?」(?発見塾、津リージョンプラザ健康教室、2015年1月24日)
- 「忍者忍術学講座 in 文部科学省」(文部科学省、2015年5月22日)
- 「忍者の世界」(豊橋南高校、2015年5月29日)
- 「忍者の実像」(五十鈴塾、2015年8月25日)

## 活動内容

- 忍者・忍術学講座 忍者・忍術学講座 in Tokyo
- 古文書講座
- 忍者関係資料データベース(日本・海外)
- 公開トークイベント(和田竜×川上仁一×山田雄司)
- 海外忍者講座(モンゴル・イギリス・スペイン・イタリア・フランス)
- 国際シンポジウム  
「『忍者』からみた日本と中国」  
「海峡をこえる忍者—日韓をつなぐ—」  
「『忍者』からみた中国と日本と韓国—その交流の歴史と未来—」(中国社会科学院日本研究所)  
「世界と日本の忍者・忍術研究」
- 伊賀忍者史跡めぐり いがぶら
- 留学生宿泊体験
- 東北自動車道羽生PA鬼平江戸処 忍者展示
- 文部科学省展示「忍者を科学する」

## 新聞での紹介





## さまざまな結びつき

三重大学社会連携研究センター 伊賀研究拠点  
 伊賀流忍者観光推進協議会  
 日本忍者協議会  
 三重県 愛知県  
 伊賀市 上野商工会議所 伊賀上野観光協会  
 国際交流基金  
 中国社会科学院日本研究所  
 新聞社 放送局 出版社 旅行社  
 伊賀忍者研究会 甲賀忍術研究会  
 SNS

## テレビ・ラジオ

- きらめく群像～三重大学の財(たから) 三重テレビ、2012年11月27日
- ここまでわかった!? 忍者の真実～乱世の影に忍びあり～ NHKBSプレミアム、2013年8月23日
- ラジオ深夜便 NHK、2013年11月29日
- ハビリー 文化放送、2014年2月21日
- ゆめうつつー NHK、2014年3月10日
- あゝ東海北陸で NHK、2014年8月2日
- きらめき☆三重大学! 三重テレビ、2014年8月5日
- 時の散策—科学する忍者— 伊賀上野ケーブルテレビ、2014年10月
- ぐるっと関西おひるまえ NHK、2014年12月24日
- むつみのSuper Tuesday MidFM、2015年8月4日

## 忍者人気の特徴

- 「忍び」と「忍者」 実像と虚構
- 時代とともに移り変わる「忍者」  
 ←時代・民族を反映
- 忍ぶ・耐える・がまんするという日本の伝統的価値観
- 闇の世界に対する憧れ
- 超人的能力・俊敏なイメージ



## 『張良一卷書』

飛行自在霧隠之大事

「闇夜明眼ノ秘術」  
 「白日闇眼ノ秘術」  
 「人心ヲ転変スル秘術」  
 「無窮ニ身ヲ変スル秘術」  
 「隠身ノ秘術」

日傳

## 兵法書の中の「忍び」

『兵法秘術一卷書』「隠形の秘術の事」

左の手を胸にあてて仰ておく。右の手を上につぶけて中をすこし屈して摩利支天の隠形の秘印明を用者也。呪に曰く、

唵謝摩利伽陀羅ソハカ

是を摩利支天の隠形の三魔地門に入ると云也。

又曰、後代の名匠の口伝に云、印は上に同じ。呪に曰く、

唵魔利支寧諸々阿奈隠陀羅ソハカ

この呪を七反みつべし。かならずかくる秘伝也。

13

## 忍の心

『当流奪口忍之巻註』

忍ノ一字

字ノ心ハ刃ノ下ニ心ヲ書、心ハ胸也、胸ニ白刃ヲ当テ物ヲ問ヒ、決断ニ逢フ心也、

『村雲流奥忍之巻』

忍住は生き生きて生きる事と極めたり、

14

## 「忍び」に必要な要素

『軍法侍用集』元和4年(1618)成立 小笠原昨雲

一、しのびに遣はすべき人をば、よくよく吟味あるべし。

第一、智ある人。

第二、覚のよき人。

第三、口のよき人なり。

才覚なくてはしのびはなりがたかるべし。

『義盛百首』

窃盗には三つのならひのあるぞかし論とふてきと扱は智略と

14

## 浮世絵にみる忍者



歌川国貞 中村芝翫 1830年



歌川国貞 今源氏錦絵合「須磨」1853年

## 「しのび」の仕事

『万川集海』延宝4年(1676) 藤林保武

能忍者ハ抜群ノ成功ナリトイヘ共、音モナク嗅モナク智名モナク勇名モナシ、其功天地造化ノ如シ、



15

## 立川文庫の流行



1911年から23年にかけて200点近く出版された小型講談本。立川文明堂(大阪)刊。『諸国漫遊一休禪師』が第1編。『水戸黄門』など。定価25銭。口絵を入れた文庫本で、講談を筆記。漢字にはすべてルビを振る。読者の多くは丁稚奉公の少年や小中学生。第40編『猿飛佐助』(1914)が発刊されると忍術ブームが巻き起こる。尾上松之助主演で映画化。小型講談本の相次ぐ出版。

- ・真田信繁(幸村) 『真田三代記』『難波戦記』→立川文庫
- ・真田十勇士の創作:猿飛佐助、霧隠才蔵、根津甚八、由利鎌之助、寛十蔵、三好清海入道、三好伊三入道、望月六郎、海野六郎、穴山小介

15

豪傑児雷也 日活1921年



## 忍者に学ぶ

何事にも耐え忍び、人間の気質や自然環境、社会環境などを掌握する忍者・忍術。  
そこには過去・現在・未来を通して困難を生き抜くための技が凝縮されている。

多分野からの研究により、現代社会を生きるために必要な能力、人や自然との交わり方など忍者の知恵を学び、現代社会や未来へいかす。

### 総合的学問としての「忍者・忍術学」

20

## 地域とのつながり そして世界へ

- 地方国立大学の存在意義
- 地域のみなさんとの交流
- 日本を代表する文化資源である忍者を世界へ
- 世界から多くのみなさんがやってくる伊賀へ

### 生きがいの創出

21

平成 28 年 2 月 11 日（木・祝）、本学 3 号館 2 階 321 教室 AV ホールにて、地域志向教育研究の成果に関する中間報告会が行われた。当日の司会は、学生地域連携推進委員会（通称つな Girl）に所属する人間健康学部総合健康学科一年の久京加、吉岡里菜、食物栄養学科一年の大塚海咲が担当した。

まず 12 時 30 分から、川島明子学長（地域連携推進機構機構長）による挨拶があった。つぎに、大江篤教授（地域連携推進機構副機構長）による趣旨説明として、園田学園女子大学による「地（知）の拠点整備事業」の取り組みである「＜地域＞と＜大学＞をつなぐ経験値教育プログラム」に関する説明があった。



12 時 45 分から、第一部として真鍋和博北九州市立大学教授による基調講演「北九州市立大学における地域連携・実践方教育の展開～地域の担い手としての大学生発見～」が行われた。そこで真鍋氏から北九州市立大学における地域創生学群設置の経緯や、その取り組みの特徴が話された。



休憩をはさみ 13 時 45 分から、園田学園女子大学における地域志向教育研究プロジェクトの成果報告が行われ、各プロジェクトの代表者から平成二十七年度の成果が発表された。

今年は「地（知）の拠点整備事業」が始まって三年目となり、それぞれのプロジェクトで取り組んできた活動が、さまざまな成果をあげていることがうかがえた。

15 時 50 分からは、会場を 3 号館 1 階コミュニティホールに移し、情報交換会が行われた。各プロジェクトの研究者と、学内のほかの教職員、また地域での提携先や当日の参加者との間で、活発な意見交換が行われた。



今年は第一部、第三部参加の真鍋教授のほか、田代洋久北九州市立大学教授も参加して下さった。そこで他大学の取り組みとの比較など、学内の教職員にとってもさまざまな刺激があった。



16時30分からは一日の総括として、「大学と地域の今後」と題したトークセッションが行われた。真鍋教授と、尼崎市顧問の船木茂記氏（博報堂）を迎え、司会を大江教授が務めた。短い時間だったが、真鍋教授から実際に地域へ学生を出す苦労や、問題点が指摘された。船木顧問からは、北九州市立大学地域創生学群の学生が、市外からの入学生が多いにもかかわらず市内での就職率が高い、という点に注目したうえで、大学での取り組みだけでなくそれを行政や自治体はどう受け入れるかが重要であるとの意見が出された。

最後に、大江教授からは、園田学園女子大学の地域志向教育科目「つながりプロジェクト」が次年度から開始することから、尼崎で育てられた学生が社会人としての基礎的な力を成長させていくというプロジェクトの目標について、改めて大学内外、さらに地域、行政への協力、理解の呼びかけが行われた。

当日は、尼崎市内の提携先の方々や、行政職員など多くの参加者があり、大学学内の教職員をふくめて合計91名の参加者があった。

（文責：地域連携推進機構 TA 久留島元）




 文部科学省  
**地(知)の拠点**  
 2016年9月11日：AVホール

園田学園女子大学 地(知)の拠点整備事業  
 (地域)と(大学)をつなぐ経験値教育プログラム

平成27年度 地域志向教育研究報告会  
**趣旨説明**

地域連携推進機構 副機構長  
 人間教育学部 児童教育学科 教授  
 大江 篤

**【地域志向基礎教育】**  
**地域理解導入科目「大学の社会貢献」**  
**全学共通科目(1年次)**

**【学習目標】**  
 大学が立地する尼崎市の特性と課題を学び、それらの課題の解決策について市に提案する。そのことを通して、地域社会における大学の役割、学生自身が大学で学ぶことの意義と責任、自己が担うべき役割を自覚する。

2015年度 第1学期 最優秀チーム  
 (総合健康学科・食物栄養学科・人間看護学科・短期大学部生活文化学科)  
 さんさんタウン活性化大作戦

2015年度 第2学期 最優秀チーム  
 (総合健康学科・児童教育学科)  
 企業と学生がつながる尼崎産業の魅力発信  
 人との繋がりがー私達の未来ー

園田学園女子大学 地(知)の拠点整備事業  
 (地域)と(大学)をつなぐ経験値教育プログラム

建学の精神「捨教精進」にもとづき、多面的に地域課題に向き合うことができる社会に有用な人材の育成

尼崎市の地域課題



**研究**      **教育**      **社会貢献**

ましつくり推進事業  
 まちの利便性  
 まちの発展

人間健康学部 人間教育学部 短期大学部  
 総合健康学科 食物栄養学科 人間看護学科 児童教育学科 生活文化学科 幼児教育学科  
 学際的・協力的な連携  
 つながりプロジェクト  
 社会貢献型科目  
 社会貢献型科目・大学の社会貢献・公務員科

全学を横断する経験値教育  
 「知識」を「知恵」に変える循環型の「経験値教育」  
 大学と地域による新しい評価システムを導入

**平成28年度開設 地域課題解決型科目**  
**つながりプロジェクト**

**【学習目標】**  
 尼崎市の地域課題に即したテーマを、尼崎市や尼崎商工会議所等とともに取組み、課題解決に向けての企画、提言を行うことを目指す。

○2年次生配当(通年2単位) PBL型演習科目  
 ○必修科目  
 ○科目担当 本学専任教員(複数可)  
 科目アドバイザー(本学専任教員)+科目担当者(学外者も可)  
 ○各クラスの履修登録者は20人程度。  
 ○この科目で地域の実情を知り、調査研究した多様な地域課題への眼差しを基盤に、専門科目や実習において、より実践的な取組みや理解の深まりにつながるようカリキュラムマップを作成する。  
 ○学習ポートフォリオである「プロジェクト評価」を経験値評価システム内に構築する。

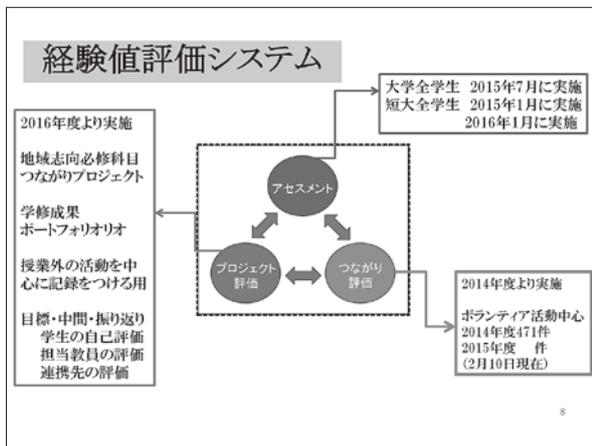
**地域志向教育研究とは？**

◎地域課題解決の研究  
 研究成果の還元  
 技術指導等

◎大学全体の地域志向を踏まえ、  
 各教員の教育・研究・社会貢献  
 活動を改善するための支援

No.	所属	教員名	プロジェクトテーマ
1	人間健康学部	堀田博史教授	タブレット端末を活用した「よりわかりやすい授業」のデザイン
2	人間看護学科	山本森子教授	地域における感染対策「手洗い教室」
3	児童教育学科	大江篤教授	地域資源を活用した安心・安全まちづくり
4	児童教育学科	影浦紀子講師	地域子育て支援
5	食物栄養学科	餅美知子教授	健康意識の高い町・尼崎の土づくりと食育の定着について
6	総合健康学科	衣笠治子准教授	庄下川環境を利用した地域住民の親水性の向上
7	人間看護学科	林谷啓美助教	運動を活用した健康に暮らせる街づくり (尼崎市に住む高齢者の運動交流プロジェクト開発と実施)
8	人間健康学部	吉永尚准教授	地域日本語教育への提言(ボランティア育成の乗機と課題)
9	総合健康学科	江崎和子教授	地域で創るからだの心健康
10	国際交流センター	村岡慶治准教授	長期・短期留学生との交流を通じて異文化理解を深める

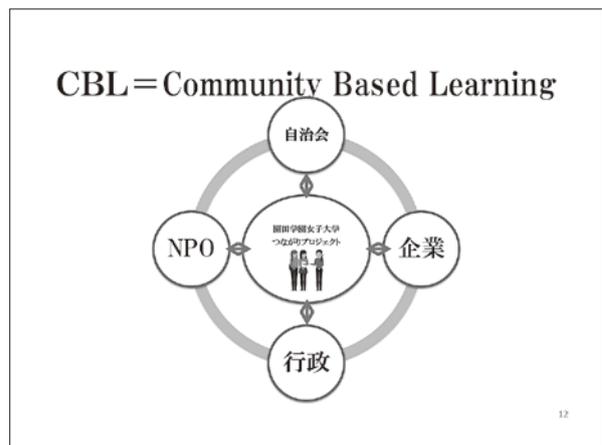
No.	所属	講師名	プロジェクトテーマ
11	地域環境計画研究所	若狭健作氏	地域の学びプロデュース演習
12	尼崎南部再生研究所	榎本武雄氏	まちづくり企画実践演習
13	女性センター・テレビエ	岩田さやか氏	尼崎の女性センターを知り、男女共同参画を考える
14	NPO法人 尼崎環境オープンカレッジ	大原一彦氏	おもしろき こともなき世を おもしろく
15	尼崎の島市長経地 連携学履修プロジェクト	石丸京子氏	100年の森づくりから生物多様性で遊ぶプログラムをつくる
16	スタジオJ	林彰華氏	地域に身近な薬局フリースペースにおける健康づくりプロジェクト
17	同志社大学嘱託講師	久留島元氏	尼崎探検隊 富松地域
18	兵庫教育大学大学院准教授	上田真弓氏	あまこキャリア教育プログラムの開発・実施
19	NPO法人 ころあしんLight	正岡茂明氏	尼崎の歴史(江戸時代)を知り、尼崎の歴史力(歴史の豊かさ)を感じてもらおう
20	(特選)日本共産党尼崎委員会ネットワーク	榎垣康樹氏	武庫地区における市民活動の多様性の理解と実践的研究
21	松竹芸能株式会社	宮島友香氏	「笑い」による健康増進プログラムの開発



### 経験値教育からCBLへ

**CBL=Community Based Learningとは？**  
 コミュニティとは、地域共同体だけではなく、多様な集団である。学生が地域で学ぶことにより、学部学科の枠を超えた学生間のつながり (Community) ができるとともに、受け入れていただいた地域の方々の中で新たなつながり (Community) が生まれて来る。学生を核に新たなコミュニティが形成され、地域が活性化されることをめざす。全学で取り組むCBL科目「つながりプロジェクト」の活動によって、本学が地域でかけがえのない存在となり、地(知)の拠点として地域創生の一翼を担うことができると考える。

**学外でのフィールドワークや自主的なワークショップ、課外の調査・学習について記録するポートフォリオ**





# 彙 報

地域連携推進機構 平成 27 年度統括会議  
(地域連携推進機構運営委員会) 記録

## 出席者名簿

### 【尼崎市】

尼崎市企画財政局政策部政策課、伊藤裕章課長、  
尼崎市企画財政局政策部政策課、安藤雄一氏  
尼崎市企画財政局政策部政策課、中西亮太氏

### 【尼崎商工会議所】

尼崎商工会議所産業部、小林史人部長

### 【尼崎市社会福祉協議会】

尼崎市社会福祉協議会、氏丸善行事務局長

### 【地域連携推進機構運営委員】

総合健康学科：山本起世子教授

総合健康学科：藤澤政美教授

人間看護学科：野呂千鶴子教授

食物栄養学科：田渕正樹准教授

児童教育学科：影浦紀子講師

児童教育学科：日和佐尚准教授

生活文化学科：永村悦子准教授

幼児教育学科：倉科勇三准教授

児童教育学科：大江篤教授・企画運営部長、(地  
域連携推進機構副機構長)

### 【地域連携推進機構事務兼任】

地域連携推進機構：榎本匡晃

図書館：榊井かず美

## 第 1 回 統括会議

日時：平成 27 年 4 月 9 日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

議題：

新メンバー紹介(学長含む)

- (1) 平成 26 年度地(知)の拠点整備事業報告について
- (2) 平成 27 年度地(知)の拠点整備事業計画について
- (3) その他

## 第 2 回 統括会議

日時：平成 27 年 5 月 14 日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

1. 議題

- (1) つながりプロジェクトについて
- (2) 平成 27 年度地域志向教育研究について
- (3) 経験値評価システム、アセスメントについて

- (4) 8 月シンポジウムについて
- (5) コンソーシアムひょうご神戸学生交流委員会(神戸キッズフェスティバル含む)について
- (6) 市からの講師派遣について
- (7) 「あまがさき歴史音楽祭」について

2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つな Girl 活動報告(5/23JC 含む)
- ・第 28 回ひょうご女性未来会議 in あまがさき
- ・いきいきわくわく、尼崎卸売市場、サマーセミナー
- ・Enactus Japan 2015
- ・都市型ツーリズム
- ・大学 COC プラスについて
- ・職業実践力育成プログラム認定制度

## 第 3 回 統括会議

日時：平成 27 年 7 月 10 日 17:00～19:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

1. 議題：

- (1) つながりプロジェクトについて
- (2) 平成 27 年度地域志向教育研究について
- (3) 経験値評価システム、アセスメントについて
- (4) 9 月全学教職員研修会について
- (5) コンソーシアムひょうご神戸学生交流委員会(神戸キッズフェスティバル含む)について
- (6) 尼崎スポーツ祭(10 月 12 日)について

2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つな Girl 活動報告(5/23 実施 JC 含む)
- ・大学 COC プラス
- ・ひょうご女性未来会議 in あまがさき報告
- ・地(知)の拠点整備事業中間報告シンポジウム
- ・都市型ツーリズム
- ・大学連携による地域力向上事業
- ・「あまがさき歴史音楽祭」について
- ・職業実践力育成プログラム認定制度について

## 第 4 回 統括会議

日時：平成 27 年 7 月 9 日 17:00～19:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

1. 議題：

- (1) つながりプロジェクトについて
- (2) CBL (Community Based Learning) について

- (3) 経験値評価システムについて（含むアセスメントアンケート）

## 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つな Girl 活動報告
- ・「地域創生と経験値教育」中間報告会
- ・大学連携による地域力向上事業
- ・都市型ツーリズム（つながり交流祭）
- ・尼崎スポーツ祭（10月12日）
- ・「あまがさき歴史音楽祭」
- ・あまがさきサマーセミナー
- ・(株)ベンカンからのモニタリング要請
- ・大学 COC プラスについて
- ・NPO スマイルひろばとの覚書締結
- ・コンソーシアムひょうご神戸学生交流委員会（神戸キッズフェスティバル含む）

## 第5回 統括会議

日時：平成26年8月7日 17:00～18:10

場所：園田学園女子大学特別会議室

### 1. 議題：

- (1) 経験値評価システムについて（アセスメントアンケート大学結果）
- (2) つながりプロジェクトについて
- (3) 尼崎社会福祉協議会について

### 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つな Girl 活動報告
- ・「地域創生と経験値教育」中間報告会
- ・大学連携による地域力向上事業（豊岡市対応）
- ・若者の自殺予防支援補助事業（県）
- ・あまがさきサマーセミナー
- ・(株)ベンカンからのモニタリング要請
- ・神戸キッズフェスティバル（コンソーシアムひょうご神戸学生交流委員会）
- ・解剖学9月実施の日程変更
- ・CBL 研究会

## 第6回 統括会議

日時：平成27年9月10日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

### 1. 議題：

- (1) つながりプロジェクト非常勤講師について
- (2) 私立大学等改革総合支援事業タイプ2（ラーニングコモンズ）について
- (3) 企業PRに関する大学生との連携事業

## 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つな Girl 活動報告
- ・地（知）の拠点整備事業「地域創生と経験値教育」中間報告会
- ・全学研修会「CBL（community Based Learning）と経験値教育」
- ・CBL 研究会
- ・やさいをたべようレシピコンテスト
- ・(株)ベンカン チューブロックモニタリング
- ・2015 スポーツのまち尼崎フェスティバル

## 第7回 統括会議

日時：平成26年10月8日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

### 1. 議題：

- (1) 職業実践力育成プログラム（BP）について
- (2) つな Girl 主催キッズフェスティバルについて

### 2. 報告・その他（資料3 各資料参照）

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つな Girl 活動報告
- ・11月まちづくり解剖学
- ・つながりプロジェクト科目
- ・市制100周年記念弁当市長表敬訪問
- ・市制100周年記念すごろく
- ・地域連携推進機構印刷物の発行について
- ・尼崎市産業振興推進会議（尼崎市経済活性化対策課）
- ・コンソーシアムひょうご神戸 キッズフェスティバル
- ・波賀町米袋デザイン
- ・神戸マラソンボランティア募集

- (1) Studio-L 兵庫県立尼崎病院内フリースペースプロジェクト
- (2) 経験値評価システムについて
- (3) 地域志向科目アンケート、教職員学生及び地域対象アンケート
- (4) プロジェクトプランコンペ（学生の発表の場）
- (5) つながりプロジェクトについて
- (6) 尼崎市内組織との連携について

## 第8回 統括会議

日時：平成26年11月12日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学特別会議室

### 1. 議題：

- (1) 「経験値評価システム」H27年度アセスメント
- (2) つながりプロジェクトについて
- (3) 政策提言発表会について
- (4) 経営改善計画（平成27年～29年）「骨太の方針：中論」について

## 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・学生の活動報告（サイネージ掲載）
- ・つなGirl活動報告
- ・11月学生活動予定
- ・地域志向教育研究（影浦先生）発表会
- ・地域志向教育研究2015報告会（2/11）
- ・地域連携推進機構印刷物の発行
- ・尼崎市産業振興推進会議（尼崎市経済活性化対策課）＝大学の社会貢献
- ・スポーツのまち尼崎フェスティバル

## 第9回 統括会議

日時：平成27年12月10日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学第二会議室

### 1. 議題：

- (1) 教育課程についての意見聴取について（資料1）
- (2) つながりプロジェクトについて
- (3) 尼崎市関係各所から平成28年度連携事業について
- (4) 平成28年度事業計画について（資料4）

### 2. 報告・その他（資料5 各資料参照）

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つなGirl活動報告、学生の活動報告（サイネージ掲載）
- ・地域志向教育研究報告会について
- ・CBL研究会（12/22）、まちづくり解剖学（1/7、3/12）
- ・平成27年度地域志向科目調査
- ・第1回ひょうご神戸プラットフォーム協議会
- ・「大学の社会貢献」尼崎市経済活性化対策課（尼崎市産業振興推進会議）
- ・和歌山県田辺市梅振興課からの依頼
- ・入試広報部からの依頼

## 第10回 統括会議

日時：平成28年1月14日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学第二会議室

### 議題：

- (1) 大学COC+について
- (2) つながりプロジェクトについて
- (3) 旧聖トマス大学施設活用及び歴史文化ゾーン整備について

## 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つなGirl活動報告、学生の活動報告（サイネージ掲載）
- ・日経グローバル
- ・1月～3月間の活動

## 第11回 統括会議

日時：平成28年2月18日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学第二会議室

### 議題：

- (1) 経験値評価システムについて
- (2) 学内地域志向科目、アンケートについて
- (3) 尼崎市、尼崎市教育委員会との連携授業関係、教育課程意見交換会について
- (4) つながりプロジェクトについて

## 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つなGirl活動報告、学生の活動報告（サイネージ掲載）
- ・大学COC+（神戸大学）
- ・地域志向教育研究報告会
- ・立花公民館申し入れ、尼崎市立衛生研究所連絡
- ・尼崎市の旧聖トマス大学施設活用及び歴史文化ゾーン整備
- ・2月～3月間の活動

## 第12回 統括会議

日時：平成28年3月10日 17:00～18:00

場所：園田学園女子大学第二会議室

### 議題：

- (5) 経験値教育について
- (6) つながりプロジェクトについて
- (7) 大学COC+（神戸大学）との協議について
- (8) 三重県熊野市との連携について

## 2. 報告・その他

- ・ボランティア情報、まちの相談室
- ・つなGirl活動報告、学生の活動報告（サイネージ掲載）
- ・経験値評価システム
- ・平成28年度日程概要

日時：平成 28 年 3 月 25 日（金）10：30～12：50

場所：園田学園女子大学 1 号館 2 階 第 1 会議室  
議題：

- 1) 地域連携推進機構長より挨拶
- 2) 平成 27 年度事業報告
- 3) 平成 27 年度事業決算報告
- 4) 大学 COC プラス概要説明
- 5) 平成 28 年度事業計画・予算
- 6) 平成 28 年度評価委員（案）
- 7) その他

出席者：

【学外評価委員】

近藤 正昭 尼崎工業会専務理事  
藤井 克祐 尼崎経営者協会専務理事  
正岡 茂明 神戸いのちの電話事務局長  
前原 啓二 前原会計事務所

【園田学園女子大学】

川島 明子 地域連携推進機構長  
大江 篤 地域連携推進副機構長  
榎本 匡晃 地域連携推進機構事務局課長  
榊井 和美 地域連携推進機構委員  
岡本 真生 地域連携推進機構 TA

(計) 9 名

1) 地域連携推進機構長より挨拶

【川島機構長】

ー平成 25 年度から開始した COC 事業も今年で 3 年目、平成 28 年度からいよいよ後半期に向かう。平成 27 年度は教育研究地域貢献ということで本学一生懸命取り組んだ。平成 28 年度は新事業の目玉として、〈つながりプロジェクト〉に着手する。学生を外に出し、地域住民と学生が一生懸命活性化し、地域とともに進む大学として前進していきたい。平成 28 年度の参考にしたいので、ぜひ忌憚のないご意見等をいただきたい。

2) 平成 27 年度事業報告

【大江副機構長】

ー本年は、文科省 COC 事業 5 年の中間年である。以下の順で報告する。(①全体的な形のシンポジウムやフォーラム、②教育、③研究、④社会貢献、⑤統括会議)

①全体的な形のシンポジウムやフォーラム

・中間報告会（2015 年 8 月 30 日）：

第 1 部で CBL の説明。第 2 部で地域活動をした学生たちの報告 ※2 名の TA が司会。  
第 3 部は地域志向教育研究一分野として、「エンターテインメントの世界と大学の学知との関わり」に関するシンポジウム

・地域志向教育研究会報告会（2016 年 2 月 11 日）  
北九州市立大学の真鍋先生の講演をはじめ、先生方の 10 研究発表、真鍋先生と尼崎市の船木顧問とともに、次年度の学生を地域に出す教育にベースを置いたディスカッション

②教育

・大学の社会貢献

1 学期：塚口駅前のさんさんタウンの活性化をベースに、課題解決（型）の授業  
2 学期：尼崎市経済活性化対策課の依頼から、尼崎市内の企業 15 社の案内パンフレットを製作  
→ 各々優秀チームの学生たちが、政策提言発表会にて市長の前で発表。  
※優秀チームの成果は、冊子媒体で紹介。

・2 年次の児童教育学科科目

30 チームの中からコンペで勝ち抜いたチーム（「地域で交通事故をゼロにしよう」）も、政策提言発表会にて市長の前で発表。

・優秀卒業論文で、地域を題材に扱った卒業論文 1 年生の社会貢献から 3・4 年生まで地域での学びが、今の段階で完結した成果

③研究

・10 プロジェクトを採択

・研究会「まちづくり解剖学」を今年度は 7 回開催

・研究成果の一例

・『尼崎百物語』の執筆。地域資源を活用したまちづくり構築を目指し、本学の研究チームと尼崎市として地域研究資料館の辻川館長に協力いただいた。市内の地域資源を 100 話選んだ。4 月出版予定。

・「健康づくりの運動交流プロジェクト」の開発。既に CD は発売済みだが、本年度は DVD を製作。

④社会貢献

・つな Girl（学生地域連携推進委員会）：メンバー 10 名。定例会議を行うとともに、地域の方のいろんな要望をお受けするという「まちの相談室」も開室。自分たちでも色々と活動を企画してい

る。

⑤総括会議（月1回）

尼崎市、尼崎商工会議所、それから本年度からは尼崎市社会福祉協議会事務局長にも参加いただき、教育・研究・社会貢献を討議。【榎本課長】  
- 予算のほうですか。

※質疑応答はなし。

3) 平成 27 年度事業決算報告

【榎本課長】

- 平成 27 年度の予算額は 888 万 1000 円（※人件費除く。）

平成 27 年度の決算見込み、736 万 8000 円になる予定。平成 28 年度の計画額は 75 万円。（※文部科学省に当初申請した金額。）

平成 27 年度は中間年で大きなシンポジウムかつ中間発表会を計画したため、例年より若干多く見積もっていた。結果、一部消耗品費が突出した。また、官補助金返還費支出（平成 25 年度の予算）を 65 万 1000 円ほど余らせた。これに対し、4 月に返金するよう指示が出たため、その返金を行った。

また、地域志向教育研究調査研究費支出は、先生方の個人支出で提出した。ただし、うちの拠点整備事業は、印刷費及び本会議の開催費等々で現段階から多分 10 万円程度まだ上乘せ予定である。くわえて、人件費も翌月払いになるため、同様に上乘せ予定である。

【大江副機構長】

- 3 年の中で補助金額満額がなかなか使い切れていないこと、特に人件費は、TA の人員確保が非常に厳しい状況である。（※大学院がない大学のため）その代わり、契約職員のほうの残業費に回している。

ところで、先生方の研究費で極端に執行率の低い先生がいる現状である。これについては、今後調整する必要がある。

■各委員からの質問意見■

【近藤委員】

- 非常勤職員の補助金を余らせることは回避すべきである。

国家資格という強みを活かすべきである。

【前原委員】

- 調査研究費で 50 万円という単一的な予算の見直しが必要ではないか。

【近藤委員】

- 国家資格という強みを活かすべきである。

【醍醐委員】

- 地域課題に学生がどのように向き合い、試行錯誤しながら、課題解決のために地域の人たちとともに取り組んでいくか、そのあたりの評価をどのように行っていくかが今後の課題だ。経験評価システムのさらなる発展と、28 年度からの「つながりプロジェクト」に期待したい。

【藤井委員】

- 初年度に報告があがったタブレットやスマホでつくったシステムはどうなったのか。資金に余裕があるならば、印刷製本費に流用し、園田で作った独自のプログラム、システムについて報告書等を作製し、外部に PR してはどうか。また HP にアップするのはどうか。

【川島機構長】

- 本学の活動を外部に示していく必要性を痛感している。

4) 大学 COC プラス概要説明

【榎本課長】 -

- ・『地の拠点整備事業』が『地の拠点大学による地方創生事業』に組み込まれた経緯説明。→ 神戸大学が主大学となる事業『地域創生に伝える実戦力養成ひょうご神戸プラットフォーム』に、平成 28 年度から事業の一構成学校として協力予定。
- ・教育プログラムの構築事業として、兵庫県全県下の大学教員が使えるような教科書を製作予定。
- ・平成 28 年度以降は、COC の補助金そのものが神戸大学を経て、園田学園女子大学に回される。（※事業の補助金額は、4 大学でそれぞれ異なる。）文科省への申請も神戸大学の地域連携推進室の事務方を通じて実施する予定。
- ・平成 27 年度採択のひょうご神戸プラットフォームは平成 27 年から 5 カ年となる。つまり COC 分はあと 2 年で終了するが、プラス分の配分は平成 31 年まで継続予定。
- ・〈つながりプロジェクト〉（計 21）
  - 10 プロジェクト：地域志向教育研究を 3 年間続けた専任教員
  - 11 プロジェクト：特色ある地域課題解決の教育研究の担い手である非常勤教員

受講生：380名（※1クラス17人、18人）

## 5) 平成28年度事業計画・予算

### 【大江副機構長】

－COC予算は5年間、100パーセント満額支給予定。それ以降の改革支援の補助事業は5年間で4年目以降、2分の1、4分の1に削ってソフトランディングできる形が既に常態化している。そのためCOC＋分は、神戸市看護大がCOC＋で補助金140万を支給され、(本学は)その半額70万円を支給されている。平成29年度、30年度、31年度と続く予定で、29年度3年目までは70万にはなるが、後割合で減っていく予測をたてている。そこで、COCでの事業がCOC＋の事業にうまくリンクできるような形でのものと事業を計画している。

その一つとして、教育プログラム研究開発を推進する。教員のサポートとして学術研究員を夏休み以降アルバイトとして雇用し、現在進行中の教科書執筆事業に関与する予定である。

### ・インターンシップ

本学看護学科は100パーセント全員実習に行くため、長期課題解決型のインターンシップは今後考えていくべき課題である。

・地元就職率は取りあえず8パーセントアップが課され、地元就職者など雇用創出方法については今後要検討事項である。

・兵庫県の取り組みの特徴：神戸新聞社の関与。

例) ネームラボ事業

### ■各委員からの質問意見■

### 【近藤委員】

－園田大学の就職率はどうか。売り手市場なのか。

一般企業への就職はあるのか。

## 6) 平成28年度評価委員(案)

村上委員 PTA連合会会長が任期満了で交代次のPTA連合会会長へ申し送り。

正岡委員 つながりプロジェクト担当となるため学内関係者になる。評価委員を辞退するが、後任を推薦する者がいない。大学側で選定、判断をお願いしたい。

そのほかには異論なし。

## 7) その他

### 【藤井委員】

－平成28年度兵庫県経営者協会事業インターンシップへの積極的参加を学生に促してほしい。

### 【前原委員】

－中小企業の労働力不足解決に向けた地域課題。就職支援の強化。ジョブカフェなどへの大学の参入。卒業後のケアが園田ブランドを高める。

### 【正岡委員】

－学校と地域の結びつき、卒業生との結びつき、先輩後輩の結びつきを強める施策が園田学園女子大学として積極的に取り組むのが望ましい。

### 【近藤委員】

－専門職だけでなく視野を広く一般企業などへの就職を考慮に入れる。第2新卒というか、大学卒業後も大学で面倒をもつキャリアセンター化を。

### 【大江副機構長】

－各学科とも長い歴史があり、同じような専門職に就職している者はつながりがあるが、全卒業生としては動向把握が弱い。同窓会とは別の部署できちんと把握する必要性を感じている。

### 【川島機構長】

－本学は、卒業後もサポートを続けている。女子大であるがゆえに卒業後大学に戻り、担当教員等に相談するという結びつきが強い。地域の課題として今後は労働力不足を視野にいれ、卒業生が大学に戻ってきて学修、再就職などのサポートが行えるよう女性が活躍をするうえでの女子大学の役割は大きいと考えている。

(了)

あまがさきの歴史探訪まちあるきツアー

# 歴史の旅in尼崎

北から南へ



## 第4章

# 武庫川に沿って

Goal!

### 「歴史の旅in尼崎」って？

実はとても豊かな尼崎の歴史。そして、このまちで活動する人々をつなぎながら、市制100周年を機に、4年がかりで尼崎のまちを歩きつづす市民プロジェクト。

市内各地で活動されている方々による解説講座を交えながら、史跡などを巡り、歴史と人を紡いで歩いています。

最終年度となる今回は、尼崎の西の境・武庫川から運河、そして海へ。わたしたちと、尼崎の歴史を巡る旅へと出ませんか。

### お申込

fax もしくは メールで  
園田学園女子大学 地域連携推進機構まで  
fax:06-6422-8523  
machidukuri@sonoda-u.ac.jp

### お問い合わせ

お電話で  
尼崎市立地域研究史料館まで  
tel:06-6482-5246 (火曜・祝日休館)



### 【第1回】

## コスモス園そして六樋 ～武庫川に沿って～

11月8日(日) 13:00 集合  
尼崎市営バス武庫営業所

市バス武庫川営業所→コスモス園→六樋→県立阪神昆陽高(解説講座)  
→西国街道・髭茶屋→源太郎橋→市バス武庫営業所(解散)  
※健脚者オプションコース:阪急武庫の荘駅まで徒歩

共催 髭の渡し花咲き会



### 【第2回】

## 大庄の今昔

～日本一の村役場と中国街道～

11月15日(日) 12:30 集合  
JR立花駅改札前

JR立花駅改札前→名残りの砂山→東光寺→大島神社→寶樹院  
→大庄おもしろ広場(解説講座)→大庄公民館→契沖碑→雉が坂  
→西新田の渡し→素盞鳴神社→源光寺→阪神武庫川駅(解散)

共催 大庄まちづくり懇話会



### 【第3回】

## 臨海部の再生

～運河と尼ロックと21世紀の森～

11月29日(日) 13:00 集合  
阪神センタープール前駅

阪神センタープール前駅→道意神社→キャナルベース(解説講座)  
→であい橋→中堀運河→南堀運河→尼ロック  
→尼崎スポーツの森→尼崎の森中央緑地(解散)

共催 尼崎キャナルガイドの会

●各回定員 先着30人

●参加にあたって保険料を1人50円いただきます。

主催:「歴史の旅in尼崎」実行委員会

あまがさき市民まちづくり研究会/尼崎市民まちづくりネットワーク/サロン・ド・サモン/園田学園女子大学 (50音順)

# 歴旅 歴史の旅in尼崎

ニ崎 ×旧尼崎警察署

powered by 公益財団法人 尼崎環境財団

参加無料 × 申込不要

主催：公益財団法人 尼崎環境財団  
学校法人園田学園 園田学園女子大学  
サロン・ド・サモン  
「歴史の旅in尼崎北から南へ」実行委員会

## 尼崎 × 歴史 × 建築 ミニフォーラム。

初夏の休日、まちづくりや歴史、建築をテーマにお話しましょう

at 旧尼崎警察署

2015.6.21 sun 9:30-12:00

尼崎市北城内48-4・尼崎市立文化財取壊車前



### 1. 歴史の旅in尼崎、 ニ崎一夜城projectに参加して

スピーカー：県立尼崎高等学校  
教育と絆コース、美術部のみなさん

■「歴史の旅in尼崎北から南へ」実行委員会(※) × 県立尼崎高等学校  
(※)あまがさき市民まちづくり研究会 × 尼崎市民まちづくりネットワーク × サロン・ド・サモン × 学校法人園田学園 園田学園女子大学

実は豊かな尼崎の歴史と人をつないで歩く、歴史探訪的まちあるきツアー「歴史の旅in尼崎」。そして尼崎市市制100周年を市民で盛り上げる尼崎城一夜城project。参加してくれた高校生達が感じたこと、気づいたことを語ります。(50分程度)



旧尼崎警察署

2

### 2. 旧尼崎警察署の 保存・活用を考える ミニワークショップ：自由参加

■公益財団法人 尼崎環境財団 × サロン・ド・サモン

大正15年に建てられた近代建築、旧尼崎警察署。阪神尼崎駅の近く、かつて官庁街であった城内地区にひっそりと佇んでいます。近年、アートや音楽などの様々なイベントなどに活用されつつある、この建物の保存と活用について意見交換します。(50分程度)

# 漫画大募集

## 歴史×マンガ×尼崎

来たれ、才能！

### 趣旨

「歴史の旅in尼崎～北から南へ」実行委員会では、2016年の尼崎市市制100周年を記念して、尼崎の歴史を素材とする未発表のオリジナルなマンガ作品を募集します。

尼崎に関心を持つクリエイターのみなさん、とくに若い世代のみなさんのご応募をお待ちしています。

### 応募要件

**応募資格 不問**

**2015年11月30日(月)締切**

### 表彰

最優秀作品1点及び優秀作品数点を選考し、表彰する予定です。なお、受賞作品は、尼崎市市制100周年記念刊行物に掲載することも検討しています。

### テーマ

次のテーマから選んでください。

〔原始・古代〕 弥生時代の人々のくらしー田能遺跡

〔中世・戦国〕 名月姫

ー尾浜から能勢に嫁いだお姫さまのものがたり

〔中世・戦国〕 信長との戦い

ー尼崎町焼き討ち、荒木村重一族の処刑

〔近世〕 尼崎城築城

ー戸田氏鉄と4人の奉行たち

〔近世〕 象が通るー享保の象行列

〔近代・現代〕 ジェーン台風と防潮堤ーふたりの市長

〔近代・現代〕 荻原一青ー尼崎が生んだ城郭画家

### 要項

**応募方法等については、要項でご確認ください。**

今すぐ、ここから  
ダウンロード  
Get Now! Download



主催「歴史の旅in尼崎～北から南へ」実行委員会

参加団体：あまがさき市民まちづくり研究会・尼崎市民まちづくりネットワーク・サロン・ド・サモン・園田学園女子大学（50音順） 後援 尼崎市



！必ず募集要項をご確認いただき同意のうえ、ご応募ください。

●お問い合わせ：園田学園女子大学 地域連携推進機構

tel 06-6429-9921 fax 06-6426-2307 chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



# 未来をになう 子どもを育てるために

子どもの発達や関わり方に不安や難しさを感じて悩んでおられる  
お父さん、お母さん、そして支援者の皆さまへ

例えば子どものしつけ。頭ごなしに叱るのではなく、「感情」は冷静に受け止めて、「行動」を修正することや、自己肯定感を高めるための注意点など、子育てに大切なことを改めて学びましょう。

楽しく子育てができるヒントを一緒に見つけてみませんか。



**日時** 平成27年5月30日(土)  
13:00 ~ 16:00

**場所** 園田学園女子大学 5号館3階大会議室  
尼崎市南塚口町7-29-1 tel.06-6429-1201  
※阪急「塚口駅」南出口より徒歩10分  
※専用駐車場はありません。お近くの有料駐車場をご利用下さい

**参加費** 1,000円

## プログラム

第1部 オープニング (13:00~13:20)

講演 (13:20~14:50)

「未来をになう子どもを育てるために」  
子ども発達相談センター・リソース「和」所長  
米田 和子 先生

第2部 ふれあい広場 (15:00~16:00)

- ◎ ほっとタイム  
園田学園女子大学
- ◎ 尼崎の思いは一つ!!  
「子どもは未来の宝やで」
- ◎ 交流タイム  
リレートーク など



## 講師略歴

大阪教育大学卒業後34年間堺市内小学校教員として、通常の学級担任、特別支援学級担任、通級指導教室担当を経験。その間LD研究会を立ち上げ、堺市周辺の特別支援教育に携わる教職員と共に実践・研修活動を展開した。また親の会を立ち上げ、当事者の保護者としても活動をしてきた。退職後、堺市教育センター専門指導員、プール学院大学講師を経て、現在NPO法人ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」所長として各市の巡回相談やペアレントトレーニング指導者として活躍。

日本LD学会特別支援教育士SV・学校心理士・臨床発達心理士として特別支援教育士やペアレントトレーニングトレーナー養成指導にもあたる。



主催：ひょうご女性未来会議 in あまがさき 実行委員会

〈お問い合わせ〉  
やんちゃんこ 尼崎市南塚口町2-4-23 アラカサビル3階 tel: 06-6421-8841

協力：園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部



地(知)の拠点整備事業中間報告会

# 「地域創生と経験値教育」

時 2015年8月30日(日) 11:00~16:30 所 園田学園女子大学3号館

## 第1部 基調報告・ポスターセッション

基調報告「地域創生と経験値教育」大江 篤(園田学園女子大学教授)  
ポスターセッション

## 第2部 経験値教育学生報告「尼崎で学んで」

## 第3部 地域志向教育研究フォーラム

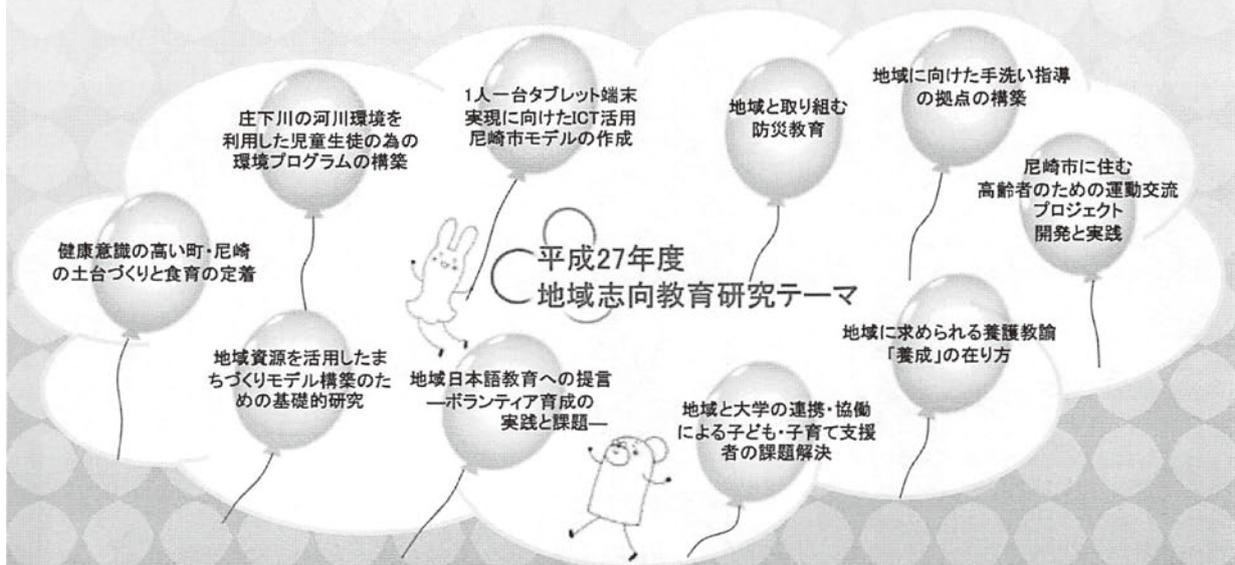
「エンターテインメントと怪異学ー大学で考える忍者・妖怪ー」

パネリスト 榎村寛之(斎宮歴史博物館学芸課長)

京極夏彦(小説家)

山田雄司(三重大大学教授)

コーディネーター 久禮旦雄(園田学園女子大学・三重大学非常勤講師)



\*参加無料\* 事前申込み制 (定員150名: 定員に達し次第締め切り)

主催: 園田学園女子大学地域連携推進機構

後援: 尼崎市・尼崎市教育委員会

協力: 東アジア権異学会

文部科学省  
地(知)の拠点

第2回

知(しる)×尼崎=つながる  
～つなご～る作戦Part2～



# キッズフェスティバル

会場: 園田学園女子大学

受付時間: 10:00～

※ブース時間: 11:00～16:00

参加賞受渡時間: 12:00～16:30

10  
± 17



おもしろ広場から  
ヤギがやってきた!

ヤギのサフロウくん・シロウくんと遊ぼう!

他にもいろいろあるよ!

①12:30～ ②13:30～ ③14:30～



るんるん

バルーン

～風船で遊ぼう!～

11:00～ いつでも来てね

三和プラモ工房

プラモデルを作ってみよう!  
11:00からいつでも参加できるよ

ひとり: 300円



やんちゃんこ

\* さかなつり (お菓子がもらえちゃうよ!)

\* くるくるらげを作ろう!

\* おはなしtime パネルシアター  
エプロンシアター

11:00からいつでも参加できるよ

ひとり: 100円

他のブースについてはうらを見てね!

参加して  
もらっちゃおう!



たのしくあそんで  
たのしくまなぼう!!

園田学園女子大学  
園田学園女子大学短期大学部  
SONODA  
SONODA Women's University / SONODA Women's College  
文部科学省

つなGirl Facebook  
キッズフェスティバルに関する  
情報も更新する予定です!



子育てフェスティバル 

# 立花地区子育てサークル交流会 & おねえさんといっしょにあそぼう！

平成28年2月10日(水) 10:00~12:00

園田学園女子大学 スポーツセンター2階 メインアリーナ

◆上靴と靴を入れるためのビニール袋をご持参ください◆

園田学園女子大学の学生による人形劇の実演、  
子育て・子育て支援についての講座開催、学生たちとのふれあい

にんぎょうげき「ぞうさんのぼうし」

わらべうたであそぼう

おねえさんといっばいあそぼう

子どもたちがおねえさんとふれあい遊びで遊んでる間、  
お母さんたちは4つの講座どれでも参加！

子どもの  
運動

子どもの  
救急救命

子どもの食

子育て支援

にんぎょうげき「おさるのかくれんぼ」



経験値教育

園田学園女子大学

園田学園女子大学短期大学部

◇お問い合わせ◇

地域連携推進機構

〒661-8520

尼崎市南塚口町7丁目29-1

Tel : 06-6429-9921

Fax : 06-6422-8523

E-mail : [chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp](mailto:chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp)



# 平成27年度 地域志向教育研究報告会

本学は文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の採択を受け、尼崎市における4つの地域課題、『健康づくり』『学校教育』『生涯学習』『子ども・子育て支援』の解決に向けた「地域志向教育研究」に取り組んでいます。

これを進めるにあたって、尼崎市、尼崎商工会議所や尼崎市社会福祉協議会など多くの組織との連携により、成果が表れています。その成果を皆様にご紹介させていただきますので、是非ともご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時：平成28年**2月11日(祝)**

**12:30~17:00**

場所：園田学園女子大学  
3号館2階 321教室(AVホール)



## 【プログラム】

開会 12:30(受付12:00~)

①他大学の取り組み紹介

眞鍋 和博教授(北九州市立大学)による基調講演

②地域志向教育研究 10プロジェクト成果報告

〈健康づくり〉〈学校教育〉〈生涯学習〉〈子ども・子育て支援〉

③大学と地域の今後

眞鍋 和博 北九州市立大学 教授

船木 成記 尼崎市顧問

大江 篤 地域連携推進機構 副機構長

閉会 17:00



お申込みは  
地域連携推進機構  
ホームページより

<http://www.sonoda-u.ac.jp/chiiki/>



参加  
無料

お問い合わせは下記まで

園田学園女子大学



園田学園女子大学短期大学部  
地域連携推進機構

TEL:06-6429-9921 FAX:06-6422-8523

Mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp

二〇一六年二月二十七日(土) 十二時開場/十三時開演

園田学園女子大学 二号館二階二二二教室 (定員五〇名)

# ふるさと怪談トークライブ in 尼崎

## ◆フログラム◆

### 趣旨説明

東雅夫(文芸評論家)

### 第一部

怪談を語る「お菊と虫をめぐる」

今井秀和(進化文化学研究所研究員)

久留島元(同志社大学嘱託講師)

東雅夫(文芸評論家)

### 第二部

### 怪談実演

宇津昌雄太郎(怪談作家)

貞田和(怪談作家)

長瀬英貴(映画コメンテーター)

### 第三部

### 災害伝承と怪談

門賀美央子(ふるさと怪談トークライブ事務局)

大江篤(本学児童教育学科教授)

入場料500円(前席)

実行委員会 園田学園女子大学 学芸部 学芸課

### ■お申し込み

氏名連絡先(電話番号)メールアドレスを添えて、次のいずれかの方法で事前にお申し込みください。会場は定員五〇名です。

①メール: [chikitrakei@sonoda-u.ac.jp](mailto:chikitrakei@sonoda-u.ac.jp)

(園田学園女子大学地域連携推進機構)

②Twitter: @hurusatokvaiden (stark rccna)

③FAX: 06-6429-5877

(園田学園女子大学地域連携推進機構)

### ■お問い合わせ

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

園田学園女子大学地域連携推進機構

文部科学省 地(知)の拠点

■主催 「ふるさと怪談トークライブin尼崎」実行委員会  
■共催 園田学園女子大学地域連携推進機構  
■後援 尼崎市 尼崎市教育委員会



園田学園女子大学  
大学連携による地域力向上事業  
シンポジウム

● 災害の記憶を次世代に伝える ●

地域資源を活かした安心・安全な街づくり

豊岡市は、大正 14 年(1925 年)の北但大震災や平成 16 年(2004 年)の台風 23 号などの地震、風水害により甚大な被害を受けた経験があり、防災に関する様々な取り組みがなされています。しかし、近年、少子高齢化の進展が著しく、若年層人口の流出も大きな中で、地域の防災力を高めることが重要な課題となっています。

園田学園女子大学は今年度、日高町の小学生とともに地域の良さを再認識、再発見するワークショップを開催しました。その成果をふまえ、安心・安全なまちづくりを進めていくために、災害の記憶をどのように次世代に伝えることができるか。このシンポジウムでは、地域で伝えてきた記憶・記録の継承について考えます。

日 程： 2016年2月28日(日)  
時 間： 13:30~16:00  
会 場： 日高農村環境改善センター  
参加人員： 50名  
参加費： 無料

主催：園田学園女子大学  
協力：豊岡市立歴史博物館—但馬国府・国分寺館—  
後援：豊岡市教育委員会



—プログラム—

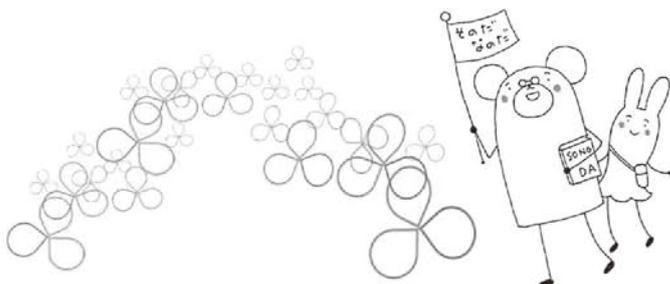
13:30~14:10 第1部 豊岡市の災害の記憶  
発表者 松井敬代(豊岡市立歴史博物館 副館長)  
14:10~14:20 休憩  
14:20~15:20 シンポジウム「災害の記憶を次世代に伝える」

パネラー 野呂千鶴子(園田学園女子大学教授・公衆衛生看護学)  
上相英之(神戸学院大学現代社会学部研究員・金石学)  
石原凌河(人と防災未来センター研究員・地域防災)  
コーディネーター 大江篤(園田学園女子大学教授・日本民俗学)

お問い合わせ・お申込み

園田学園女子大学  
園田学園女子大学短期大学部  
地域連携推進機構

〒661-8520  
兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1  
Tel :06-6429-9921(直通)  
Fax:06-6422-8523(代表)  
E-mail:chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



# 大学COC事業における政策提言発表会

文部科学省は、大学と地域・自治体との連携を促進し、大学が地域コミュニティの中核的な拠点となることを目的に「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を実施しています。

尼崎市内では、兵庫県立大学、園田学園女子大学の2大学が市内をフィールドとして、COC事業を実施しています。

今回は、その事業において学生たちが尼崎市の課題解決に向けて調査・研究・立案した政策プランの発表会を開催します。

- とき 2016年(平成28年)3月8日(火)  
14:00～17:00 (開場13:30)
- ところ 尼崎市立教育総合センター  
4階 視聴覚室  
兵庫県尼崎市三反田町1-1-1

## 園田学園女子大学

### 発表①「さんさんタウン活性化大作戦」

「大学の社会貢献」の授業で、尼崎の現状を学び、フィールドワークで塚口さんさんタウンの現状を知りました。その学びを通して私たちがテーマに取り上げたのは「学校教育」と「塚口さんさんタウンの活性化」です。塚口さんさんタウンの活性化にもなり、様々な層の人たちが一緒に集い、児童、生徒の成績upにもなる場を地域や学生、先生が一体となって作っていきます。

### 発表②「企業と学生がつながる尼崎産業の魅力発信」

エーテルワイスさんに企業訪問させていただいて、様々なことを教えていただきました。それをふまえて、取材の際に私たちがどのように考えたか、PRチラシにはどのような思いを込めたかをお話しさせていただきたいです。また、私たちの考えた「住みたい街」「活気ある街」とエーテルワイスさんの活動の共通点、企業側のおもてなし精神がどう人と繋がりをつくるのかを企画し提案します。

### 発表③「地域で交通事故を0にしよう」

「社会人基礎力演習」の授業で、尼崎市立富松幼稚園へ観察実習に行き、園児の交通の面での危険な箇所などの現状を知りました。その学びを通して私たちは「地域」と「交通安全」をテーマに幼稚園の子ども達が安全に遊んだり登園できる環境を、子ども達、地域、教師、学生、ボランティアで協力して一緒に作り作って行きます。そして、それを富松幼稚園で実施する企画を提案します。

### 発表④「これからもずっと佐瑛が丘の緑とともに生きていくために」

佐瑛丘公園は、猪名寺廃寺を中心に広がる歴史ある場所です。この公園は昭和30年に森をありのままの姿で残すため、風致公園として都市計画決定がなされました。そんな公園に対して地域の人々が興味を持ち、後世もこの森を守ることができるように私たち大学生ができることを考え、猪名寺自治会の協力のもと「忍者学校」を行いました。この行事の有効性とこれからのまちづくりについて提言します。

## ●プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 開会挨拶(稲村和美尼崎市長)
- 14:10 発表①「さんさんタウン活性化大作戦」(園田)
- 14:30 発表②「企業と学生がつながる尼崎産業の魅力発信 ～人との繋がり私たちの未来～」(園田)
- 14:50 発表③「地域で交通事故を0にしよう」(園田)
- 15:10 発表④「これからもずっと佐瑛が丘の緑とともに生きていくために」(園田)
- 15:40 休憩
- 15:45 発表⑤「CSR・CSV活動による企業成長と地域活性化—尼崎の企業を例に」(県大)
- 16:15 発表⑥「地域密着型小売業と宅配業者の連携による宅配事業と今後の展望」(県大)
- 16:45 講評・閉会挨拶(稲村市長・村山副市長)
- 17:00 閉会

## 兵庫県立大学

### 発表⑤「CSR・CSV活動による企業成長と地域活性化—尼崎の企業を例に」

近年、地域が抱える課題解決に向けてSB、CBなど「新たな公共」に大きな期待が寄せられています。しかし、課題解決を面的に広げていくため、企業の社会貢献、地域貢献活動にも同様の期待が寄せられています。そこで、兵庫県立大学では尼崎市内の大企業、中堅・中小製造業、大手スーパーや商店街など小売業にアンケート調査とヒアリング調査を実施しました。その結果からわかった「企業の社会的責任」であるCSRや、「共通価値の創造」であるCSVの取組実態と、今後の課題の解決に向けた方策を提案します。

### 発表⑥「地域密着型小売業と宅配業者の連携による宅配事業と今後の展望—シャンティかんだの取組を中心に」

昨年度事業(「尼崎市の地域密着型小売業の現状と課題」)の中で、都市部である尼崎市内にも買物弱者が存在すること、それに向けての対応策を提案しました。今年度はそれを受けて、実際に市内食品スーパーと地元宅配業者とのマッチングや宅配事業実施に向けた調整を行い、社会実験的に宅配事業を実施しています。今後、消費者に当事業の認知度を高めていくことが課題となっており、それに向けた方策を提案します。



兵庫県立大学  
UNIVERSITY OF HYOGO

尼崎市



文部科学省  
地(知)の拠点

この政策提言発表会は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の一環として実施されます。



不時之開帳不許之也  
此条々当寺代々之住持守之聊不可違犯也

と旧友也。一日小浜に至りて、浄光の事を語る。居士聞て曰、我に御長一寸八分。閻浮檀金の観音。并記文あり。撰州河辺郡。補陀洛山浄光寺と記せり。今君がいふに不違。すみやかに此聖像を其地に奉遷しべし。尔といへとも。常と浄との違あるを以て。予疑いふかる而已也。元格住所に帰て。予及村の長某を招て曰。当寺往古の本尊。并縁起。今小浜にありと。長聞て不諾。即曰。其旧記に所書の寺号ハ。文字如何。元格の曰。浄光なり。常と浄と違あるを以て。居士もいぶかるといふ也。長拵て曰。今の常光ハ真にあらす。いにしへハ浄光也。五十年前に本尊を失ふより。常光と改といへとも。年久しくして。人知事なし。かるかゆへに。文字を問ふなりと。是によりて。予元格と共に。村の老翁河村の某を呼て。いにしへの語伝を聞に。旧記と違ことなし。村人歡喜踊躍し。新に草堂を構へ。路橋を作り。郡吏出原氏忠政。菩提心をおこして。行樹を植。蓮池を鑿。十方の善男善女。種々の寄進。善盡し美盡して。靈尊の来臨を待。奉り。閏三月三日。予并村の長。鳳輦を小浜にはせて。本尊を

迎奉り。本山智積僧正信盛公。若干の清衆をつかわし。弘誓の龍舸。幢幡華籠。音楽を奏して。安座なし。奉り。日々の法事。おこそかにして。一七日帳をかゝけて。十方の四衆に結縁せしむ。瞻礼の男女。日々に群集して。尔も靈感を得る人多し。村人伝いふ。いにしへより平産を祈る人。鐘の緒を請得て。帯なすに。難産あることなしと。このゆへに俗呼て。子安の観音といふなり。且いにしへの例にまかせ。毎年三月十八日を観音会となし。此日帳をかゝけて。礼拝せしむ。且正月八日富会。十七日千度礼拝会をなして。冥福をいのらしむ。かるかゆへに。旧記を補て。其始末を記し。不朽に垂といふ。

于時貞享三年臘月十八日  
 当山中興沙門権大僧都法印性海敬述

定法 性海白  
 一 当寺本尊総開帳自今以後可為廿一年目  
 此時十方所々可立札也  
 一 毎年三月十八日之法会一日之外開帳  
 不許之但不可立札也  
 一本寺之住持并諸宗名徳之智識或当村  
 之守護或天下之奉行人格別此外一切

を造り○或ハ供田を寄事○凡四百貫に及び○  
殿堂僧坊○いらかを並て○丹輝碧明○林岳を  
照曜せり○時に住持大僧都頼鏗○其金容  
を○人の望をか○事を恐れ○文保元年の秋○  
洛陽の良工を招て立身五尺余の聖像を  
きざましめ○縁起を記し○紫金容と共に○其  
像中に安置せしむ○永正十七年の○春尼  
崎の城主○細川武藏守高国○当刹に護摩  
堂を建立して○居城の鬼門を覆ふ○其後  
伊丹城主○荒木撰津守村重○宿願ありて感  
応を蒙がゆへに○伝法院の辺にして○香油田  
を寄附せしむ○昔より俗呼て○此所を浄光寺野  
といふゆへ也○供田総て五百貫也○時に天正  
七年の秋○伊丹落城の兵火に罹て○仏閣  
僧坊煙燼す○所謂観音堂○護摩堂○大師  
堂○鐘楼○大門○閼伽井殿○鎮守九社○并  
光明房○辻坊○乾坊○池坊○中坊○奥坊○三松  
坊等也○司僧哀て○漸小堂を造り○興復  
の時を待といへとも○豊臣公の治代に至りて○  
累代の供田没収にあふて○僧坊ことくく  
滅亡し○剩寺号を奪て○村の名と呼がゆへに○  
別に小院を締て○慈眼院といふ○時に慶長の  
年間に高潮おこり○小院漂ひなかれて○其  
至所をしらず○住僧慶海慨て尋慕○本

尊を伝法の浦に迎て帰○草を結て安置し○  
是より特更におとろへ○守り奉る僧あらず○  
詣の人もなし○只荊菴生茂りて○野干の  
栖となり○卒に盜賊のために本尊を失ふ○  
尔しより境内も田畠となり○仏閣僧坊も名  
のミ残りて迹形なし○このゆへに今の世の人○  
靈地なる事をしらず○時に貞享丙寅の  
春正月下旬○小子海夢中に○西国三  
十三所を巡りて○観音を礼す○其像金色に  
して○光輝目を奪ふ○夢醒て奇異の念を  
なす○時未ザル超月の間○法界寺村の一信士  
志願をおこし○靈像の観音を撰て○近  
郷三十三の巡礼所を○浄光寺も其数  
に載といへとも○靈尊もあらず○寺の由来も  
分明ならざるかゆへに○予如何ともする事  
あたはず○唯此事を思ふに不忍○肆に  
一人の隱逸居士正和といふ人あり○久しく  
小浜の里に住○善をおこなふを以て聞ふ○  
往年能勢の一院に寓りて○一寸八分紫金  
容の観音○并節略の記文を得たり○其  
慈容妙相靈成を以て○一堂を造り○衆  
人に瞻礼せしめんと○思ふといへとも○力願に  
不協て○星霜旧たり○時に杉山氏元格  
といふ人ありて○浄光寺の村里に居し○和居士

貫天正七年伊丹城陷罹其兵火一旦

蕩為塵埃所謂觀音殿護摩大師

二堂鐘樓三門闕伽井殿鎮護九

社口棲僧之坊七凡金碧之区倏幻

為瓦礫之場荒炯野燐更互明滅司

5

僧慨焉就基址結茅以居默有恢

復之志又值豊臣公之御世藉没田林寺

尔不能獨存徒以其寺銘鄉村而已故

別構小院曰慈眼慶長秋海潮入浸人

家淹没故其衡宇例尔漂流不知抵止

時僧慶海泣迎大士于伝法之浦而帰

掃砂礫架竹木以安置焉□此荊藜

日茂卒成荒墟又復風雨震凌摧塌

弗支使人有悽然之思像尔不存久而

俗以常光呼之蓋浄興常以日音相

近故也延宝年中今法印性海乘其

夙願来主其寺補苴罅漏以備風

「浄光寺縁起」5

浄光寺所蔵

解説・翻刻文入力 二〇一五年二月 山本勝三(尼崎の近世古文書を樂しむ会)

フタラクサンジヤウクワウジチウユウキ  
補陀洛山浄光寺重興記

旧記に曰○撰州河辺郡○補陀洛山○浄光寺ハ○

むかし天長年中に○弘法大師の開たまふ所○伝聞

いにしへ此所ハ○海岸の洲○鴛鴦の屯なりと○岸

の辺○夜々光て海波に映ず○漁夫の□相語て○

奇怪の念をなせり○時に沙門慧満といふ人あり○

昆陽に居す○一夜夢に金身の觀世音の像を拝す

像告曰○仏放一光○我及衆会○見此国界○

種々殊妙○諸仏神力○智慧希有○放一浄光○

照無量国と○夢卒に惺○満嘗て其靈光の

事を聞○復夢の事によりて○黎明此海辺に来○

波岸を撃○柳根を洗ふを見れハ○紫金の居士

像在○恰も夢見るがことし○満即合掌○僧伽梨

衣をのへて奉迎に○立身一寸八分○其慈容妙

相○殆凡間の所為にあらざ○歡喜踊躍して院に帰○

是を秘事数年也○其後大師得□○一字を

此地に造り○靈像を安置す○海岸を以て○山

を補陀洛と呼○放一浄光の句をとりて○浄

光寺と名付○爾しより年々昌にして○然も靈

感日々新に○瞻礼の男女○杳を垂て不絶

なり○此国代々の守護○武運を折て○或ハ伽藍

「淨光寺緣起」4 淨光寺所藏

解説・翻刻文入力 二〇一五年二月 上浦（尼崎の近世古文書を樂しむ会）

○ 二〇一五年三月一三日原本校正完了（地域研究史料館・中村）

1

撰州補陀洛山淨光教寺重興記

撰州河辺郡有寺曰淨光山号補陀

洛古天長年間大師空海所闢久荒

廢而弗治迨丙寅春重興沙門性海

以居士正和之書為紹介以新舊記

文離為兩軸徵予文以綵叙之先

按節畧古記曰昔撰州津海南之洲

夜有神光每隱映于激灑之間蜚

叟之伝相語為異焉岿沙門慧滿

者居崑陽夜夢礼金身宝陀大士

之像像有声曰仏放一光我及衆

会见此国界種々殊妙諸仏神力

2

智恵希有放一淨光照無量国

疑訝之間夢卒寤焉滿嘗耳其神

光之事復因夢告黎明出海浜徐

步鷗辺時水波拍岸楊柳洗根

応拳目忽觀金大士像恍若多

事滿即合掌扑躍展僧伽梨衣

迎接瞻礼則其長不過一寸八分慈

容妙相殆非凡間之所有者遂奉

歸庵秘重不敢言將數十年矣

後大師得之締一字於此地安置

靈像而以其瀕海取名補怛洛寺

3

為淨光者尔応夢兆也自時靈感

日新歸嚮者載道無虛日次按

新記曰厥后来守斯邦者祈武

門之命運各捐私橐之積以興造

為已任而彫甍綉闥照映林壑且

設食之田所輸凡四百貫拾薪之林凡

若干所皆文保元年穉住持僧頼

鑿者以其金質恐人侵掠召洛陽

善工者別造木大士像凡數尺復

書上所謂節畧之文併藏于新像之

中焉地距州之尼崎方二俱盧舍

而寺正坐其城樓之鬼方故崎主為

4

細川武州守諱高国「昇」建護摩堂于

永正十七年春備禳不祥之氣復有

「香」積田在伝法院旁者故伊丹城主

荒木撰州刺史諱村重在為禱事還愿

而置古來俗呼其隣近曰淨光寺野

豈非地靈有待邪考其所収凡五百

ならず○しかる所に○貞享丙寅の中春○三  
 十三所の○靈地巡礼はじまりて○当山も其数に  
 入といへとも○古来の本尊もなく○由来分明  
 ならざるがゆへに○小子なげきて○終夜ま  
 なこを閉事なし○時に此北やまざとに○  
 隠逸道者○某居士といふ人あり○是を  
 伝聞ていわく○われに御長一寸八分○閻浮  
 檀金の聖観音并○古筆の縁起あり○  
 摂州河辺郡○補陀洛山浄光寺と記  
 せり○是其地古来の本尊ならずや○我是  
 を得てより○一堂建立の願あり○いま幸に  
 安置したてまつらんと○思ふといへとも○其寺号  
 を聞ハ○常光と書がゆへに○其寺の本尊  
 にハあらじと○小子やむことを多しして○此  
 村の老農を集○たづぬれハ○むかしは  
 浄光なりしを○中古より常光と書加へ  
 たりといふ○いにしへの談伝を今聞に○一  
 として○かの縁起に○たかふ事なし○このゆへに○  
 かの本尊を迎て○安置したてまつり○ふた  
 たび靈地をおこし○いにしへの法例にまか  
 せて○毎年三月十八日を観音会となし○  
 いまより以後○此日ハ帳をかゝげて○縁の  
 ために○瞻礼せしむ○且伝いふ○いにしへより  
 平産をいのる人○ついに難産ある事

なし○かるがゆへに○俗呼て○小安の観音  
 とハ○いふなり○

于時貞享三年三月十八日  
 当寺中興大僧都法印性海記之

本願知足隱人筆之  
 印 印

長老寸八分。閻浮檀金の尊容なり。是を

守りたてまつりて。院に帰。ふかく秘して。世にあら

はさざる事。数十年なり。其後弘法大師。

この聖像を得たまひ。天長年中。此所に。

一字をかまへ。尊像を安置して。観音浄土となし。

南海の岸なるがゆへに。補陀洛山といひ。

の浄光をはなつといふ句によつて。浄光寺と

名付たまふ。しかしより。さかりさかんにして。靈感。

かふむる人。かぞふるに。いとまあらず。あゆみを

はこぶ。貴賤男女日々に沓をついて。たへ

ざる也。世々此国の守護。武運のいの

りをなし。或ハ伽藍をつくり。或ハ黄金を捨て。

供田をよする事。およそ四百余貫にみてり。

時に当山の住持。大僧都頼鏝。盜賊の難

を恐て。文保元年の秋。洛陽の名工を召よせ。

観音の大像を。きさましめ。少縁起を書。

かの紫金容に添て。其御頭の中に。納たて

まつりぬ。其後尼崎の城主。細川武蔵守高国

源公。永正十七年の春。当山に護摩堂を立て。

居城の鬼門を。まもらしめ。其後伊丹の城主。

荒木摂津守村重公。宿願あり。竟に感応

をかふむるがゆへに。伝法院の辺に。いて。

灯明田を寄附したまふ。彼地由来ありて。

すべて。五百貫なりき。時に天正七年の秋。

伊丹落城す。此兵火に罹て。仏閣僧坊こと

々々。焼失せり。いわゆる観音堂。護摩堂。大

師堂。鐘楼。大門。閼伽水殿。鎮守九社。并

光明坊。三松坊。乾之坊。中之坊。辻之坊。池之坊

奥之坊等なり。持僧かなし。みやうやく。かり

堂をかまへ。誦経振鈴を。こたらずして。再

興の時を待所に。豊臣の治世に至り。寺

領。没収せられて。僧房退転し。あまつ

さへ。寺号をもつて。村の名とよばしむ。かる

がゆへに。別に名付て。慈眼院といふ。其

後慶長年中に。高濑うつて。所々の人家

破滅す。此時において。当山のかり堂本尊

ともに。漂ななれ。住持慶海慕たつねて。

伝法の浦より。本尊を迎帰り。わずかなる

草の堂をむすびて。安置したてまつりぬ。

是よりことさらに。をとろへはて。しかも

守人たにもなし。雨露いと。滴。観音の

尊像日々に破壊。もふての人なけれハ。を

のつから。荊葎生茂りて。野干の棲と

なりぬ。いつれの日にか。盜賊のために。本

尊を失ふ。境内も田畠となり。仏閣僧坊

の。名は残とも。あとかたなく。幽なる庵

而已なり。此ゆへに。世の人。霊地なる事を

其詞云

断金契熟数年余  
相化疎情如水魚

6

君得病痾臥床蓐  
我嘗藥石考医書  
心随清月一天淨  
身逐飛花千歲虛  
聞寂林頭斜影縮  
涼風生處寶池蕖

平野玄水稿

元禄四年辛巳林鍾上絃日

「浄光寺縁起」3

浄光寺所藏

解説・翻刻文入力 二〇一五年二月 山本勝三(尼崎の近世古文書を樂しむ会)

○ 二〇一五年三月一三日原本校正完了(地域研究史料館・中村)

フタラクサン ジヤウクワウジ リヤクエンキ  
補陀洛山○浄光寺○略縁起

夫○撰州河辺郡○補陀洛山○浄光寺ハ○

弘法大師の開基なり○伝聞○むかし○この

所は○海岸の洲崎にして○鴛鴦の栖

なりと○岸のほとり○夜々光を○はなちて○

波を○かゝやかす事○月あまりなり○漁人

是を見て○奇異の念をなし○あやしめり○

時に慧満といふ○沙門ありて○崑陽寺に

すめり○夜夢中に○金身の觀世音を礼す○

時に像告たまはく○仏放一光我及衆会○

見此国界種々殊妙○諸仏神力智慧

希有○放一浄光照無量国と○すなはち

夢さめ○文字にうつして○是を見れハ○法華

經序品の偈なり○慧満嘗て海岸に○

光ある事を○伝聞がゆへに○一浄光を○

はなつと○いふの句によつて○明の日○海の辺に

往て○こゝかしこと○うかゝひ見れは○波岸を打○

柳根をあらふ中に○聖觀音の像○あらはれ

たり○慧満よろこび○をどりて○掌をあわせ○礼

拝し○袈裟を延て○迎たてまつり○是を見れハ○御

聚詣拜此大悲之尊前所望  
悉滿足祈願亦成就是併定僧  
博雅之清淨心遍徹神明感  
應奇瑞最鳴于世者何以文  
繁記之哉抑此宥宝者水戸之  
產姓氏為武家天資英拔奇  
才之質自弱冠剃髮上京洛  
学遊智積院日夜勤勞異于

3

他久親炙先達道人探真言  
不思議「蹟」寔可謂此道之干

城也然宿因所感終留于此  
地已有年矣薨宇彫弊基柱  
頽蠹雪霰淋漓于床頭草欲  
埋善逝因之意為革故之凶  
微力非可及鷄助無奈甲徒  
經居諸令也幸時熟翬飛之  
麗屢氣之奇衆皆望之欣  
然而競集而謀之元祿三年  
秋先當村之氏神鎮守社造  
4  
營之次創持仏堂庵室五間  
廻廊客殿方丈酒鳩工聚材  
村里老穉亦助土木之役實

徑始翌年正月落成全釵首  
夏雖不善盡美盡斯恰似  
竹苞松茂雖不可籠罩広  
衆足合爨修數輩矣漸欲  
移徙之時節宥宝罹于病  
患矣四月上絃之日某急詣  
而診脉而令治療之藥力雖  
有応驗未能全除邪氣因茲  
辞也村夫寄集而議而又改

5

医間似有驗更無本復色日  
往月來林鐘上旬之頃時氣  
之暑燠甚侵病床故元氣次  
第衰身軀日々羸瘦食減不進  
終者亡之命矣夫久不可住□  
易簣之日定在近矣嗟歎可  
惜々々齡未足頽白今年四十四  
桑榆影促蜉蝣垂暮某與  
宥宝相約而契盟不寒多年  
□□□他殆如遊魚得水故  
欲以我身易之不能救其命  
某痛腸之餘信筆述微思而  
成淚辞一章

6

「浄光寺縁起」1 浄光寺所蔵

奉納新刻像中略縁起

夫撰州河辺郡補陀洛山浄光寺者天長年中弘  
 法大師之開基也  
 伝聞往昔海岸洲崎鴛鷗屯也、岸頭夜々放光  
 映海波矣、漁夫見之為奇恠月  
 餘也、時有沙門慧滿者居崑陽、一夜夢中礼  
 金身觀世音像、告曰佛放一光我及衆会见  
 此国界種々殊妙諸佛神力智恵希有放一浄光  
 照無量国即夢惺滿嘗興有彼放光  
 故因放一浄光句而明日到見海辺水波擊岸柳  
 樹洗根之中金容觀世音顕然矣滿  
 歛喜踊躍合掌礼拝而延僧伽梨奉迎尊容有之  
 立身一寸八分□満護之帰院未  
 露世数十年化其後弘法大師得之、締構一字  
 於此地安置尊像而□觀音淨刹  
 西方海岸故名補陀洛山以放一浄光句故号浄  
 光寺也、□□年々昌隆而靈感不  
 少敬礼男女一曰亞沓不絶也、云云  
 皆文保元年七月十八日 當山住持沙  
 門権大僧都 頼鏝 欽書

「浄光寺縁起」2 浄光寺所蔵

解説・翻刻文入力 二〇一五年二月 上浦有雅（尼崎の近世古文書を樂しむ会）

○ 二〇一五年三月一三日原本校正完了（地域研究史料館・中村）

撰州河辺郡尼城廿余町北東有  
 村里中補陀洛山浄光寺靈蹤之  
 古地昔七堂伽藍之法窟也今纔  
 有一町余四方星霜古興廢共世  
 變邈不可稽凡伝聞於永正年中  
 之頃猖獗衽金之網張空爪牙之  
 舍換地至若庸此伽藍為賊巢穴  
 剩使兵火悉燒失訖隣村之居民  
 洊慘焉厥後啻因襲遺趾構  
 一箇蝸宇為聖像安座毳徒  
 容膝之所而不識此何人所嘗  
 也天和中宥宝来遊之次愛  
 竹林網緼池水之氣清麗念  
 2  
 卓錫于茲且居之恒不勝滲漏  
 之憂因謀衆而先建一堂則安  
 置大悲之像從是增輝靈光  
 至威德唱道隆時々入清淨殿  
 密教加持護摩法其德行大盛  
 而諸人斗仰近国之貴賤磨

の方々による成果で、地域史料館中村光夫氏による監修を経て公開した。なお、貴重な史料の調査、公開にご協力いただいた浄光寺住職、水谷修夫氏に深謝したい。

尼崎市公式サイトによる指定文化財の紹介によれば、

縦 112cm、横 87.5cm。この絵は、天長年中（824～834）に空海が浄光寺に堂舎を建てる以前、釈惠満という僧が、海中より放光する金像を得て歓喜するところから始まります。南北朝の内乱の時には南朝方の楠木・和田勢と浄光寺の地に城を構えた箕浦次郎左衛門俊定との合戦、寺の焼亡の部分、寺の再建と本尊の安置供養までを絵巻風に二幅に描きわけています。

濃彩による作風は、桃山時代に盛行した風俗画の作風に共通するものをもつことから、町絵師が出現し始めたと考えられる慶長・元和（1596～1623）頃にその作画期が考えられる優品です。

尼崎の文化財

(<http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/bunkazai/index.html>)

本稿は二〇一六年四月に刊行を予定している『尼崎百物語』（神戸新聞総合出版センター）に掲載予定の「浄光寺縁起―戻ってきた仏像―」をもとに一部を改稿し掲載した。

（大江篤）



慈眼院と改称した。

(キ) 慶長年中(一五九六〜一六一五)に高潮の被害を受け、仮堂と本尊が流されてしまう。住持慶海が探したところ伝法の浦から本尊を迎える事ができ、草堂に安置してまつっていた。ところが寺は荒廃し、いつの日か盗賊に盗まれてしまった。

(ク) 貞享三年(一六八六)に川辺郡三十三所巡礼がはじまり、札所寺院に加わったが、本尊もなく由来もわからず住持性海が嘆いていたところに、隠逸道者の某居士という人が、一寸八分の金の観音像と古筆の縁起を持ち、縁起には「摂州川辺郡補陀楽山浄光寺」と記されているので堂を建てて安置したいと申し出てきた。当時は寺号を「常光寺」と称していたために本尊ではないと性海は思ったが、村の老農を集めて尋ねたところ、かつては「浄光」であったのを「常光」に変えたといい、昔からの言い伝えと縁起に違うところがあったため、毎年三月十八日を観音会と称して、この日に開帳した。また、言い伝えに安産の祈る人が多かったので「子安の観音」という。

(ク)の部分については、④「補陀洛山浄光教寺重興記」に少し詳しい内容がある。性海は夢の中で三十三所を巡り、金色の観音と出会う。その後、法界寺村の人が川辺郡三十三所巡礼を開き、浄光寺が札所寺院になったのである。しかしながら、本尊もなかったところ一寸八分の金の観音像を持ってきた某について、小浜の里に住む正和という人物であり、能勢で観音を手に入れた。この正和がこの地の杉山元格と旧知のなかで、小浜で観音を拝した。ところが「常」と「浄」の字が異なることを不審に思い、村に帰って、性海と村長の某に相談したところ、五十年前に本尊を失ったことにより「常光」と改めたが、知る人がいないとい

った。さらに、性海と元格は、村の老人河村某に尋ねたところそのとおりとのことだった。そこで村人は喜んで新しい草堂を構え、郡の役人出原忠政は樹木を植え、蓮池を掘り、善男善女が寄進した。そして、貞享三年閏三月三日に性海と村長が鳳輦で小浜から浄光寺に迎えた。この時、智積院の正信が導師をつとめた。

さらに、「子安の観音」については、

村人伝いふ、いにしへより平産を祈る人、鐘の緒を請得て帯となすに、難産あることなしと、このゆへに俗呼て、子安の観音といふなり。

とある。この縁起の末尾には、定法があり、本尊の総開帳は二十年に一度、毎年三月十八日の法会の日だけは開帳があることが定められている。

浄光寺の観音は、災害・盗難と二度、行方知れずとなったが、再び寺に戻ってくる観音であった。この寺の再興にあたっては、中興の性海の力が大きく、貞享三年が起点となっている。

現在の浄光寺の門前には「川辺郡三十三所観音巡礼第二十一番」と刻まれた宝暦八年(一七五八)の石碑があり、札所寺院となったことがこの寺が復興できた要件の一つであろう。

二種の縁起絵には、巻子の縁起に含まれていない場面の絵も含まれており、絵の内容の読み解きや本尊の御開帳と縁起絵とのかかわりなど、浄光寺観音像をめぐる伝承についての興味は尽きない。

二〇一五年一月五日に、尼崎市立地域史料館との共同で、市指定文化財である『浄光寺縁起絵』および関連史料の調査をさせていただいた。成果は後日報告する予定であるが、今回は五点の文字縁起について翻刻を掲載する。本文は尼崎郷土史研究会内「尼崎の近世古文書を楽しむ会」

## 『浄光寺縁起』について

浄光寺は、尼崎市常光寺宇奥ノ坊（現常光寺三丁目）にある真言宗の寺院。山号は補陀洛山、院号は慈眼院。

『撰陽群談』（元禄十四年刊、一七〇一）巻第十四、寺院の部には、天長淳和帝の御宇、弘法大師の開基、郡内昆陽寺の僧恵満比丘、武庫の浦に於いて大悲像（一寸八分）一軀を得て当院に安置す。

とあり、同書に引く『伽藍開基記』には、天長年間（八二四〜八三四）に恵満が夢のなかで金の観音像を礼拝した翌日、浜辺で光を放っている海中から一寸八分の観音像を発見する。庵に安置し、数十年経ったころ弘法大師がこの地にやってきて、この像に感じ入って伽藍を構えたと記されている。この金銅観音像は秘仏として浄光寺に安置されている。

さて、浄光寺には、この仏像をめぐる縁起が数種類伝わっている。二種類の掛幅の縁起絵と五種類の卷子である。

卷子の縁起は次のとおりである。

- ① 「奉納新刻像中略縁起」（文保元年、一三二七）
- ② 「補陀洛山浄光寺略縁起」（貞享三年、一六八六）
- ③ 「撰州補陀洛山浄光教寺重興記」（貞享三年、一六八六）
- ④ 「補陀洛山浄光教寺重興記」（貞享三年、一六八六）
- ⑤ 「有宝弔辞」（元禄四年、一六九一）

①が最も古い年紀を持つ。末尾に「当山住持沙門権大僧都頼鏝」とある。年々の霊験が少なくなき、男女のお参りが絶えないと記している。文保元年に新しく制作した観音像の頭部に、この仏像を納入する際に、一緒に納入したものであった。

貞享三年に①三月十八日②九月九日③十二月十八日と三つの縁起が書

かれている。①②では浄光寺の中興性海が記した③を中心に紹介したい。

（ア）海岸で毎夜光を放つ不思議なことがあり、漁夫たちはこれを見てあやしんだ。

（イ）ある時、昆陽寺の恵満という僧侶が、「金身の観世音」を礼拝する夢を見た。そして、仏像から「仏放一光我及衆会见此国界種々殊妙諸仏神力智恵希有放一浄光照無量国」というお告げがあった。これは法華經序品の偈であった。恵満は偈の「一浄光を放つ」という句から、かつて海岸に光があることを伝え聞いていたことを思い出し、翌朝、波打ち際を探していると正観音像が現れた。恵満は喜んで合掌して礼拝した。一寸八分の金色の尊像であった。これを数十年間秘かにまつっていた。

（ウ）天長年間（八二四〜八三四）に弘法大師が伽藍を建立し、観音浄土なので「補陀洛山」の三号を、光を放つので「浄光寺」の寺号を名付けた。その霊験を得ようと多くの人々が参詣し、国家の守護や武運を祈るために寄進する者が多くあった。

（エ）文保元年（一三二七）浄光寺の住持頼鏝が仏像を盗難から防ぐため、京都の仏師を召して大きな観音像を造り、その頭部に、小さな縁起書とともに観音像を納めた。

（オ）永正十七年（一五二〇）細川高国が護摩堂を建て、居城の鬼門の守りとし、荒木村重が伝法院の辺りの地を灯明田として寄進した。そこは浄光寺野という。

（カ）天正七年（一五七九）の伊丹城の落城の戦火でこの寺は焼失する。その時の伽藍は、観音堂・護摩堂・大師堂・鐘楼・大門・閼伽水殿・鎮守九社と光明坊・三松坊・乾之坊・中之坊・辻之坊・池之坊・奥之坊等の塔頭があった。豊臣氏の時には寺領も没収され、寺号が村名となり、

## 地域連携推進機構年報 第3号

2016年3月発行

園田学園女子大学地域連携推進機構

<http://www.sonoda-u.ac.jp/chiiki/index.html>

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1

Tel 06-6429-9921

Fax 06-6429-2307

M L [chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp](mailto:chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp)